第 23 回参議院議員通常選挙全国意識調査

調査結果の概要

平成２６年４月

＜目次＞

調査の設計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1Ｐ

標本抽出方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

質問表と回答の単純分布・・・・・・・・・・・・・・・・6

調査結果の概要
１　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14

２　投票率・選挙競争率・選挙違反検挙状況・・・・・15

３　選挙への意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

４　投票参加率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

５　棄権の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39

６　投票行動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

７　政治的志向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51

８　選挙関連情報源・・・・・・・・・・・・・・・・・・60

９　選挙制度関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64

10　清潔度の印象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66

はじめに

当協会は、参議院議員通常選挙における有権者の投票行動と意識を探るため、全国の有権者 3,000 人を対象とした意識調査を行ってきました。

第 23 回参議院議員通常選挙（平成 25 年 7 月 21 日）についても、これまでと同様に、全国の有権者 3,000 人を対象としましたが、調査方法をこれまでの面接調査法から今回、郵送調査法に改め、実施しました。

この報告書は、調査の設計、質問表及び回答の単純分布等を記すとともに、質問表への回答について、クロス分析や過去の調査結果との対比等を行い、「調査結果の概要」としてまとめたものです。

質問項目の作成や調査報告書の監修について、埼玉大学教授 松本正生氏、東京大学准教授　境家史郎氏にご協力をいただきました。また調査データの集計は埼玉大学社会調査研究センターにお願いしました。ここに厚くお礼申し上げます。

本調査が、今後の啓発事業のよき参考になれば幸いです。

平成 26 年 4 月

公益財団法人 明るい選挙推進協会

＜目次＞

調査の設計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

標本抽出方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

質問票と回答の単純分布・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

調査結果の概要

1　はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

2　投票率・選挙競争率・選挙違反検挙状況・・・・・・・ 15

3　選挙への意識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24

4　投票参加率・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30

5　棄権の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

6　投票行動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

7　政治的志向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

8　選挙関連情報源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60

9　選挙制度関連・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

10　清潔度の印象・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66

調査の設計

１　調査の目的

この調査は、平成 25 年 7 月 21 日執行の第 23 回参議院議員通常選挙における有権者の投票行動等の実態を調査し、今後の選挙啓発上の資料とすることを目的とする。

２　調査の項目

この調査は、次の諸項を調査の目的とした。

（１）政治・選挙への関心

（２）投票と棄権

（３）投票選択の経緯

（４）選挙媒体との接触

（５）選挙制度について

（６）選挙啓発への参加と接触

３　調査の設計

この調査は、次のように設計した。

（１）調査地域	全国
（２）調査対象	満 20 歳以上の男女個人
（３）標本数	3,000 人
（４）標本抽出	選挙人名簿を使用
（５）抽出方法	層化 2 段無作為抽出法
（６）調査方法	郵送配布郵送回収法
（７）調査時期	平成 25 年 9 月 18 日～10 月 24 日
	事前葉書投函　9 月 11 日
	調査票発送　9 月 18 日
	1 回目督促（葉書）投函 10 月　2 日
	2 回目督促（封書）投函 10 月 10 日
（８）調査協力機関	埼玉大学社会調査研究センター
	社団法人 新情報センター

４　回収結果

（１）有効回収数（%）	2,019（67.3%）

（２）男女・年齢別・都市規模別回収結果

①男性（NA(無回答)を除く）

年代	標本数	回収数	回収率
20 歳代	185	76	41.1
30 歳代	253	138	54.5
40 歳代	269	141	52.4
50 歳代	243	162	66.7
60 歳代	292	213	72.9
70 歳代代	194	136	70.1
80 歳以上	65	47	72.3
合計	1,501	913	61.4

②女性（NA(無回答)を除く）

年代	標本数	回収数	回収率
20 歳代	172	112	65.1
30 歳代	226	150	66.4
40 歳代	255	168	65.9
50 歳代	242	186	76.9
60 歳代	288	219	76.0
70 歳代代	204	153	75.0
80 歳以上	112	54	48.2
合計	1,499	1,042	67.6

③都市規模

都市規模	標本数	回収数	回収率
大都市	843	537	63.7
20 万以上の市	727	487	67.0
10 万以上の市	496	360	72.6
10 万未満の市	655	439	67.0
郡部（町村）	279	196	70.3
合計	3,000	2019	68.1

標本抽出方法

1　母　集　団：全国の市区町村に居住する満 20 歳以上の者
2　標　本　数：3,000 人
3　地　点　数：210 市区町村　210 地点
4　抽 出 方 法：層化２段無作為抽出法

〔層化〕

（1）全国の市町村を、都道府県を単位として次の１１地区に分類した。

（地　区）

北海道地区＝	北海道	（　１道）
東北地区　＝	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県	（　６県）
関東地区　＝	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県	（１都６県）
北陸地区　＝	新潟県、富山県、石川県、福井県	（　４県）
東山地区　＝	山梨県、長野県、岐阜県	（　３県）
東海地区　＝	静岡県、愛知県、三重県	（　３県）
近畿地区　＝	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県	（２府４県）
中国地区　＝	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県	（　５県）
四国地区　＝	徳島県、香川県、愛媛県、高知県	（　４県）
北九州地区＝	福岡県、佐賀県、長崎県、大分県	（　４県）
南九州地区＝	熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	（　４県）

（2）各地区においては、さらに都市規模によって次のように２４分類しそれぞれを第１次層として、計５４層とした。

◎　大都市（都市ごとに分類）
（東京都区部、札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市、静岡市、浜松市、名古屋市、京都市、大阪市、堺市、神戸市、岡山市、広島市、北九州市、福岡市、熊本市）
◎　人口１０万人以上の市
◎　人口１０万人未満の市
◎　町村

（注）ここでいう市とは、平成 25 年 4 月 1 日現在市制施行の地域である。

（3）　各地区・都市規模別各層における母集団数（平成 24 年 3 月 31 日現在の 20 歳以上の人口）の大きさによりそれぞれ 3,000 の標本数を比例配分し、1 調査地点の標本数が 10～17 人になるように調査地点数を決めた。

〔抽出〕

（１） 第１次抽出単位となる調査地点として、平成２２年国勢調査時に設定された調査区を使用した。

（２） 調査地点（調査区）の抽出は、調査地点数が２地点以上割り当てられた層については、

$$\text{抽出間隔} = \frac{\text{層における国勢調査時の当該母集団人口（計）}}{\text{層で算出された調査地点数}}$$

を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。また、層内での調査地点数が１地点の場合には、乱数表により無作為に抽出した。

（３） 抽出に際しての各層内における市区町村の配列順序は、平成２２年国勢調査時の、市区町村コード順に従った。

（４） 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲起点（町・丁目・番地・地区などを指定）から、選挙人名簿により等間隔抽出法によって抽出した。

５　結果

以上の抽出作業の結果、得られた地区・都市規模別標本数及び調査地点数は、次の通りである。

地区・都市規模別標本数及び調査地点数　　※（　）内は調査地点数

大都市（各都市別）

東京都区部	２１０（１３）	名古屋市	５２（　４）
札　幌　市	４６（　３）	京　都　市	３３（　２）
仙　台　市	２４（　２）	大　阪　市	６２（　４）
さいたま市	２９（　２）	堺　　市	２０（　２）
千　葉　市	２２（　２）	神　戸　市	３６（　３）
横　浜　市	８６（　６）	岡　山　市	１６（　１）
川　崎　市	３３（　２）	広　島　市	２７（　２）
相模原市	１７（　１）	北九州市	２３（　２）
新　潟　市	２０（　２）	福　岡　市	３３（　２）
静　岡　市	１７（　１）	熊　本　市	１７（　１）
浜　松　市	２０（　２）		

※（　）内は調査地点数

都市規模	大都市	人口10万人以上の市	人口10万人未満の市	郡　部（町　村）	計
北海道	46 (3)	37 (3)	24 (2)	25 (2)	132 (10)
東北	24 (2)	84 (6)	68 (5)	44 (3)	220 (16)
関東	397 (26)	415 (27)	136 (9)	50 (3)	998 (65)
北陸	20 (2)	51 (4)	47 (3)	10 (1)	128 (10)
東山		45 (4)	53 (4)	21 (2)	119 (10)
東海	89 (7)	132 (9)	60 (4)	20 (2)	301 (22)
近畿	151 (11)	212 (13)	95 (6)	29 (2)	487 (32)
中国	43 (3)	82 (6)	38 (3)	15 (1)	178 (13)
四国		48 (4)	31 (2)	16 (1)	95 (7)
北九州	56 (4)	62 (5)	58 (4)	24 (2)	200 (15)
南九州	17 (1)	55 (4)	45 (3)	25 (2)	142 (10)
計	843 (59)	1223 (85)	655 (45)	279 (21)	3000 (210)

質問票と回答の単純分布

第 23 回参議院議員通常選挙に関する意識調査

回答は質問番号、矢印に従って進んでください。記入は鉛筆又は黒のボールペンでお願いします。名前をお書きになる必要はありません。右上にある「整理番号」は、調査票が返送されたかどうかの確認や集計を匿名で行うために用意させていただいたものです。

Ｑ１　あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	非常に関心を持っている	22.9
2	多少は関心を持っている	57.6
3	あまり関心を持っていない	15.9
4	全く関心を持っていない	2.5
5	わからない	0.7
	無回答	0.3

Ｑ２　あなたは、政治、選挙に関する情報を主に何から得ていますか。最も多くの情報を得ているものを１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	テレビ	58.6
2	ラジオ	1.4
3	新聞	22.9
4	雑誌	0.1
5	インターネット	5.1
6	家族や知人からの話	2.8
7	その他	0.4
	無回答	8.7

Ｑ３　あなたは現在のご自分の生活にどの程度満足していますか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	大いに満足している	2.8
2	だいたい満足している	51.2
3	やや不満足である	33.2
4	大いに不満足である	10.7
5	わからない	1.8
	無回答	0.2

Ｑ４　これからのあなたの生活は良くなると思いますか、悪くなると思いますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	今よりも良くなる	2.8
2	どちらかといえば良くなる	7.6
3	今と変わらない	31.7
4	どちらかといえば悪くなる	37.5
5	今よりも悪くなる	14.8
6	わからない	5.3
	無回答	0.3

Ｑ５　あなたは現在の政治に対してどの程度満足していますか。　n＝2019

1	大いに満足している	0.2
2	だいたい満足している	17.4
3	やや不満足である	48.3
4	大いに不満足である	27.2
5	わからない	6.3
	無回答	0.4

Ｑ６　あなたはふだん、選挙の投票について、下記の中のどれに近い考えを持っていますか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	投票することは国民の義務である	34.5
2	投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない	34.3
3	投票する、しないは個人の自由である	28.7
4	わからない	2.0
	無回答	0.4

Ｑ７　保守的とか革新的とかいう言葉が使われますが、あなたご自身はこの中のどれにあたると思いますか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	保守的	9.4
2	やや保守的	25.7
3	中間	33.7
4	やや革新的	14.1
5	革新的	3.3
6	わからない	13.2
	無回答	0.6

Ｑ８　７月の参院選(以下「今回の参院選」)について、あなた自身は、どれくらい関心がありましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。　　n＝2019

1	非常に関心があった	24.1
2	多少は関心があった	40.8
3	あまり関心がなかった	27.0
4	全く関心がなかった	6.4
5	わからない	0.5
	無回答	1.3

Ｑ９　あなたは、今回の参院選で、投票に行きましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n＝2019

1	投票に行った	71.3
2	投票に行かなかった	27.4(**→Q11 へお進みください**)
3	わからない	1.3 (**→Q13 へお進みください**)

Ｑ１０　当日投票をしましたか、それとも期日前投票又は不在者投票をしましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。　　n＝1440

1	当日投票をした	74.2
2	期日前投票・不在者投票をした	24.6
	無回答	1.3

Ｑ１０ＳＱ１　投票に行ったのは何時頃ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。　　n＝1440

1	午前中	55.3
2	午後（6 時まで）	32.5
3	午後 6 時から 8 時の間	10.2
4	わからない	0.7
	無回答	1.3

Ｑ１０ＳＱ２　次に選挙区選挙についてお尋ねします。あなたは、選挙区選挙で、政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n＝1440

1	政党を重くみて	52.6
2	候補者個人を重くみて	27.2
3	一概にいえない	18.1
4	わからない	1.4
	無回答	0.8

Ｑ１０ＳＱ３　あなたは選挙区選挙で候補者を選ぶ時、どういう点を重くみて投票する人を決めたのですか。あてはまるものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。　　n＝1440

1	地元の利益を考えて	13.0
2	自分と同じような職業の利益を考えて	6.6
3	自分と同じような世代の利益を考えて	10.3
4	候補者の政策や主張を考えて	42.4
5	候補者の人柄を考えて	18.5
6	候補者の属する党の政策や活動を考えて	55.0
7	候補者の属する党の党首を考えて	11.3
8	テレビや新聞、雑誌などで親しみを感じて	4.7
9	政党間の勢力バランスを考えて	8.3
10	家族や知人のすすめだったから	7.7
11	その他	1.9
12	わからない	1.6
	無回答	1.1

Ｑ１０ＳＱ４　選挙区選挙で、投票する人を決めたのはいつ頃でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。　　n＝1440

1	選挙期間に入る前から（7 月 3 日以前）	29.3
2	選挙期間に入った時（7 月 4 日(木)）	24.9
3	投票日の 4 日以上前	11.9
4	投票日の 2,3 日前	15.2
5	投票日の前日（7 月 20 日(土)）	4.7
6	投票日当日（7 月 21 日(日)）	10.5
7	わからない	2.7
	無回答	0.8

Ｑ１０ＳＱ５　選挙区選挙で投票した人は、何党の人でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n＝1440

1	民主党	15.9	11	その他の党	0.8
2	自民党	47.2	12	無所属	1.4
3	公明党	5.3	13	白票を入れた	1.4
4	みんなの党	5.6	14	わからない	3.3
5	生活の党	1.3		無回答	1.7
6	共産党	7.6			
7	社民党	1.0			
8	みどりの風	0.7			
9	日本維新の会	6.7			
10	新党大地	0.1			

Ｑ１０ＳＱ６　次に比例代表選挙についてお尋ねします。比例代表選挙で、あなたは候補者名で投票しましたか、政党名で投票しましたか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝1440

1	政党名	68.5
2	候補者名	27.2
3	わからない	3.1
	無回答	1.3

Ｑ１０ＳＱ７　なぜ、政党名で投票したのですか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝986

1	比例代表選挙は政党名で投票する制度だと思ったから	25.2
2	比例代表の候補者がよくわからなかったから	15.5
3	選びたい候補者がいなかったから	13.5
4	候補者個人より政党を重視したから	43.7
5	わからない	1.0
	無回答	1.1

※　回答後は下のQ10ＳＱ８へお進みください。

Ｑ１０ＳＱ８　比例代表選挙で、あなたがその政党、または候補者に投票することを決めたのはいつ頃でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。

1	選挙期間に入る前から（7 月 3 日以前）	26.6
2	選挙期間に入った時（7 月 4 日(木)）	20.6
3	投票日の 4 日以上前	9.0
4	投票日の 2,3 日前	11.5
5	投票日の前日（7 月 20 日(土)）	4.1
6	投票日当日（7 月 21 日(日)）	11.2
7	わからない	1.9
	無回答	1.5

n＝1440

Ｑ１０ＳＱ９　比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者でしたか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝1440

1	民主党	14.1	11	その他の党	0.9
2	自民党	39.7	12	白票を入れた	0.5
3	公明党	8.7	13	わからない	4.6
4	みんなの党	8.4		無回答	2.2
5	生活の党	1.4			
6	共産党	7.1			
7	社民党	1.5			
8	みどりの風	1.0			
9	日本維新の会	9.7			
10	新党大地	0.3			

→ここまで回答された方はQ13 へお進みください

Ｑ９で「投票に行かなかった」と回答された方にお尋ねします。

Ｑ１１　投票に行かないと決めたのはいつ頃ですか。１つ選んで番号に○をつけてください。　n＝553

1	選挙期間に入る前から（7 月 3 日以前）	30.2
2	選挙期間に入った時（7 月 4 日(木)）	9.0
3	投票日の 4 日以上前	4.2
4	投票日の 2,3 日前	7.8
5	投票日の前日（7 月 20 日(土)）	5.2
6	投票日当日（7 月 21 日(日)）	31.1
7	わからない	9.0
	無回答	3.4

Ｑ１２　投票に行かなかったのは、なぜですか。あてはまるものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。　n＝553

1	仕事があったから	17.7
2	重要な用事（仕事を除く）があったから	10.1
3	病気だったから	7.4
4	体調がすぐれなかったから	11.9
5	投票所が遠かったから	2.9
6	面倒だったから	11.8
7	選挙にあまり関心がなかったから	19.0
8	政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	19.0
9	適当な候補者も政党もなかったから	26.4
10	私一人が投票してもしなくても同じだから	14.6
11	選挙によって政治はよくならないと思ったから	14.1
12	メディアの当落事前予測調査を見て、投票に行く気がなくなったから	7.2
13	今の政治を変える必要がないと思ったから	0.5
14	今住んでいる所に選挙権がないから	1.3
15	天候が悪かったから（暑すぎた、雨だったなど）	1.6
16	その他	9.4
17	わからない	0.2
	無回答	1.8

ここからは全員の方にお尋ねします。

Ｑ１３　今回の参院選では、どのような政策課題を考慮しましたか。あてはまるものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	医療・介護	42.1	11	治安対策	5.0
2	子育て・教育	25.1	12	防災対策	9.1
3	景気対策	54.7	13	社会資本整備・公共事業	3.7
4	雇用対策	25.1	14	行政改革・地方分権	7.5
5	財政再建	22.4	15	憲法改正	15.6
6	年金	43.4	16	外交・防衛	17.4
7	消費増税	32.0	17	選挙制度	4.3
8	震災からの復興	24.8	18	その他	1.0
9	原発・エネルギー	27.8	19	政策は考えなかった	2.7
10	ＴＰＰへの参加	11.6	20	わからない	3.1
				無回答	0.9

Ｑ１４　昨年（2012 年）12 月に行われた第 46 回衆院選の比例代表選挙で、あなたが投票したのは何党でしたか。1 つ選んで番号に○をつけてください。

1	民主党	16.7	10	その他の党	0.8
2	自民党	34.6	11	白票を入れた	0.8
3	日本未来の党	0.5	12	投票しなかった	12.5
4	公明党	6.0	13	選挙権がなかった	0.3
5	日本維新の会	7.2	14	わからない	7.9
6	共産党	4.7		無回答	2.4
7	みんなの党	4.5			
8	社民党	0.9			
9	新党大地	0.1			

n＝2019

Ｑ１５　菅直人政権下において行われた、3 年前（2010 年 7 月）の第 22 回参院選の比例代表選挙で、あなたが投票したのは何党、又は何党の候補者でしたか。1 つ選んで番号に○をつけてください。

1	民主党	34.2	9	その他の党	0.6
2	自民党	25.3	10	白票を入れた	0.7
3	公明党	5.3	11	投票しなかった	9.8
4	共産党	4.3	12	選挙権がなかった	1.9
5	社民党	0.9	13	わからない	11.1
6	国民新党	0.2		無回答	2.1
7	みんなの党	3.4			
8	たちあがれ日本	0.1			

n＝2019

Ｑ１６　あなたはふだん何党を支持していらっしゃいますか。１つ選んで番号に○をつけてください。

n＝2019

1	民主党	10.4
2	自民党	33.5
3	公明党	4.7
4	みんなの党	2.5
5	生活の党	0.8
6	共産党	3.0
7	社民党	0.7
8	みどりの風	0.0
9	日本維新の会	4.1
10	新党大地	0.1
11	その他の党	0.2
12	支持政党なし	32.5
13	わからない	5.1
	無回答	2.5

Ｑ１７　あなたは、（投票日以前に）今回の参院選の結果はどうなって欲しいとお考えでしたか。1 つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	自民党、日本維新の会、みんなの党で 2/3 以上	16.7
2	連立与党（自民党、公明党）で 2/3 以上	7.3
3	自民党単独で過半数	13.1
4	連立与党（自民党、公明党）で過半数	11.1
5	連立与党（自民党、公明党）が過半数以下	8.2
6	その他	4.7
7	特に考えなかった	28.2
8	わからない	7.6
	無回答	3.2

Ｑ１８　1 年前と比べて今の景気はどうでしょうか。1 つ選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1	かなり良くなった	0.8
2	やや良くなった	17.5
3	変わらない	57.1
4	やや悪くなった	13.2
5	かなり悪くなった	5.2
6	わからない	4.8
	無回答	1.4

Ｑ１９　今回の参院選で、あなたが見たり聞いたりしたものが下記の中にありますか。あればすべて選んでＡの欄に○をつけてください。その中で役に立ったものがあれば、すべて選んでＢの欄に○をつけてください。

n＝2019　n＝1803

	A	B
1　候補者の政見放送・経歴放送（テレビ）	40.8	16.7
2　政党の政見放送（テレビ）	41.4	18.5
3　政党のテレビスポット広告	28.4	4.3
4　候補者の政見放送・経歴放送（ラジオ）	6.7	2.8
5　政党の政見放送（ラジオ）	5.2	2.2
6　政党のラジオスポット広告	3.7	0.8
7　選挙公報	35.9	16.7
8　候補者の新聞広告	32.1	12.8
9　政党の新聞広告	31.9	10.9
10 候補者のビラ	26.0	5.9
11 掲示場にはられた候補者のポスター	47.6	9.2
12 政党のビラ・ポスター	29.0	4.7
13 候補者の葉書	18.1	2.7
14 政党の葉書	8.1	1.4
15 政党の機関紙	8.4	3.5
16 政党の選挙公約などが記載されたパンフレット	18.2	8.8
17　党首討論会（テレビ・インターネット）	30.7	18.5
18　政党・候補者の演説会	10.3	4.4
19　公開討論会・合同個人演説会	5.3	3.1
20　政党・候補者の街頭演説	16.1	5.7
21　電話による勧誘	10.5	0.8
22　連呼	12.9	0.8
23　インターネットによる選挙運動（政党や候補者のHP,ブログ、SNS等）	7.5	4.4
24　この中のどれも見聞きしなかった	4.1	
25　わからない	2.1	
無回答	4.5	38.7

Ｑ２０　今回の参院選からインターネットを使用した選挙運動が解禁されましたが、あなたは今回の参院選に関して、インターネットをどのように利用しましたか。下記の中にあてはまるものがあればすべて選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1　政党や候補者のＨＰ・ブログ・SNSを見た　8.5
2　政党や候補者のメルマガを受信した　1.1
3　自らのブログやSNSで特定の政党や候補者、政策を応援または批判した（拡散を含む）　0.5
4　政党や候補者とネットを介して交流した　0.1
5　利用しなかった　74.0（→Q20ＳQ3へお進みください）
6　わからない　7.3（→Q20ＳQ3へお進みください）
無回答　9.5

Ｑ２０ＳＱ１　インターネット選挙運動の解禁によって得られた情報は、投票に関して参考になりましたか。　n＝187

1　参考になった　31.0（→Q20ＳQ3へお進みください）
2　多少は参考になった63.1（→Q20ＳQ3へお進みください）
3　参考にならなかった　5.3
無回答　0.5

Ｑ２０ＳＱ２　参考にならなかったのはなぜですか。理由をお聞かせください。

自由記載

[　　]

ここからは全員の方にお尋ねします。

Ｑ２０ＳＱ３　インターネットを使用した選挙運動が解禁されたことにより、どんなことが期待できますか。あなたの意見に近いものをいくつでも選んで番号に○をつけてください。　n＝2019

1　政治や選挙の透明性が高まる　6.9
2　有権者と政治家との距離が縮まる　14.2
3　有権者の政治への関心が高まる　18.6
4　若年層の投票率が向上する　38.3
5　特に期待するものはない　27.1
6　その他　3.5
7　わからない　14.7
無回答　4.6

Ｑ２１　今回の参院選は、全体としてきれいな選挙が行われたと思いますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。　　n＝2019

1	きれいに行われた	19.7
2	そうはいえない	11.4
3	一概にいえない	29.9
4	わからない	37.1
	無回答	1.8

Ｑ２２　きれいな選挙の実現や投票率の向上のために明るい選挙推進運動が行われています。都道府県や市区町村の選挙管理委員会と協力してこの運動を行っている、明るい選挙推進協議会や白ばら会があることをご存知ですか。1 つ選んで番号に○をつけてください。　　n＝2019

1	知っている	15.4
2	知らない	71.9
3	わからない	10.8
	無回答	1.9

Ｑ２３　明るい選挙推進運動のシンボルキャラクター「選挙のめいすいくん」（封筒の表に記載されています）をあなたは見たことがありますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。　　n＝2019

1	ある	12.7
2	ない	76.3
3	わからない	9.2
	無回答	1.9

Ｑ２４　今回の参院選で総務省や都道府県・市区町村の選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が「投票に参加しましょう」という呼びかけを行いましたが、下記の中で見たり聞いたりしたものがありますか。あればすべて選んで番号に○をつけてください。

n＝2019

1	新聞広告	40.4
2	テレビスポット広告	45.3
3	ラジオスポット広告	6.7
4	交通広告（車内・駅・バス）	11.1
5	雑誌広告（フリーペーパーを含む）	3.2
6	啓発ポスター	16.0
7	国や都道府県、市区町村の広報紙	25.6
8	都道府県・市区町村などの広報車（候補者の選挙運動用自動車は含まない）	21.1
9	街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン	6.2
10	立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン	12.0
11	電光掲示板、大型映像広告、ショッピングセンター、遊園地などでのアナウンス	1.8
12	銀行などのＡＴＭ	0.7
13	コンビニのレジ画面	1.3
14	有線放送	3.1
15	国、都道府県、市区町村のホームページ、SNS(ﾂｲｯﾀｰ、ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ)	2.2
16	インターネット上での広告（バナー、動画広告等）	3.6
17	その他	1.2
18	見聞きしなかった 15.2(**→Ｆ１へお進みください**)	
19	わからない　8.0（**→Ｆ１へお進みください**）	
	無回答　3.1	

Ｑ２５　これらを見聞きしたことによって、知り得たことなどがありましたか。この中にあてはまるものがあればすべて選んで番号に○をつけてください。

n＝1488

（Ｑ２４で「見聞きしなかった」、「わからない」と回答された方は答える必要はありません。F1 へお進みください）

1	選挙期日（投票日）が確認できた	68.1
2	投票場所が確認できた	20.9
3	投票時間が確認できた	20.4
4	投票方法を知った	10.0
5	期日前投票時間、期日前投票所が確認できた	19.6
6	インターネット選挙運動の解禁を知った	19.4
7	一票の大切さを知った	8.7
8	その他	0.7
9	知り得たものはない	11.1
	無回答	6.5

ここからは全員の方にお尋ねします。 n＝2019

Ｆ１　あなたは男性ですか、女性ですか。

1　男性　46.4
2　女性　52.2
　無回答　1.5

Ｆ２　あなたのお年は満でおいくつですか。

＿＿＿＿＿歳

Ｆ３　あなたが最後に在籍した（又は現在在籍している）学校を、下記の中から１つ選んで番号に○をつけてください。

1　小学校・中学校卒（高等小学校を含む）　12.3
2　高校卒（旧制中学校を含む）　40.9
3　短大・高専・専修学校卒　18.8
4　大学･大学院卒（旧制高校、旧制専門学校を含む）　25.2
5　わからない　0.2
　無回答　2.6

Ｆ４　あなたの職業についてお尋ねします。下記の中からあてはまるものを１つ選んで番号に○をつけてください。

1　勤め　46.4
2　自由業主、自由業者　9.5
3　家族従業　1.6
4　学生　1.7
5　主婦　20.6
6　無職　17.3
　無回答　2.9

（→Ｆ５へお進みください）

Ｆ４ＳＱ１へお進みください

Ｆ４ＳＱ１　あなたの職業は下記のように分類した場合、どれにあたりますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n＝1161

1　経営者・役員・管理職　22.3
2　正社員・正職員　43.1
3　派遣社員　1.9
4　パート・アルバイト・契約・臨時・嘱託　27.1
5　その他　4.2
　無回答　1.4

Ｆ４ＳＱ２　下記のように分類した場合、あなたの職業はどれにあたりますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n＝1161

1　農･林・水産に関わる仕事（農作物生産者、家畜飼養、森林培養・伐採、水産物養殖・漁獲など）　4.2
2　保安的仕事（警察官、消防官、自衛官、警備員など）　1.2
3　運輸・通信的仕事（トラック･タクシー運転手、船員、郵便配達、通信士など）　5.3
4　製造業的仕事（製品製造･組み立て、自動車整備、建設作業員、大工、電気工事、農水産物加工など）　17.3
5　販売・サービス的仕事（小売・卸売店主・店員、不動産売買、保険外交、外勤のセールス、理・美容師、コック・料理人、ウェイター・ウェイトレス、客室乗務員など）　24.9
6　専門･技術的仕事（医師、看護師、弁護士、教師、技術者、デザイナーなど専門的知識・技術を要するもの）　23.2
7　事務的仕事（企業・官公庁における一般事務、経理、内勤の仕事など）　15.5
8　その他　6.3
　無回答　2.1

以下は全員の方にお尋ねします。

Ｆ５　あなたは、現在の市（区・町・村）に何年くらい住んでいますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。 n＝2019

1　生まれてからずっと　24.7
2　２０年以上（生まれてからずっとを除く）　41.0
3　１０年以上　14.3
4　３年以上　8.8
5　３年未満　4.6
6　わからない　0.1
　無回答　6.5

Ｆ６　あなたのご自宅から投票所へ行くのには、何分ぐらいかかりますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。

1　５分未満　37.1
2　１０分未満　40.6
3　２０分未満　13.2
4　２０分以上　3.3
5　わからない　1.3
　無回答　4.6

Ｆ７　あなたの投票所の投票時間は、何時まででしたか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	午後5時以前	4.0
2	午後6時まで	5.8
3	午後7時まで	11.9
4	午後8時まで	54.0
5	その他	0.6
6	わからない	22.1
	無回答	1.4

Ｆ８　あなたのご家族は、下記のように分類した場合どれにあたりますか。1 つ選んで番号に○をつけてください。

1	１人世帯	12.1
2	一世代世帯（夫婦だけ）	28.0
3	二世代世帯	44.9
4	三世代世帯	9.4
5	その他の世帯	4.1
6	わからない	0.9
	無回答	0.6

Ｆ９　あなたは主に何を使ってインターネットに接続していますか。1つ選んで番号に○をつけてください。

1	パソコン	43.1
2	スマートフォン	17.8
3	タブレット	2.3
4	インターネットは使わない	28.4
	無回答	8.3

Ｆ10　あなたは、下記のような団体に加入していますか。あればすべて選んで番号に○をつけてください。

1	政治家の後援会	3.9
2	自治会	23.8
3	婦人会	3.0
4	青年団・消防団	1.3
5	老人クラブ（会）	6.0
6	ＰＴＡ	7.3
7	農協その他の農林漁業団体	3.1
8	労働組合	4.8
9	商工業関係の経済団体	1.5
10	宗教団体	3.6
11	同好会・趣味のグループ	14.9
12	住民運動・消費者運動・市民運動の団体	0.8
13	NPO・地域づくり団体	1.7
14	同窓会	11.7
15	その他	1.4
16	どれにも加入していない	42.0
17	わからない	1.7
	無回答	2.7

調査結果の概要

1　はじめに

平成 25 年 7 月 21 日、第 23 回参議院議員通常選挙(以下参院選という)の投開票が行われた。今回の参院選は、前年 12 月の衆院選で政権与党となった自民党、公明党が、参議院でも両党で過半数を獲得し、いわゆる「衆参のねじれ国会」が解消されるかどうかが注目された。また安倍政権が推し進める経済政策、憲法改正などへの評価という側面も持ち合わせていた

選挙制度の面では、今回の参院選から「インターネット選挙運動」が解禁された。政党・候補者はこれまで公示日以降、更新することができなかったホームページやブログ、ツイッターなどへの書き込みが、選挙期間中もできるようになった。有権者にとってもブログ、ツイッターなどのＳＮＳは政党・候補者との意見交換などのツールとなった。また成年被後見人の選挙権、被選挙権が回復し、今回の参院選から適用となった。

選挙結果は自民党が 65 議席を獲得し、単独で改選定数(121)の過半数を越えた。非改選議員と合わせると自民党 115 議席、公明党 20 議席となり、両党で参議院の過半数を確保することとなった。一方、民主党は改選前議席数から 27 減の 17 議席を確保したにすぎず、非改選議員と合わせて 59 議席に留まった（表 1)。

投票率は、比例代表選挙、選挙区選挙ともに 52.61％で、前回より約 5 ポイント下回った。

表 1　第 23 回参院選結果

	改選後					改選前			増減
	当選人			非改選	合計	改選前	非改選	合計	
	選挙区	比例代表	計						
自由民主党	47	18	65	50	115	34	50	84	31
民主党	10	7	17	42	59	44	42	86	−27
日本維新の会	2	6	8	1	9	2	1	3	6
公明党	4	7	11	9	20	10	9	19	1
みんなの党	4	4	8	10	18	3	10	13	5
生活の党	0	0	0	2	2	6	2	8	−6
日本共産党	3	5	8	3	11	3	3	6	5
社会民主党	0	1	1	2	3	2	2	4	−1
みどりの風	0	0	0	0	0	4	0	4	−4
新党大地	0	0	0	0	0	1	0	1	−1
緑の党グリーンズジャパン	0	0	0	0	0	0	0	0	0
幸福実現党	0	0	0	0	0	0	0	0	0
新党改革	0	0	0	1	1	1	1	2	−1
諸派・無所属	3	0	3	1	4	6	1	7	−3
欠員	0	0	0	0	0	5	0	5	−5
合計	73	48	121	121	242	121	121	242	

明るい選挙推進協会は選挙後に、有権者の全国的な政治意識調査を実施したが、本報告書はその調査結果を中心としながら、あわせて過去の調査データとの比較を行い、今回の参院選の実態を明らかにすることを目的にしている。

2　投票率・選挙競争率・選挙違反検挙状況

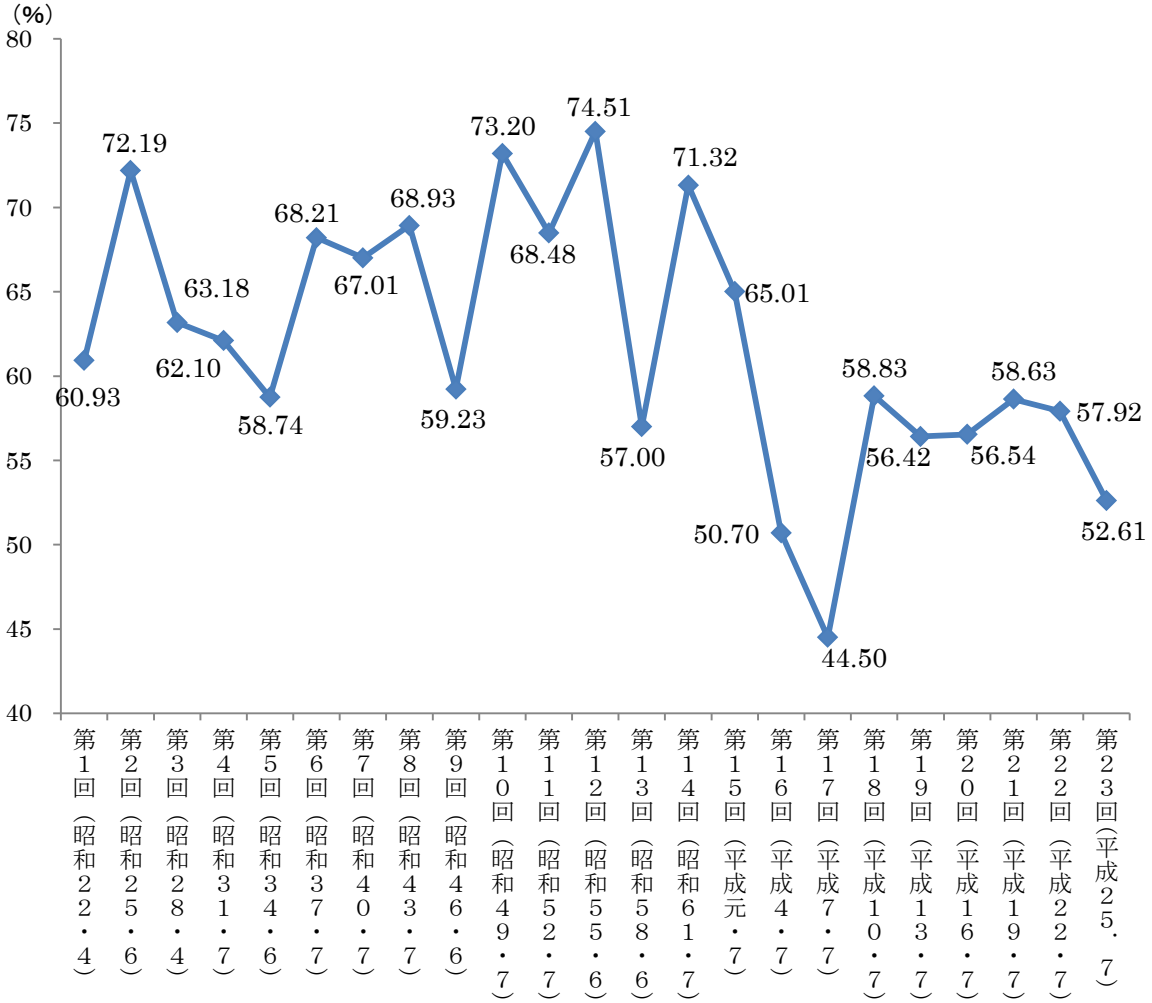
最初に総務省が発表した投票率・選挙競争率と警察庁が発表した選挙違反検挙状況に関する結果をまとめる。

（1）投票率

今回の参院選の投票率は、比例代表選挙、選挙区選挙ともに 52.61%であった。

近年の投票率の推移を見ると、第 18 回（平 10）に前回の 44.50%から 58.83%へ急上昇して以来、第 22 回（平 22）まで約 2 ポイントの増減幅を維持してきていたが、今回は比例代表選挙、選挙区選挙ともに 5.31 ポイント低下し、過去 3 番目に低い結果となった（図 2－1）。

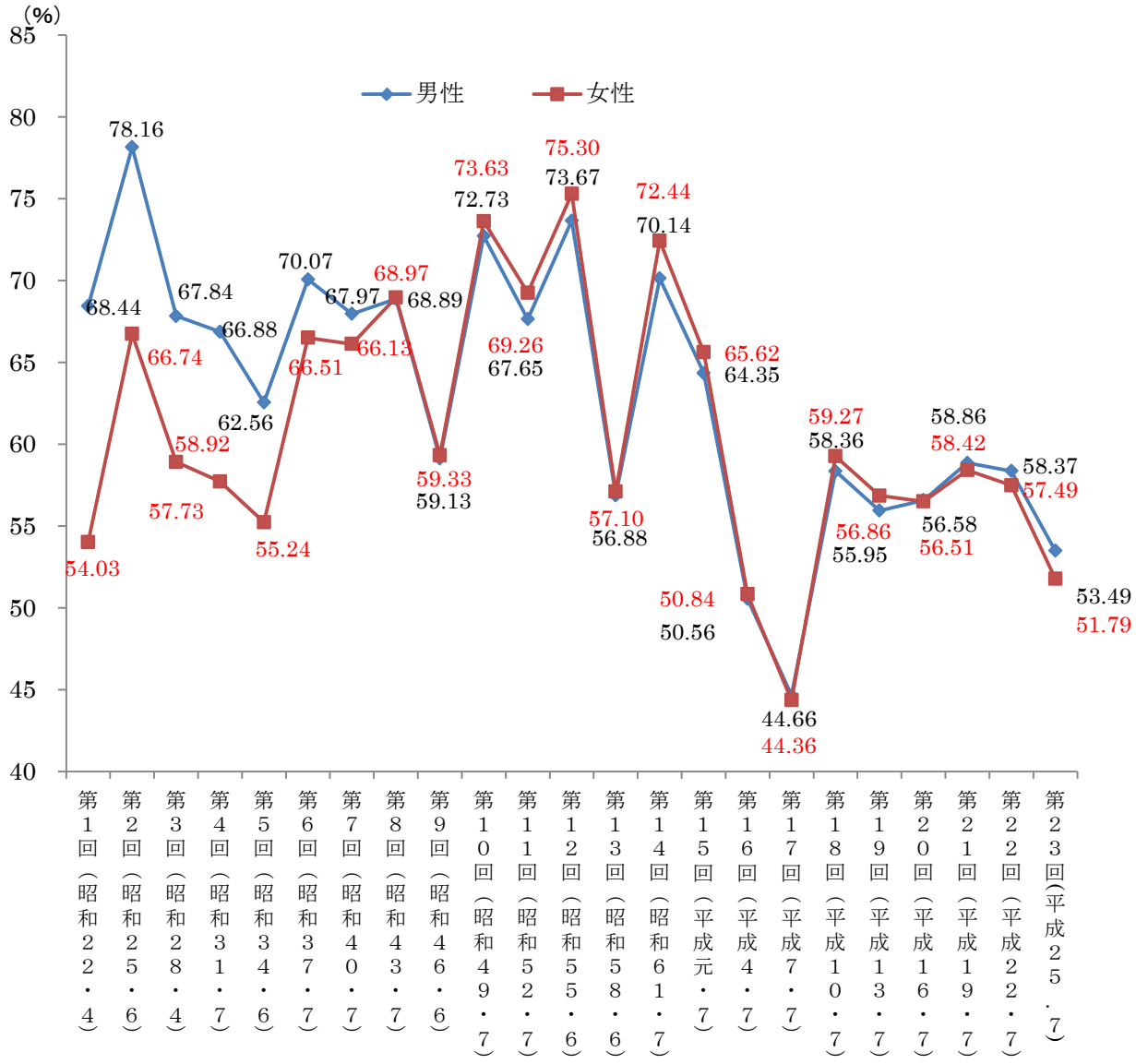
図 2－1　参院選投票率の推移（全国区選挙・比例代表選挙）



男女別の投票率を見ると（図 2－2)、男性が 53.49%、女性が 51.79%で、前回より男性が 4.88 ポイント、女性が 5.70 ポイント低下した。

男女間の投票率の差は、第 1 回は男性の方が 14.41 ポイント高かったが（男性 68.44%、女性 54.03%)、その後は徐々に縮まり、第 8 回から第 19 回までは、第 17 回を除き概ね 1 ポイントの差で、女性が男性を上回った。第 20 回からは再び男性の方が女性を上回るようになり、今回も男性が 1.70 ポイント高かった。

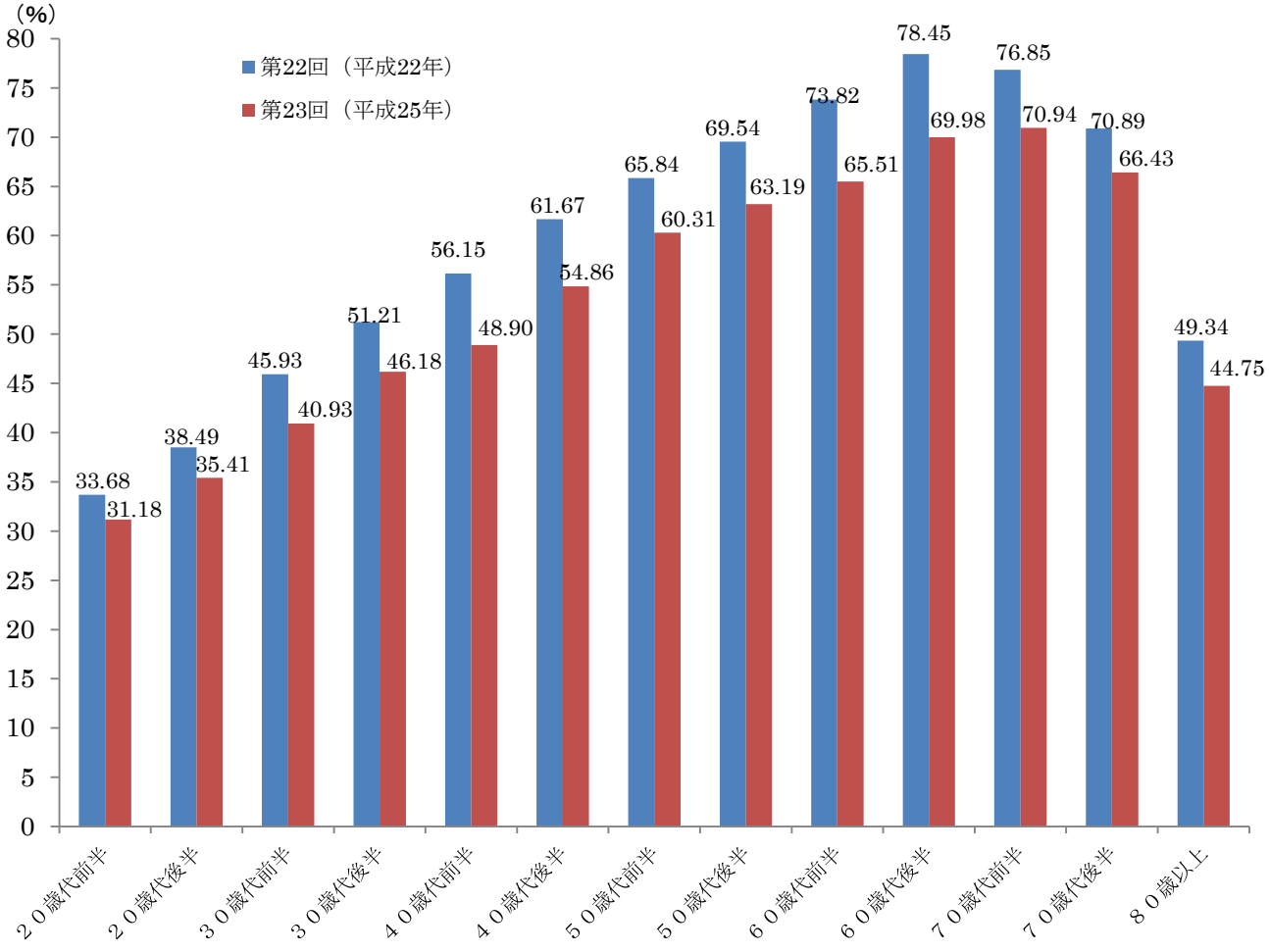
図 2－2　男女別投票率の推移（全国区選挙・比例代表選挙）



年齢別の投票率を見ると（図２－３）、今回も年齢が上がるほど投票率が高くなる傾向が見られた。20 歳代前半は 31.18%しか投票に行っていないが、60 歳代後半は 69.98%と、20 歳代前半の 2.2 倍以上となっており、年齢別投票率の最高値を示している。とはいえ、今回の参院選の投票率が前回より低下していることに準じ、全ての年齢層で投票率が低下している。前回の投票率からの低下幅を見ると、20 歳代前半が 2.50 ポイント、20 歳代後半が 3.08 ポイント、30 歳代前半で 5.00 ポイント、30 歳代後半で 5.03 ポイント、40 歳代前半で 7.25 ポイントと年齢が上がるほど低下幅が大きくなっており、投票率が高かった 60 歳代後半は 8.47 ポイントと低下幅も最も大きかった。

図２－３　年齢別投票率

全国投票区の中から標準的な投票率を示している投票区を各都道府県の市区町村から一投票区を抽出。



都道府県別の投票率を見ると（表 2－1）、最も投票率が高かったのは島根県の 60.88%で、次いで山形県の 60.75%、鳥取県の 58.87%と続く。島根県は前回、前々回も首位であったが、今回は前回の 71.69%から 10.81 ポイント減少している。山形県は、前回の 7 位から今回 2 位となったが、前回より 3.21 ポイント減少している。沖縄県を除く全ての都道府県で投票率は低下したが、最も減少幅が大きかったのは富山県（－14.62 ポイント）で、次いで山口県（－11.56 ポイント）、福井県（－11.47 ポイント）の順であった。最も減少幅が少なかったのは神奈川県（－1.09 ポイント）で、次いで兵庫県（－1.39 ポイント）、京都府（－1.66 ポイント）となっている。

最も投票率が低かったのは青森県の 46.25%で、次いで岡山県の 48.88%、千葉県の 49.22%であった。

表 2－1　都道府県別投票率（比例代表選挙　降順）

	投票率(%)		比較		投票率(%)		比較
	第 23 回 (A)	第 22 回 (B)	(A)-(B)		第 23 回 (A)	第 22 回 (B)	(A)-(B)
島根県	60.88	71.69	−10.81	愛知県	52.66	57.46	−4.80
山形県	60.75	63.96	−3.21	佐賀県	52.51	63.05	−10.54
鳥取県	58.87	65.76	−6.89	熊本県	52.30	61.91	−9.61
三重県	57.81	60.85	−3.04	香川県	52.08	57.71	−5.63
長野県	57.72	64.72	−7.00	京都府	52.05	53.71	−1.66
岩手県	57.52	60.35	−2.83	群馬県	51.75	58.55	−6.80
山梨県	56.65	64.04	−7.39	埼玉県	51.21	55.82	−4.61
秋田県	56.19	65.05	−8.86	静岡県	51.09	57.37	−6.28
新潟県	55.82	60.99	−5.17	宮城県	50.75	53.34	−2.59
奈良県	55.54	59.11	−3.57	鹿児島県	50.41	58.36	−7.95
石川県	54.98	59.85	−4.87	山口県	50.34	61.90	−11.56
和歌山県	54.93	59.37	−4.44	富山県	50.23	64.85	−14.62
福島県	54.52	61.62	−7.10	広島県	49.99	53.51	−3.52
神奈川県	54.47	55.56	−1.09	高知県	49.89	58.49	−8.60
北海道	54.41	61.88	−7.47	宮崎県	49.81	56.77	−6.96
長崎県	54.04	61.29	−7.25	栃木県	49.70	56.60	−6.90
福井県	53.78	65.25	−11.47	茨城県	49.66	55.11	−5.45
東京都	53.50	58.69	−5.19	愛媛県	49.40	57.55	−8.15
沖縄県	53.39	52.41	0.98	福岡県	49.36	56.07	−6.71
大分県	53.15	62.96	−9.81	徳島県	49.28	58.24	−8.96
兵庫県	53.02	54.41	−1.39	千葉県	49.22	54.84	−5.62
岐阜県	52.97	59.75	−6.78	岡山県	48.88	56.97	−8.09
滋賀県	52.95	60.81	−7.86	青森県	46.25	54.55	−8.30
大阪府	52.72	56.34	−3.62	合計	52.61	57.92	−5.31

（3）選挙結果

全改選議席数 121（比例代表 48、選挙区 73）のうち、自民党が過半数を超える 65 議席（当選者割合 53.7%）を獲得している（表 2－2)。非改選議席数 50 議席と合わせると 115 議席となり、改選前議席数(84)より 31 議席の増となった。

民主党は 17 議席を獲得したにすぎず、非改選議席数 42 と合わせて 59 議席となり、改選前議席数 86 から 27 議席を失った。

日本維新の会、みんなの党、共産党はそれぞれ 8 議席を獲得し、非改選議席数と合わせると、それぞれ改選前議席数より 5 又は 6 議席増加した。自民党と連立を組んでいる公明党も 11 議席を獲得し、非改選議席数と合わせると 1 議席増の 20 議席となった。

選挙後の参議院の勢力図は、連立与党である自民党と公明党が合計 135 議席を得て過半数を占めることになり、今回の参院選の争点の一つでもあった衆議院との「ねじれ」は解消されることになった。

表 2－2　第 23 回参議院選挙結果

	当選者数	当選者割合	非改選	改選後議席数	改選前議席数
自民党	65	53.7	50	115	84
民主党	17	14.0	42	59	86
日本維新の会	8	6.6	1	9	3
公明党	11	9.1	9	20	19
みんなの党	8	6.6	10	18	13
生活の党	0	0.0	2	2	8
共産党	8	6.6	3	11	6
社民党	1	0.8	2	3	4
みどりの風	0	0.0	0	0	4
新党大地	0	0.0	0	0	1
緑の党グリーンズジャパン	0	0.0	0	0	0
幸福実現党	0	0.0	0	0	0
新党改革	0	0.0	1	1	2
諸派・無所属	3	2.5	1	4	7
欠員	0	0.0	0	0	5
合計	121	100.0	121	242	242

次に比例代表選挙、選挙区選挙のそれぞれの結果を見ていく（表 2－3）。

まず、比例代表選挙は、自民党が 34.68%を得票し、定数（48）の約 4 割を占める 18 議席を獲得している。得票率が 10%以上のその他の政党を見ると、公明党が 14.22%で 7 議席、民主党が 13.40%で 7 議席、日本維新の会が 11.94%で 6 議席を獲得している。

自民党、民主党の得票率を前回と比較してみると、自民党は前回の得票率 24.07%（12 議席獲得）から今回は 34.68%へ、10.61 ポイント増加している。民主党は前回の得票率 31.56%から今回は 13.40%に、18.16 ポイント減少している。

選挙区選挙では、自民党が 42.74%の得票率を得て、47 議席を獲得した。議席率は 64.38%であった。一方、民主党は 16.29%の得票で当選者中の 13.70%にあたる 10 議席となっている。その他、共産党が 10.64%の得票で 3 議席、みんなの党が 7.84%の得票で 4 議席、日本維新の会が 7.25%の得票で 2 議席、公明党が 5.13%の得票で 4 議席を、諸派・無所属が 5.24%の得票で 3 議席をそれぞれ獲得した。

表 2－3　党派別得票率

	比例代表選挙					選挙区選挙				
	立候補者数	議席数	得票数	得票率(%)	議席率(%)	立候補者数	議席数	得票数	得票率(%)	議席率(%)
自民党	29	18	18,460,335	34.68	37.50	49	47	22,681,192	42.74	64.38
民主党	20	7	7,134,215	13.40	14.58	35	10	8,646,371	16.29	13.70
日本維新の会	30	6	6,355,299	11.94	12.50	14	2	3,846,649	7.25	2.74
公明党	17	7	7,568,082	14.22	14.58	4	4	2,724,447	5.13	5.48
みんなの党	15	4	4,755,160	8.93	8.33	19	4	4,159,961	7.84	5.48
生活の党	6	0	943,836	1.77	0.00	5	0	618,355	1.17	0.00
日本共産党	17	5	5,154,055	9.68	10.42	46	3	5,645,937	10.64	4.11
社会民主党	4	1	1,255,235	2.36	2.08	5	0	271,547	0.51	0.00
みどりの風	3	0	430,742	0.81	0.00	5	0	620,272	1.17	0.00
新党大地	9	0	523,146	0.98	0.00	2	0	409,007	0.77	0.00
緑の党グリーンズジャパン	9	0	457,862	0.86	0.00	1	0	58,032	0.11	0.00
幸福実現党	3	0	191,643	0.36	0.00	47	0	606,692	1.14	0.00
諸派・無所属	－	－	－	－	－	39	3	2,784,014	5.24	4.11
合計	162	48	53,229,611	100.00	100.00	271	73	53,072,476	100.00	100.00

＊得票数について小数点以下の端数は切り捨てにした。

最後に比例代表制が導入された第 13 回以降の男女別立候補者数と当選者数及び当選者中の女性の比率の推移を表 2－4 にまとめた。

当選者中の女性の比率を見ると、第 13 回、第 14 回は一桁台であったが、第 15 回以降は 10%以上となっている。特に第 15 回は、日本社会党の「マドンナ旋風」などの影響もあり、参院選史上女性の候補者数が最も多く、当選者比率も前回から 9.52 ポイント増加し、17.46%となっている。もっとも女性当選者の比率が高かったのは、民主党が第一党に躍進した第 21 回の 21.49%で、今回は、前回より 4.13 ポイント増加して 18.18%となり、過去 2 番目の高さとなった（第 15 回と当選者数は同じであるが、これは改選議員定数が第 18 回までが 126 で、第 19 回以降が 121 となっているため、比率が違う）。

表 2－4　男女別立候補者数・当選者数

	候補者数		当選者数		当選者中の女性比率(%)
	男性	女性	男性	女性	
第 13 回(昭和 58･6)	375	55	116	10	7.94
第 14 回(昭和 61･7)	424	82	116	10	7.94
第 15 回(平成元･7)	524	146	104	22	17.46
第 16 回(平成 4･7)	517	123	113	13	10.32
第 17 回(平成 7･7)	443	124	105	21	16.67
第 18 回(平成 10･7)	364	110	106	20	15.87
第 19 回(平成 13･7)	359	137	103	18	14.88
第 20 回(平成 16･7)	254	66	106	15	12.40
第 21 回(平成 19･7)	286	91	95	26	21.49
第 22 回(平成 22･7)	337	100	104	17	14.05
第 23 回(平成 25. 7)	328	105	99	22	18.18

＊当選者数は比例代表選挙及び選挙区選挙の当選者数の合計

（４）選挙競争率

今回の参院選の選挙競争率は、選挙区選挙が 3.7 倍、比例代表選挙が 3.4 倍であった（表 2－5）。

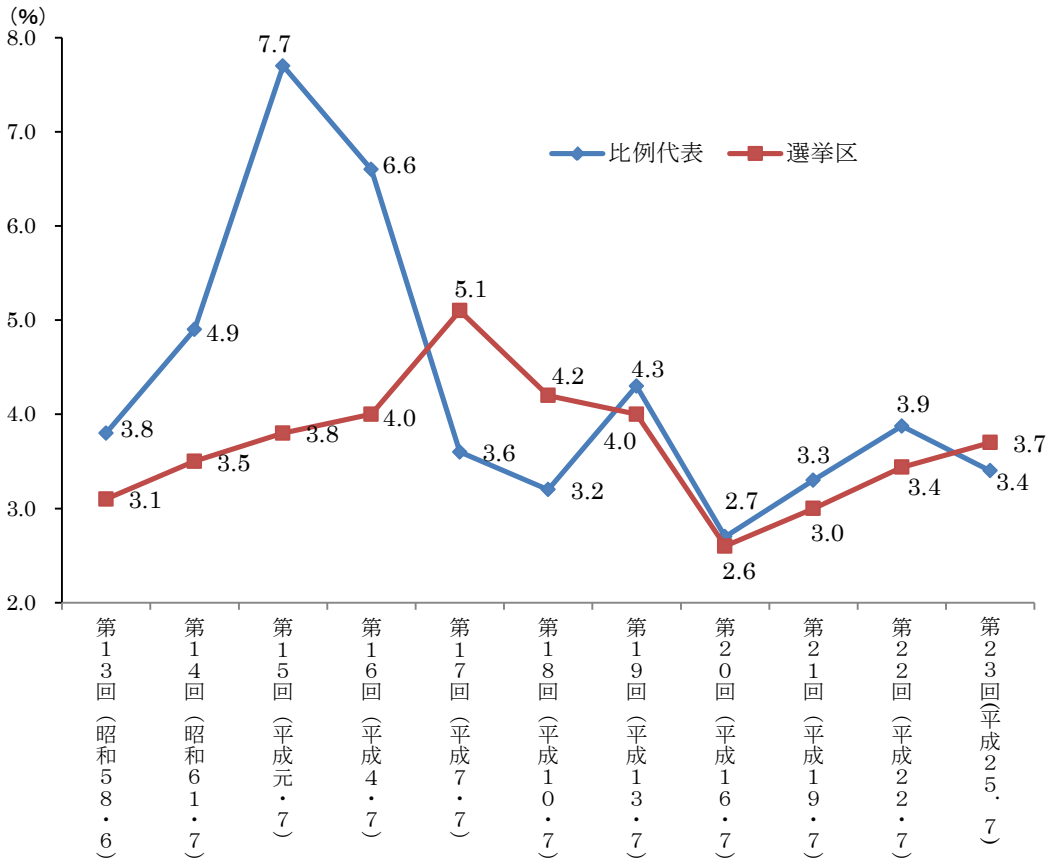
競争率の推移を見ると（図 2－4）、比例代表選挙は、第 15 回の 7.7 倍が最も高く、その後大きく低下して、第 20 回で過去最低の 2.7 倍となった。以降、今回まで大きな変動はない。なお、第 13 回から第 18 回までは拘束名簿式だったが、第 19 回からは非拘束名簿式に改正されている。

選挙区選挙は比例代表選挙と様相が異なり、競争率の増減の幅が狭く、比較的なだらかな上昇と低下を繰り返している。比例代表選挙と同じく第 20 回の競争率が過去最低で（2.6 倍）、以降今回まで若干ずつ上昇している。

表 2－5　競争率

	競争率(%)	改選定数	立候補者数
選挙区選挙	3.7	73	271
比例代表選挙	3.4	48	162

図 2－4　参議院選挙競争率の推移



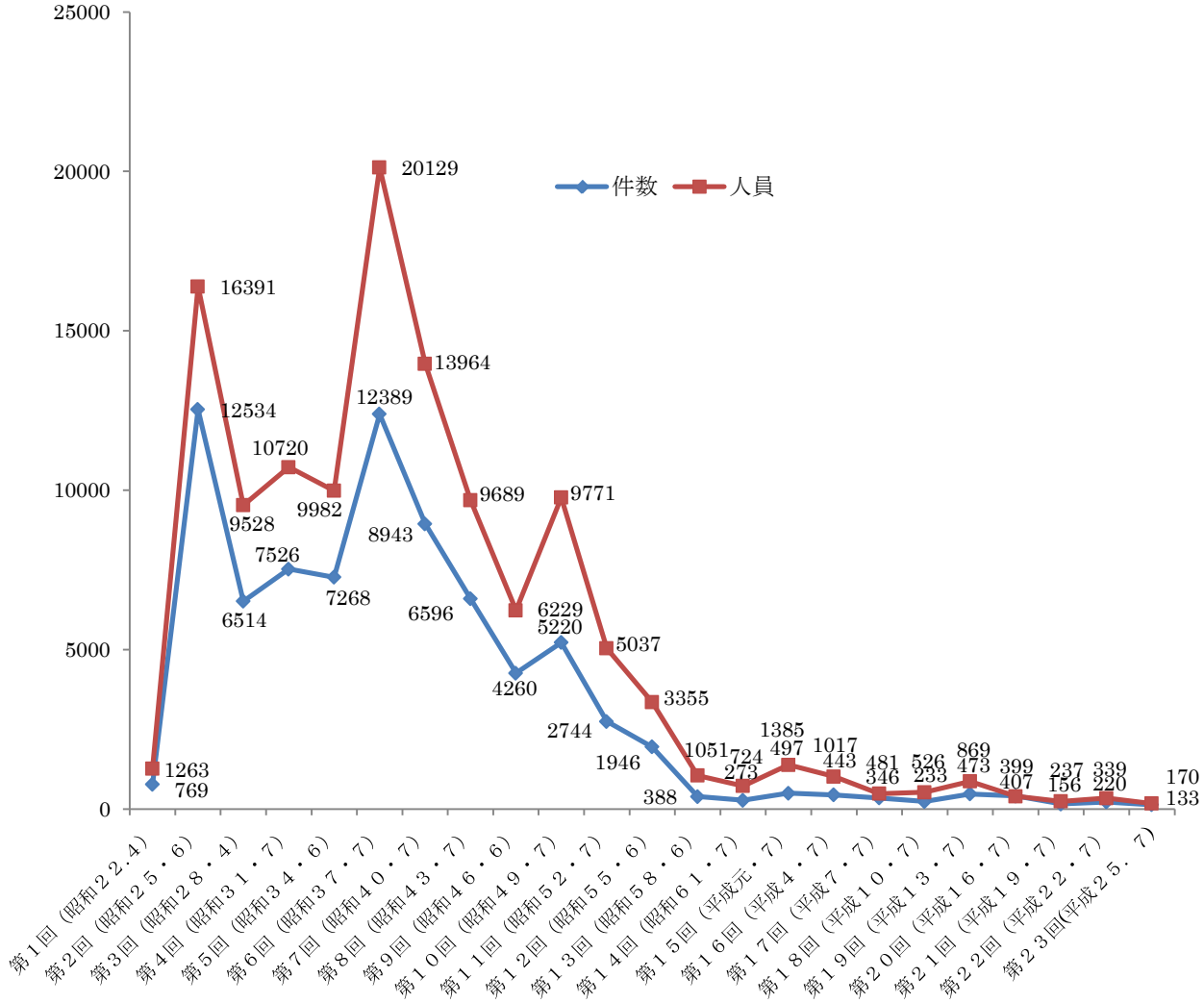
（５）選挙違反検挙状況

警察庁発表の選挙期日後 90 日時点における選挙違反検挙状況を表 2－6 にまとめた。今回の参院選における検挙件数は 133 件、検挙された人数は 170 人で、検挙件数、検挙人数はともに前回より減少し、過去最少となった。（図 2－5）。

表 2－6　選挙違反検挙状況（選挙期日後 90 日時点）

	件数	人員
買収	61	85
自由妨害	19	19
戸別訪問	1	1
文書違反	14	15
投票干渉	10	14
詐偽投票	16	19
投票偽造	3	8
その他	9	9
合計	133	170

図 2－5　選挙違反検挙数の推移



以下は本調査に基づく分析結果である。

当協会の選挙に関する意識調査は、前回まで面接調査法により実施してきたが、一昨年に行われた第 46 回衆院選の意識調査から郵送調査に変更した。個人情報保護法の全面施行以降、個人情報に対する国民の意識が変わったことなどからそれまで 70%以上あった回収率が 10 ポイント程度低下したが、調査方法を郵送調査に変えたところ、従前の 70%台の回収率を得ることができた。

今回の回収率は 67.1%と、70%台には届かなかったものの、前回調査の回収率（63.3%）を上回ることができた。

年代別に回収率を見ると、20 歳代の回収率が顕著に違っており、調査時に調査員などに回答するのではなく、自由な時間に回答できる郵送調査が 20 歳代には受入れられたものと考える（20 歳代今回 56.0%、前回 39.4%）。

(%)

	回収率	
	今回	第22回
全体	67.3	63.3
20歳代	56.0	39.4
30歳代	62.8	60.0
40歳代	60.5	59.8
50歳代	73.4	66.8
60歳代	76.0	75.4
70歳以上	70.3	68.3

分析ではこれまで尋ねてきた質問の回答結果を時系列にグラフなどで表しているが、今回は調査方法が変わっている点を留意する必要がある。

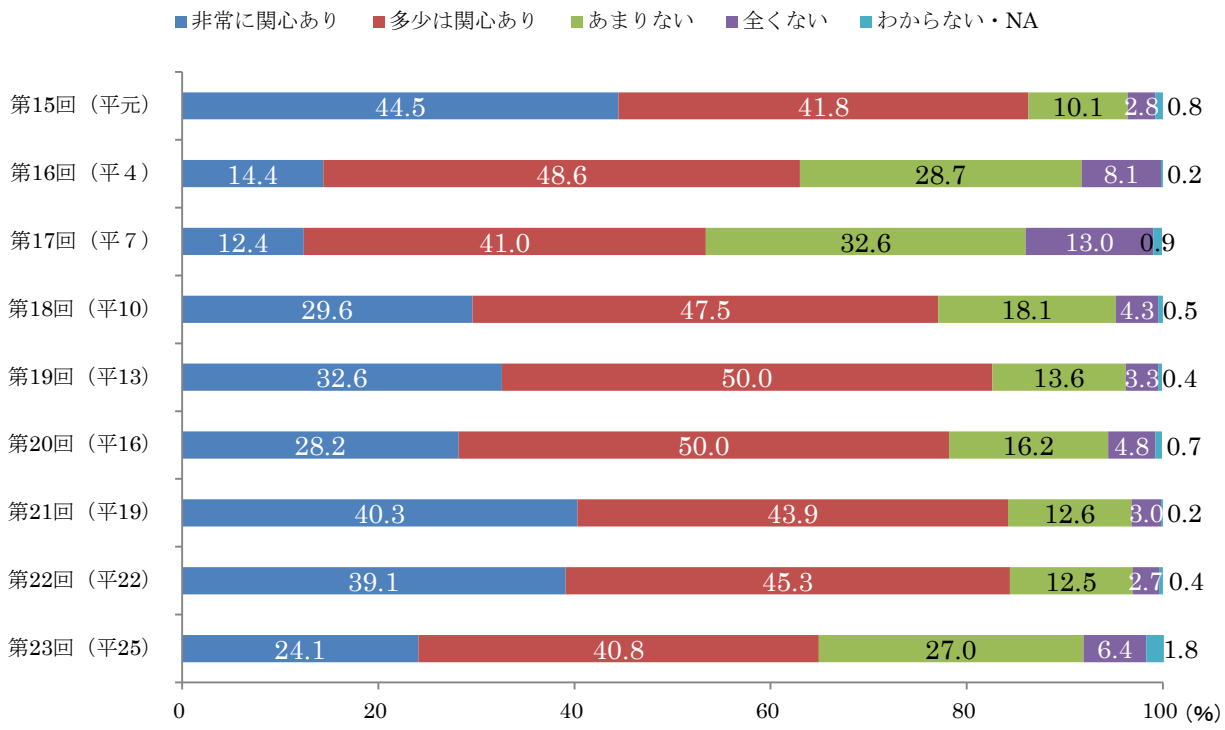
3　選挙への意識

（1）選挙関心度

今回の参院選に有権者はどの程度の関心を示していたのだろうか。「7 月の参院選について、あなた自身は、どれくらい関心がありましたか」という質問に対して、24.1%が「非常に関心があった」、40.8%が「多少は関心があった」、27.0%が「あまり関心がなかった」、6.4%が「全く関心がなかった」と回答しており、「関心があった（「非常に」＋「多少は」）」と答えた人は 64.9%に上った。しかし、前回に比べると、「非常に関心があった」割合は、15.0 ポイント減少し、「多少は関心があった」を含めた割合（64.9%）も 19.5 ポイント減少しており、投票率が過去 2 番目に低い第 16 回（投票率：50.70%）の割合（63.0%）に近い（図 3－1）。

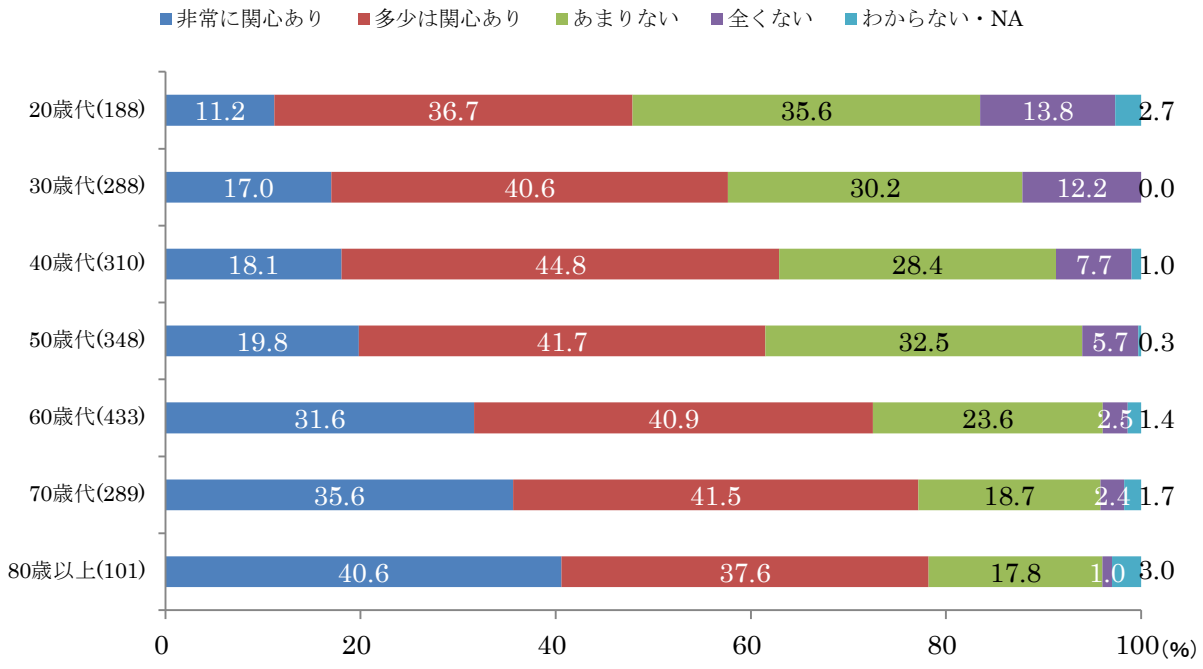
なお、前回参院選での当該質問の選択肢は「非常に関心を持った」、「多少は関心を持った」、「ほとんど関心を持たなかった」、「全く関心を持たなかった」であったが、「ほとんど関心を持たなかった」は、否定的ニュアンスが強く「全く関心を持たなかった」に近いことから、今回の調査では「あまり」に改めている（次の「（2）政治関心度」を尋ねた質問の選択肢も同様に改めた）。

図 3－1　選挙関心度の推移



今回の参院選に対する関心度を年代別に見ると（図 3－2)、選挙関心度は、投票率と同様、年齢との関係があることがわかる。「非常に関心があった」割合は、20 歳代では 11.2%にすぎないが、30 歳代で 17.0%、40 歳代で 18.1%と年代が上がるごとに上昇している。

図 3－2　年代別選挙関心度



注　（　　)内の数字は度数である（以下同じ）

（２）政治関心度

平常時の政治への関心度を探るため「あなたは、ふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか」と尋ねた。その結果、22.9%が「非常に関心を持っている」、57.6%が「多少は関心を持っている」、15.9%が「あまり関心を持っていない」、2.5%が「全く関心を持っていない」と回答した（図 3－3）。なお、「ふだん」を質問文に含めたのは前回調査からである点、また前述の通り調査方法が面接調査から郵送調査に変わった点も留意する必要がある。

これまでの調査結果の推移を見ると、平成 16 年の第 20 回から 22 回（前回）まで「非常に関心を持っている」が増加してきていた。「多少は関心を持っていた」と併せても増加してきたが、今回は、「非常に関心を持っていた」が 6.5 ポイント減少し 22.9%に、「多少は関心を持っていた」も 2.4 ポイント減り 57.6%となっている。

年代別の政治関心度を見ると（図 3－4）、「非常に関心を持っている」割合は、20 歳代では 6.4%だが、30～40 歳代 17.7%、50 歳代 19.5%と年代が上がるにつれて高まる。20 歳代の政治関心度は低く、「あまり関心を持っていない」、「全く関心を持っていない」、「わからない」を合せた割合は半数近く（43.6%）になる。

図 3－3　政治関心度の推移

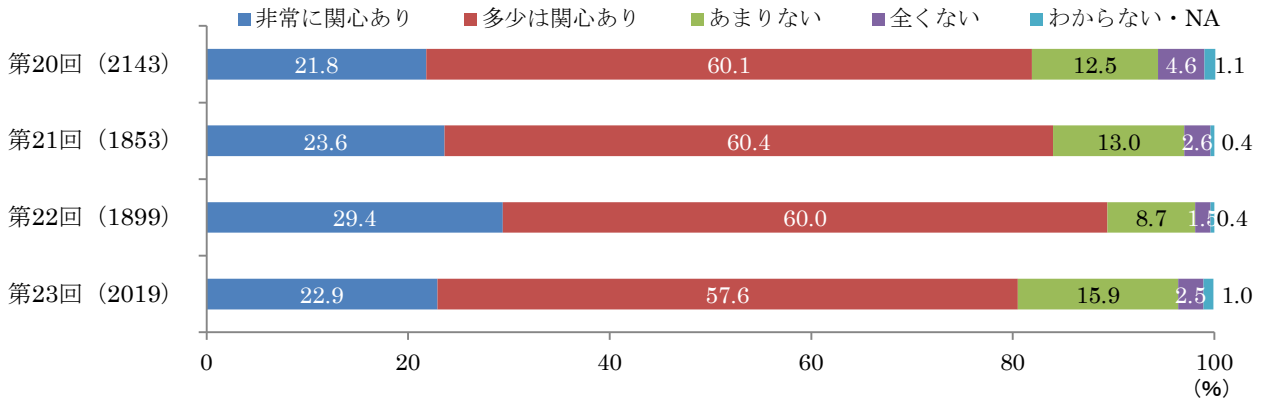
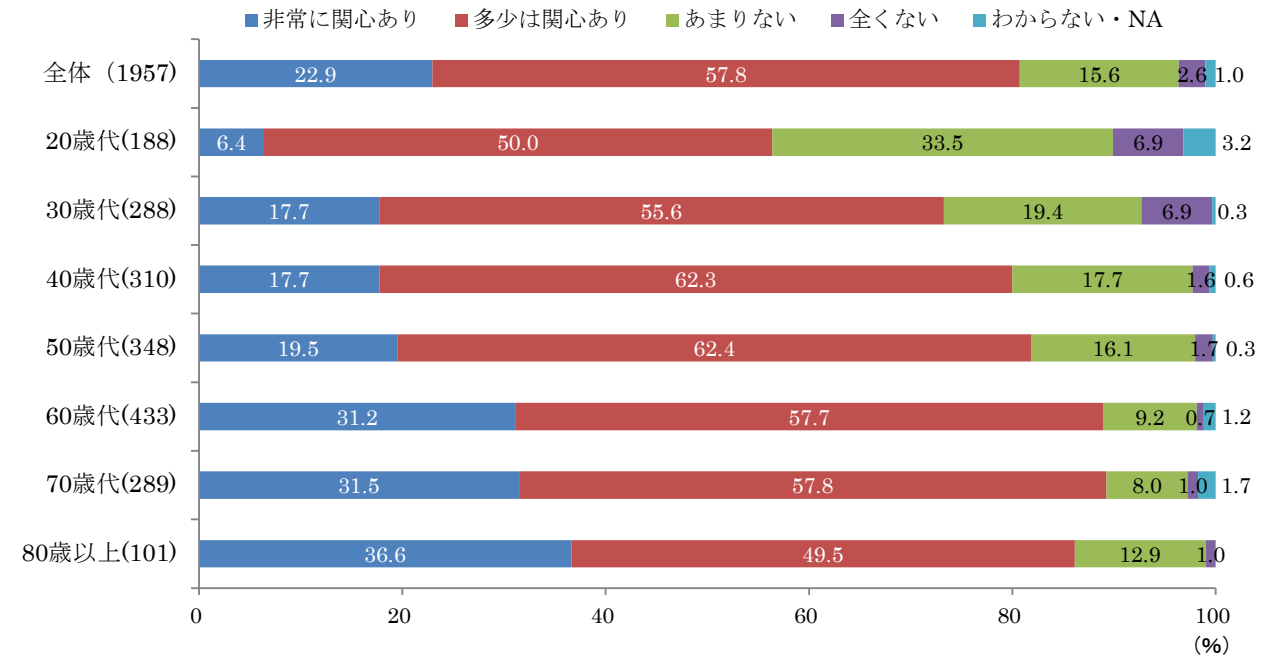


図 3－4　年代別政治関心度

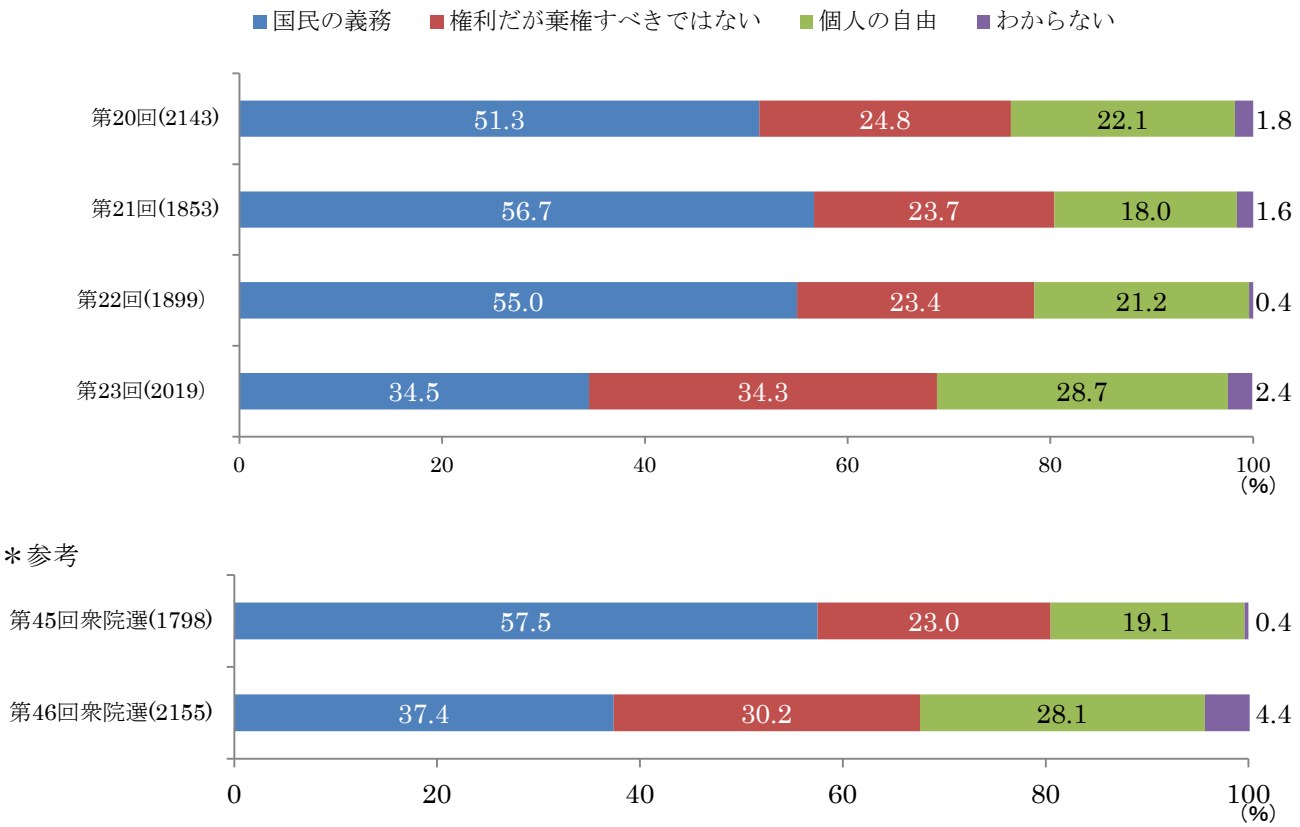


（３）投票に対する意識（投票義務感）

有権者は、選挙で投票するという行為を義務と捉えているのか、それとも権利と捉えているのか。「あなたはふだん、選挙の投票について、この中のどれに近い考えをもっていますか」という質問に対して 34.5%が「投票することは国民の義務である」、34.3%が「投票することは、国民の権利であるが、棄権すべきではない」、28.7%が「投票する、しないは個人の自由である」、2.4%が「わからない」と回答している（図 3－5）。

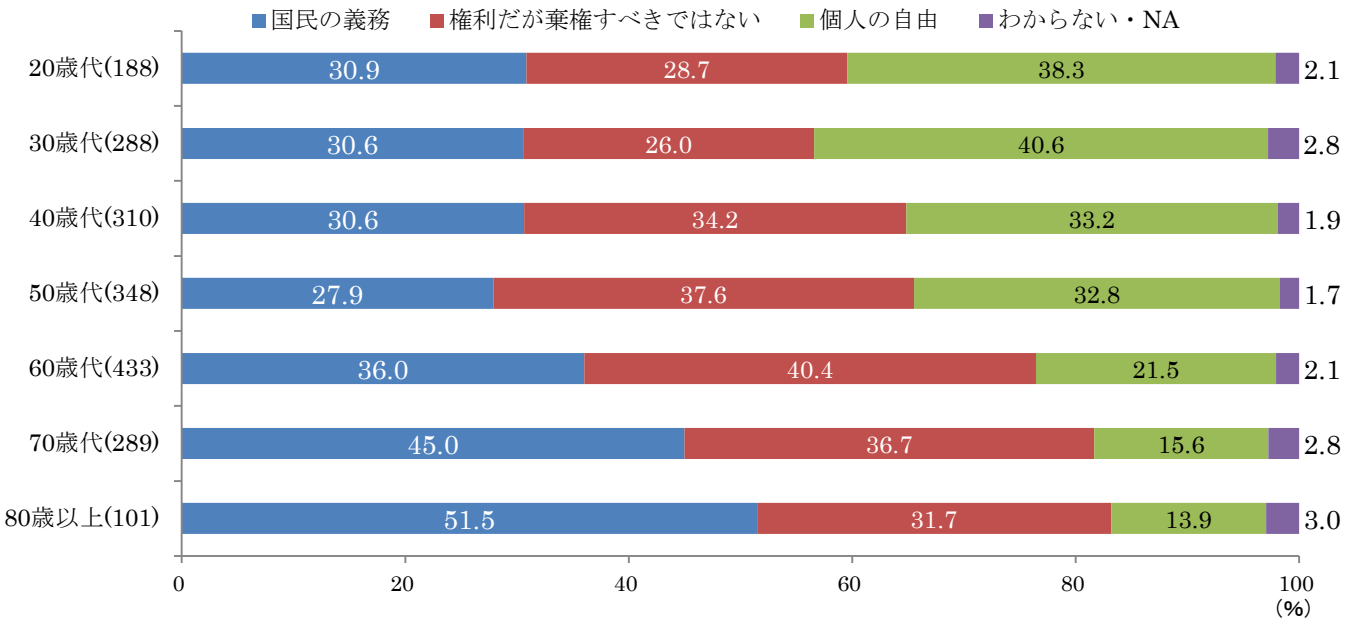
今回の調査では、前回以前の調査と比べ、「国民の義務」が約 20 ポイントと大幅に減少している。逆に、前回調査以前は 20%台前半だった「権利だが棄権すべきではない」が今回は約 10 ポイント増えて 34.3%となっている。「個人の自由」も前回から約 7 ポイント増えている。第 46 回衆院選の意識調査でも同様の傾向が見られることから、この変化は調査方法が郵送調査に変わったことに起因するのではないかと考える。

図 3－5　投票に対する意識



次に投票に対する意識を年代別に見ると（図 3－6）、「国民の義務」という意識（投票義務感）は 20 歳代から年代を追うごとに概ね増加傾向にある（20 歳代は 30.9%、80 歳以上は 51.5%）。一方、若い人ほど、「個人の自由」という意識が強く（20 歳代 38.3%、30 歳代 40.6%、70 歳代 15.6%、80 歳以上 13.9%）、選挙に対する意識は年代によって大きく異なっている。

図 3－6　投票に対する意識（年代別）



（4）政党支持

表 3 は、過去 6 回の参院選について、政党支持率の推移を示したものである。自民党の支持率は前回の 25.6%から 33.5%に上昇した。一方、民主党の支持率は前回の 25.3%から 10.4%へと大きく減少した。両党とも一昨年の衆院選調査における支持率とほぼ同じであった（第 46 衆院選自民党 33.6%、民主党 10.7%）。

一昨年の衆院選の際に設立された「日本未来の党」が改称した「生活の党」は 0.8%であった。「支持政党なし」の割合は前回の 31.5%から今回 32.5%へ、「わからない」は 6.6%から 7.6%へ微増している。

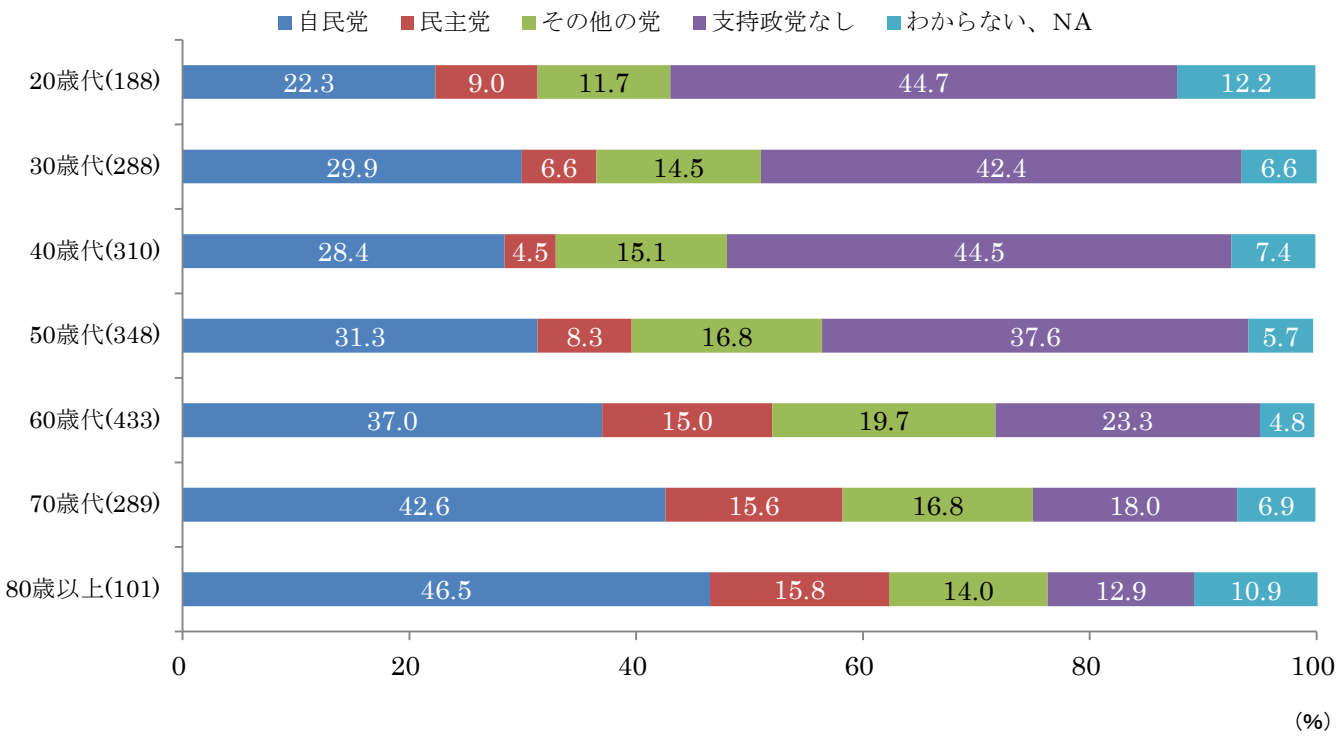
表 3　支持政党

(%)

支持政党	第18回（平10）	第19回（平13）	第20回（平16）	第21回（平19）	第22回（平22）	第23回（平25）
自民党	28.7	38.4	30.7	35.0	25.6	33.5
民主党	9.0	7.9	16.8	18.5	25.3	10.4
公明党	4.5	6.0	4.9	5.1	4.1	4.7
みんなの党					2.8	2.5
生活の党						0.8
共産党	4.2	2.8	2.4	2.5	2.3	3.0
社民党	4.5	2.8	1.2	1.3	0.9	0.7
みどりの風						0.0
日本維新の会						4.1
新党大地					0.1	0.1
その他	2.0	3.4	0.2	0.3	0.3	0.2
支持政党なし				31.8	31.5	32.5
わからない(NA含む)				5.5	6.6	7.6

次に、年代別の支持政党を、「自民党」、「民主党」、「その他の政党」、「支持政党なし」、「わからない」の 5 つに絞って見ていく（図 3－7）。自民党は、年齢が高いほど支持が高まる傾向が見られる。民主党についても同じことが言えるものの、それぞれの支持率は自民党の比ではない。「その他の党」は、20 歳代が他の世代に比べて少ないことを除けば、30 歳代以上に大きな違いは見られない。「支持政党なし」は若い人ほど多く、高齢者に向かうに従い減少していく。 20 歳代は「支持政党なし」＋「わからない」が半数を超えている（56.9%）。

図 3－7　年代別支持政党



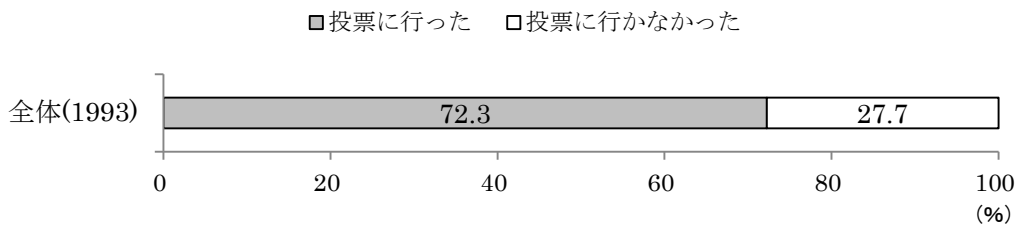
４　投票参加率

（１）投票参加率とは

本報告書では、回答者の中で投票に行ったと回答した人の割合を「投票参加率」と呼び、「投票率」と区別する。「投票率」は、全国の有権者総数のうちで実際に投票した人の割合であり、「投票参加率」は本報告書で用いるデータに基づくものである。なお、無作為抽出法を使用している確率標本を使えば、理論上は「投票参加率」と「投票率」は近似値になるはずであるが、現実には投票参加率と投票率の間に統計上予想される標本誤差より大きなギャップが存在する。その理由は、本調査の回収率が 100%ではなく、調査に協力しなかった対象者が、協力した対象者と特徴が異なるためである。特に、選挙で投票を棄権する有権者は、本調査にも協力しない傾向があると推測できる。したがって、投票参加率は、実際の投票率よりもかなり高くなる。今回は、投票参加率が 72.3%（図 4－1）、実際の投票率が 52.61%（比例代表選挙）なので、19.7 ポイント程のギャップが生じている。ちなみに前回は 22.6 ポイント程のギャップがあった。

なお、以下の分析では、「投票しましたか、しませんでしたか」という質問に対して、「わからない」及び「NA（無回答）」の回答は欠損値として分析から除外した。

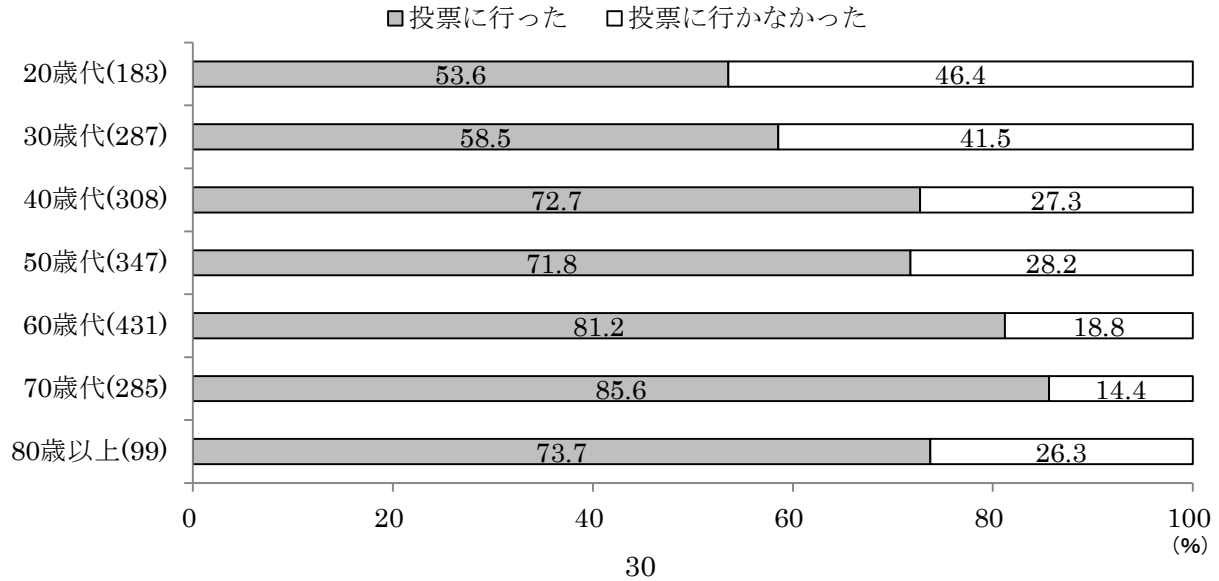
図 4－1　調査回答者の投票参加率



（２）社会的属性と投票参加率

以下、年代別、学歴、職業等の社会的な属性がどのように投票参加率に影響を与えているのかを見ていく。まず、年代との関係では実際の投票率と同じく、若年層の投票参加率が低く、年代が上がるほど投票参加率が高い（図 4－2）。なお、後述するように、若年層の投票参加率は男女間の差が大きく、女性の投票参加率が特に低い。

図 4－2　年代別投票参加率



次に、学歴と投票参加率の影響を見るが、在学中の場合、それを最終学歴とみなしている。学歴は、世代によって進学率が大幅に違うので、（１）「20~30 歳代」、（２）「40~50 歳代」、（３）「60 歳以上」の三つに分けて見ていくことにする（図 4－3～5）。まず、20~30 歳代では、学歴の影響が明らかに出ている。最終学歴が中学・高校卒の場合の投票参加率は 34.3%であるの対して、大学・大学院卒では 73.9%となり、39.6 ポイントの差が生じている。高学歴ほど投票参加率が高いという関係は、40~50 歳代、60 歳以上でも見られるが、その関係は 20~30 歳代ほどではない。

図 4－3　学歴と投票参加率（20~30 歳代）

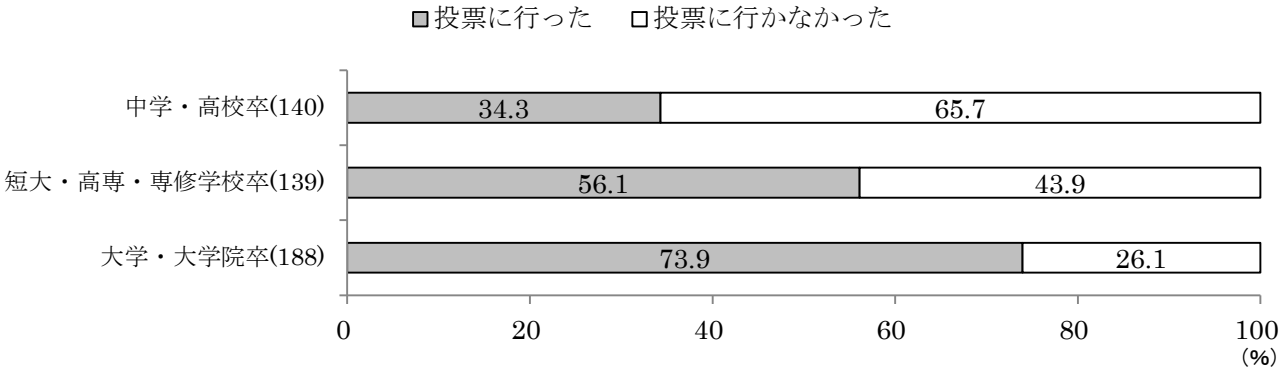


図 4－4　学歴と投票参加率（40~50 歳代）

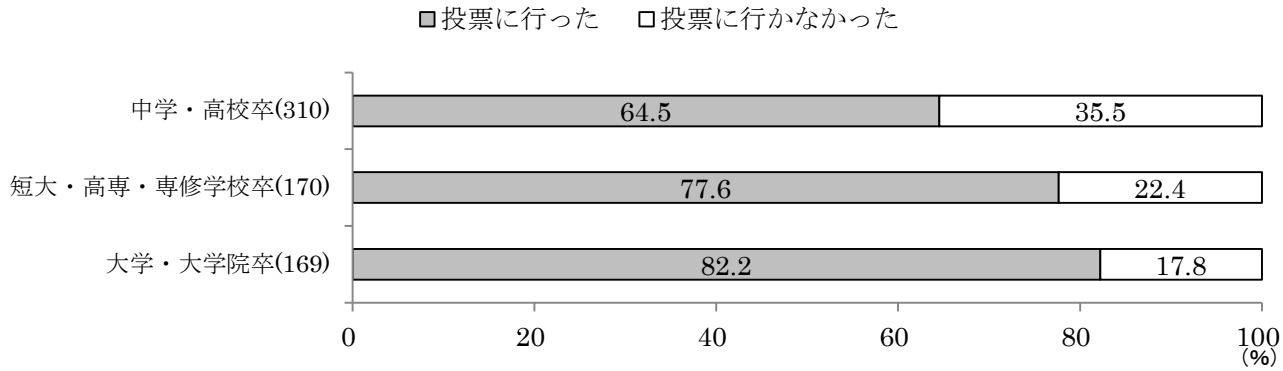
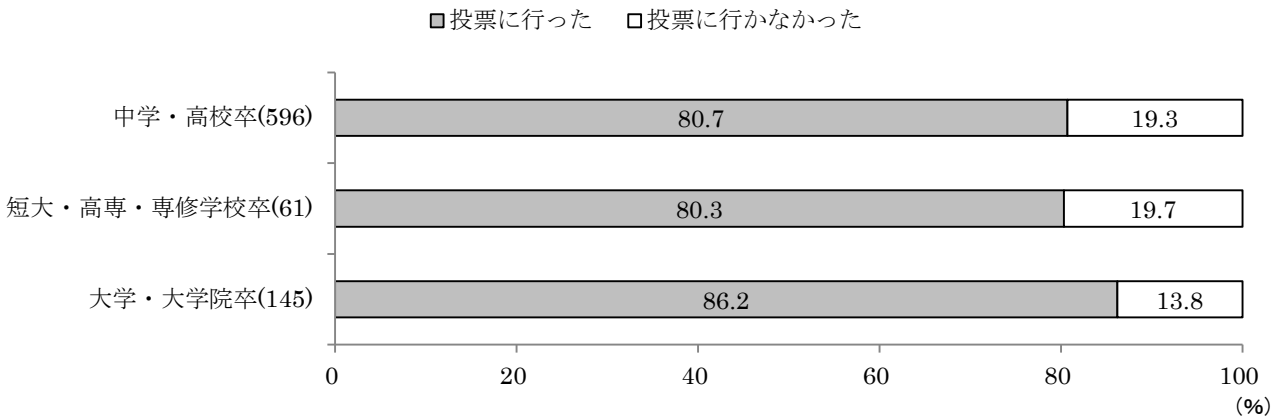
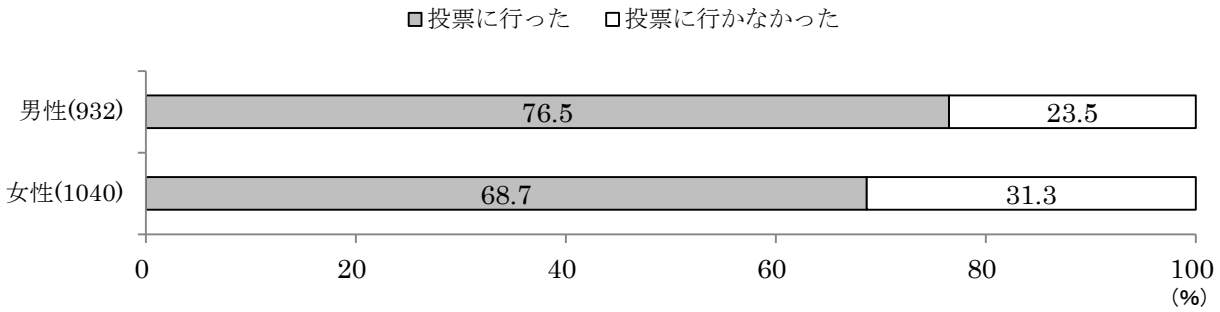


図 4－5　学歴と投票参加率（60 歳以上）



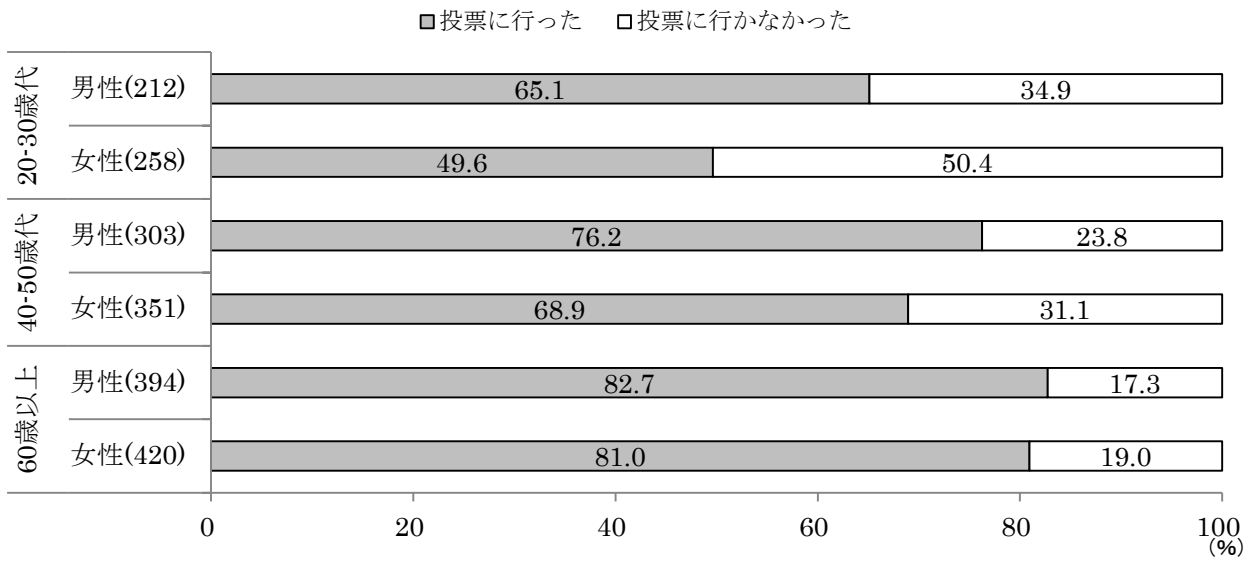
性別での違いを見ると（図 4－6)、男性の投票参加率は 76.5%、女性は 68.7%で、7.8 ポイント男性が女性を上回っている。実際の投票率も男性が女性を上回っているのが、図 2－2 で確認できる。

図 4－6　性別と投票参加率



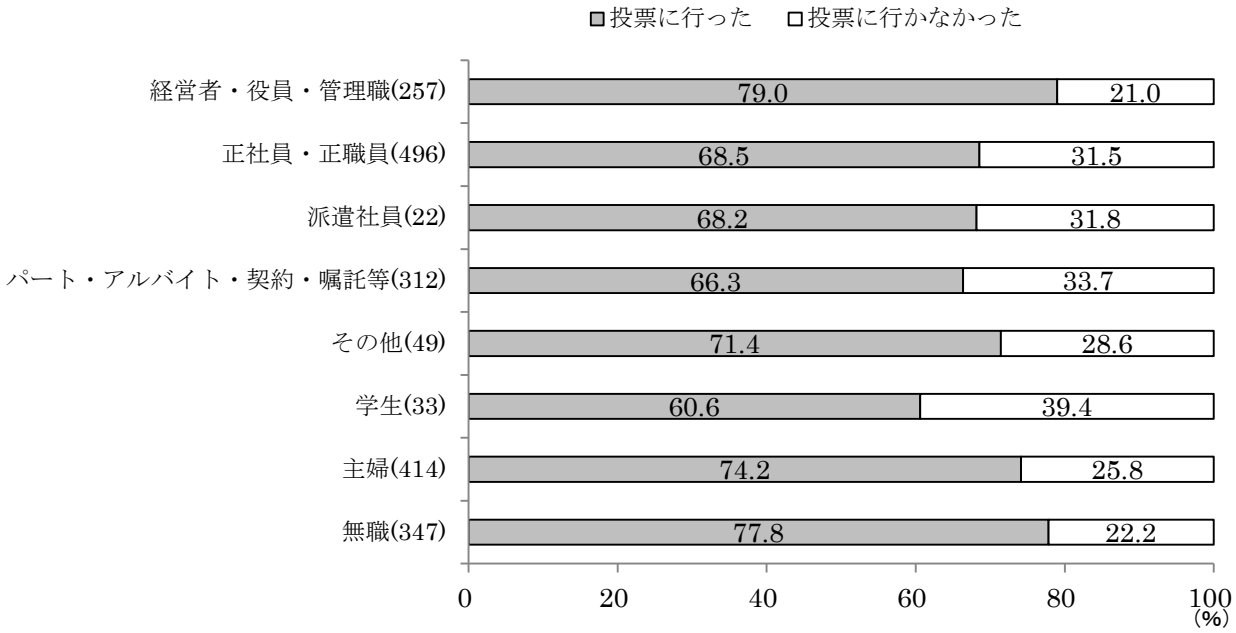
男女の違いを、若年層（20～30 歳代)、中年層（40～50 歳代)、高年層（60 歳以上）に分けて見てみる（図 4－7)。いずれの年代も男性の投票参加率が女性を上回っているが、若年層で 15.5 ポイント、中年層で 7.3 ポイント、高年層で 1.7 ポイントと、若年層ほどその差は大きい。女性の投票参加率が低いのは、主に若い女性の投票参加率が低いことに起因していることがわかる。

図 4－7　性・年代別と投票参加率



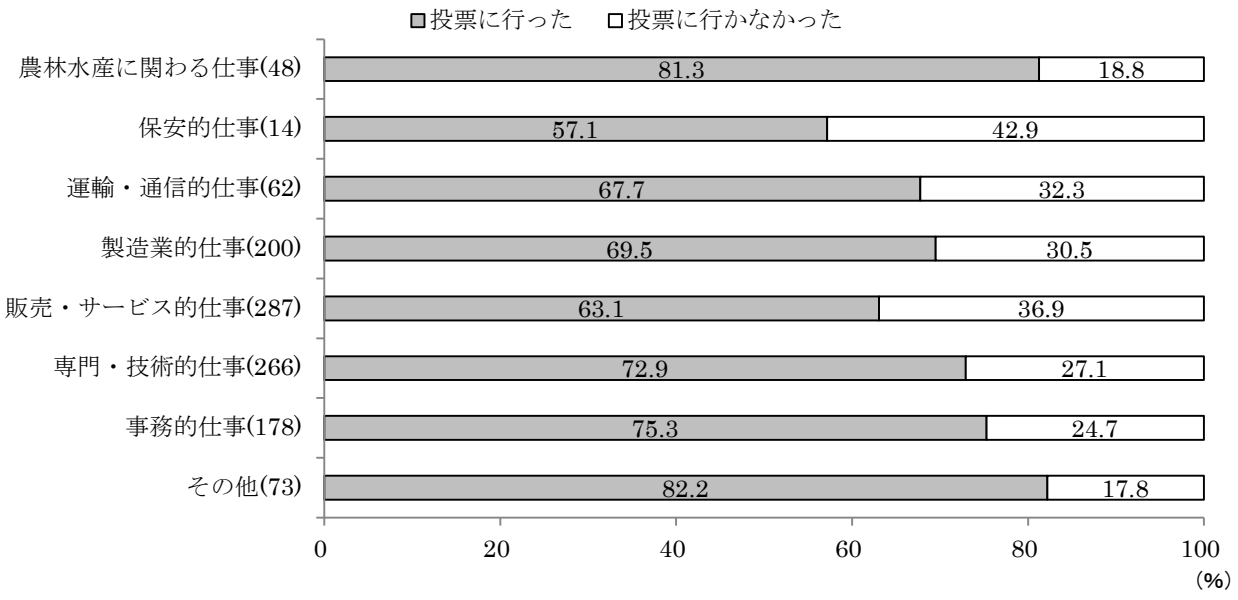
就業形態別による違いも見てみる（図 4－8)。最も投票参加率が高かったのは経営者・役員・管理職の 79.0%で、次いで無職の 77.8%、主婦の 74.2%、正社員・正職員の 68.5%、派遣社員の 68.2%が続いている。無職の投票参加率が高いのは、60 歳以上の高齢者が約 9 割を占めていることが一因と思われる。

図 4－8　就業形態別投票参加率



次に就業者について、職種別投票参加率を見てみると（図 4－9)、その他を除き農林水産に関わる仕事の投票参加率が 81.3%と最も高く、次いで事務的仕事 75.3%が続く。最も低かったのは保安的仕事の 57.1%であった。

図 4－9　職種別投票参加率



所属団体別では、団体に全く所属していない人の投票参加率は 64.7%で、団体所属者よりも低い（図 4－10）。団体やグループに所属することで、社会・政治に関する情報を得る機会が増えたり、社会・政治運動の動員の対象となることもあることから、投票参加率が高くなると考えられる。

図 4－10　所属団体と投票参加率

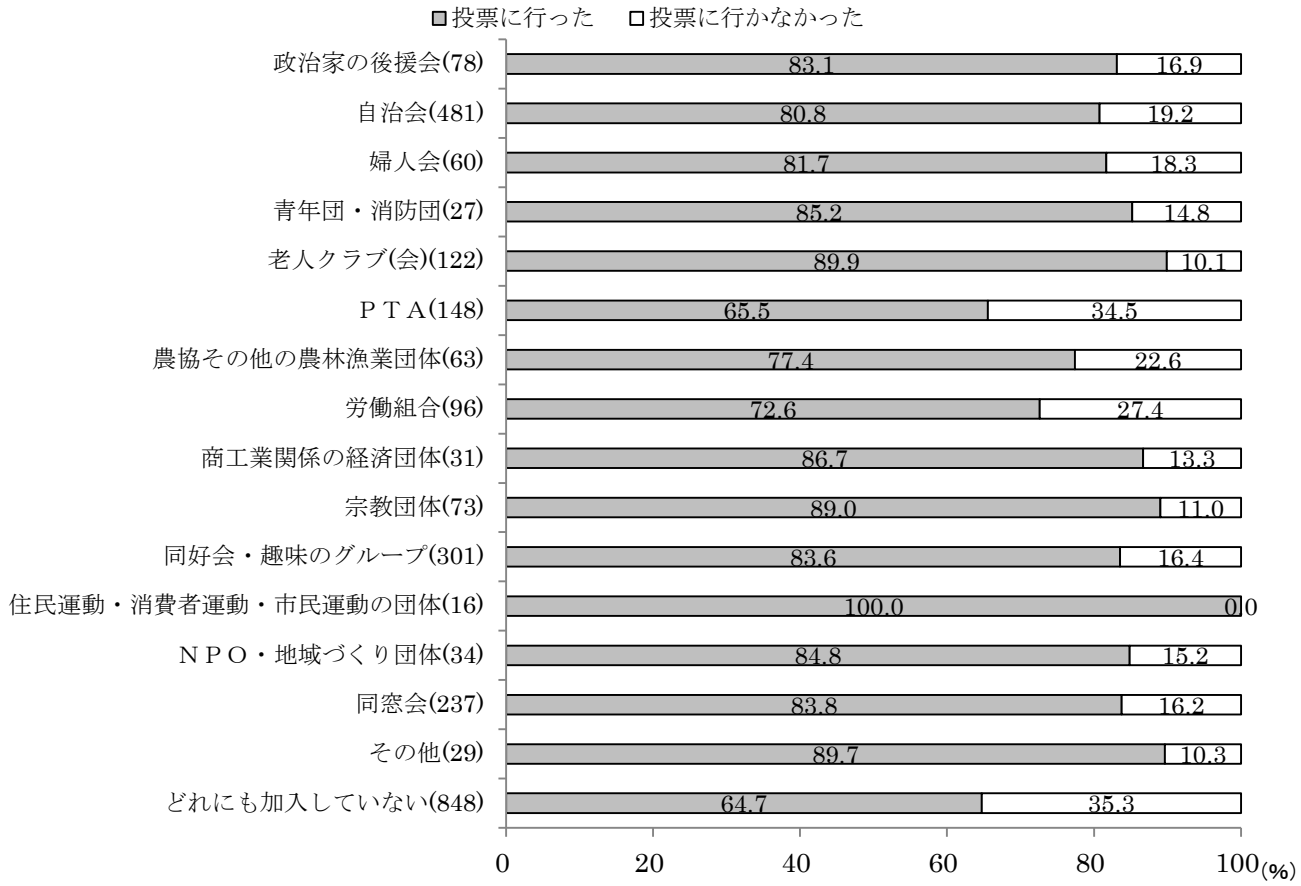


図 4－11 は、投票所までの時間と投票参加率の関係を見たものである。投票所までの時間が 5 分未満の人の投票参加率は 76.5%、10 分未満の人は 73.0%であるのに対し、20 分以上の人は 52.3%に留まっている。一昨年末に行われた第 46 回衆院選での意識調査でも 20 分以上かかる人の投票参加率は今回の調査結果と同様で 52.2%であった。投票所までの時間が投票参加率に影響を与えていることがわかる。

参考までに全国の投票所の数の推移を表 4 にまとめた。第 20 回以降、今回までの間に大きく減少しているのがわかる。有権者の投票環境を確保するためには再考が求められよう。

図 4－11　投票所までの時間と投票参加率

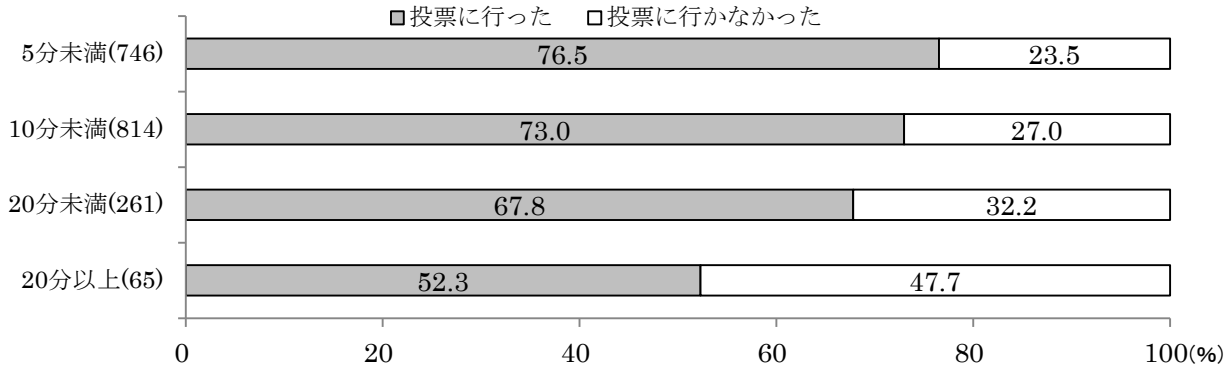


表 4　投票所数の推移（全国）

	投票所数	前回比
第 19 回(平 13)	53,439	22
第 20 回(平 16)	53,290	−149
第 21 回(平 19)	51,742	−1,548
第 22 回(平 22)	50,311	−1,431
第 23 回(平 25)	48,777	−1,534

（3）政治意識と投票参加率

ここでは、政治意識と投票参加率の関係を見てみることにしたい。

まず、政治関心度と投票参加率の関係を年代別に見てみよう。政治関心度は「あなたはふだん国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか」という質問を指標としている。全体で見ると（図 4−12)、「全く関心を持っていない」、「あまり関心を持っていない」と答えた人の投票参加率は 23.5%、50.6%であるのに対して、「多少は関心がある」人は 73.7%が、さらに「非常に関心がある」人では 89.1%が投票に行っている。このように政治関心度は投票参加率に強く影響していることがわかる。この傾向はどの年代でも同様に見られる（図 4−13〜15)。

図 4−12　政治関心と投票参加率（全体）

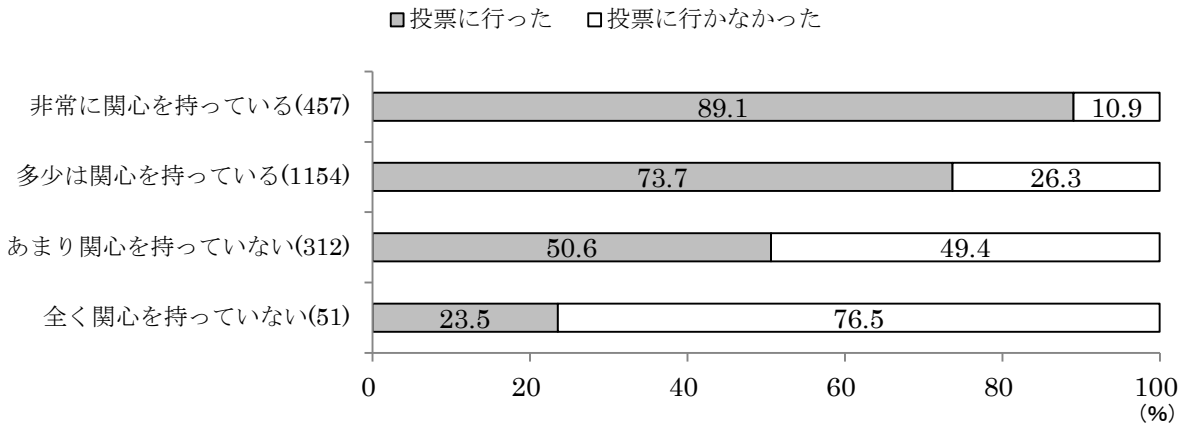


図 4−13　政治関心と投票参加率（20~30 歳代）

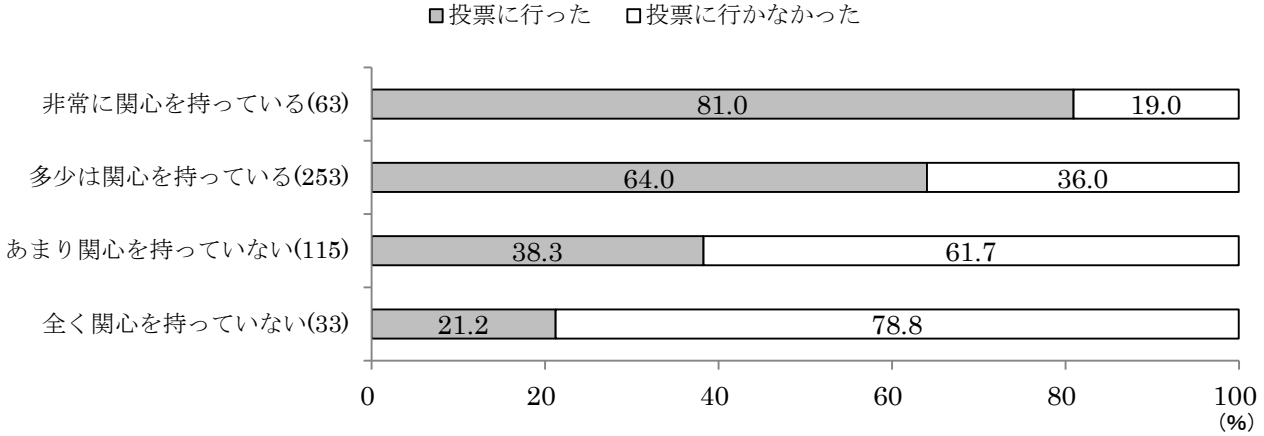


図 4－14　政治関心と投票参加率（40~50 歳代）

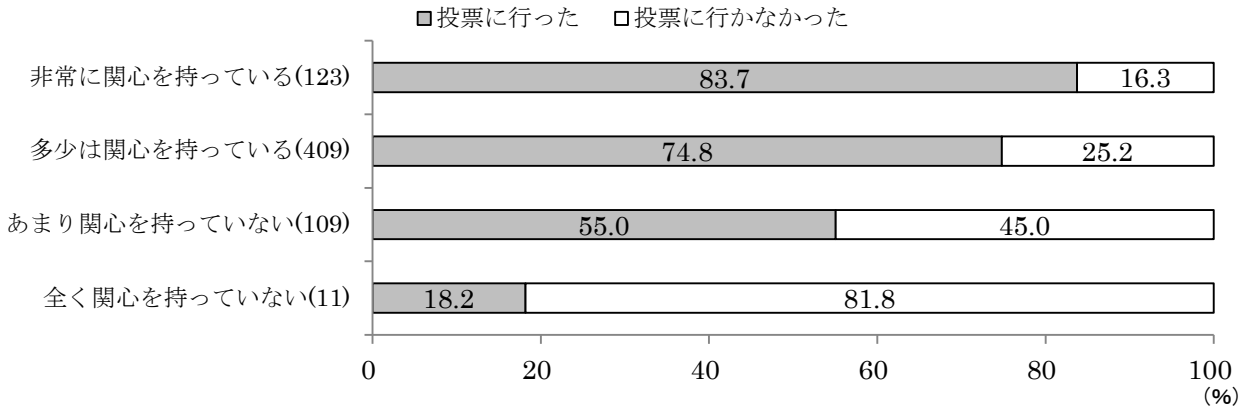
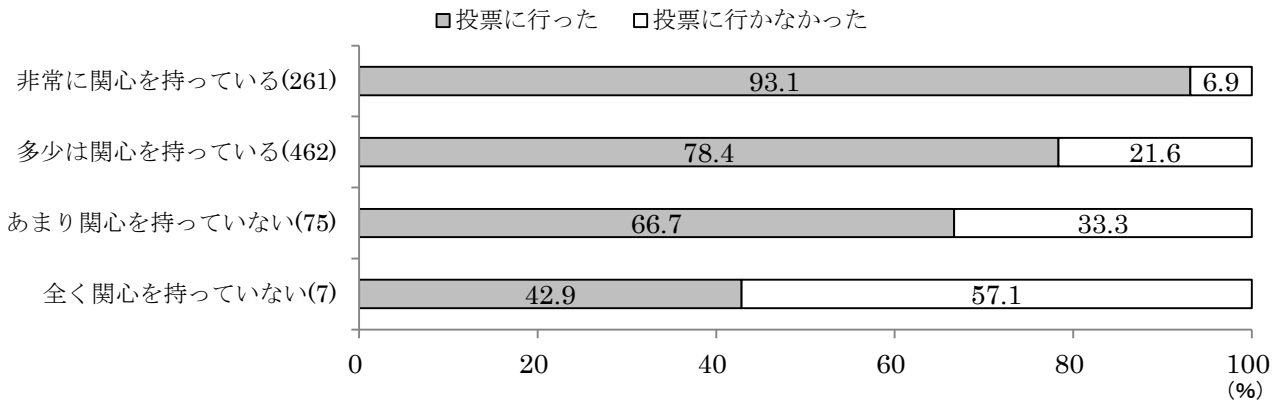


図 4－15　政治関心と投票参加率（60 歳以上）



次に、選挙で投票する行為は、（１）「国民の義務」、（２）「国民の権利だが棄権すべきではない」、（３）「個人の自由」のいずれの考えに近いかという投票に対する意識が投票参加率に与える影響を年代別に見てみよう（図 4－16～18)。各年代とも投票を「個人の自由」と考えている人の投票参加率は低く、特に 20~30 歳代での投票参加率は、23.9%にすぎない。「権利だが棄権すべきではない」と考える人と、「投票は義務」と位置づけている人の投票参加率はどの年代も大きな差はない。「個人の自由」と考えている人の投票参加率は年代が下がるごとに低くなっている（60 歳以上 45.0%、40～50 歳代 39.6%、20～30 歳代 23.9%)。

図 4－16　投票に対する考えと投票参加率（全体）

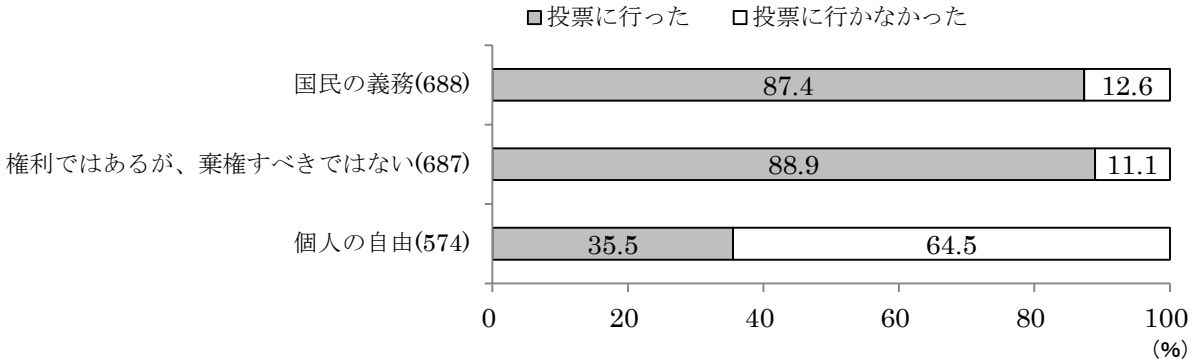


図 4－17　投票に対する考えと投票参加率（20~30 歳代）

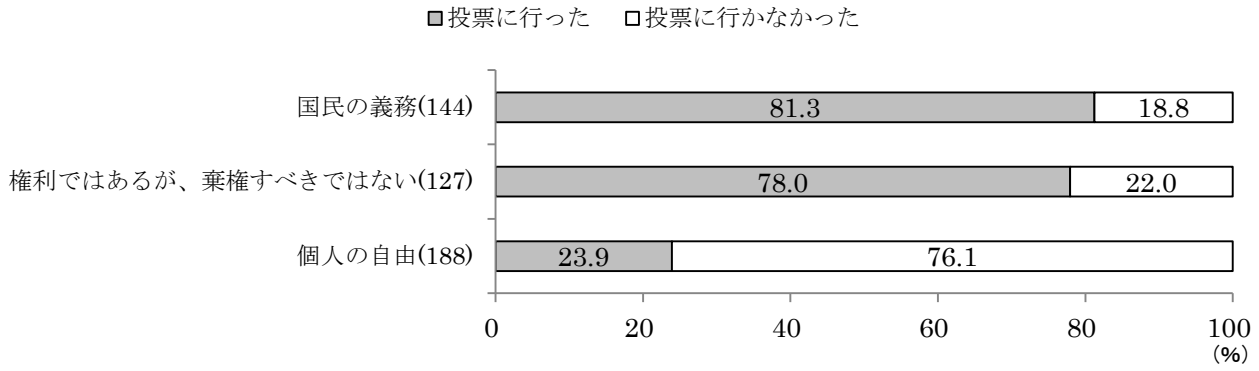


図 4－18　投票に対する考えと投票参加率（40~50 歳代）

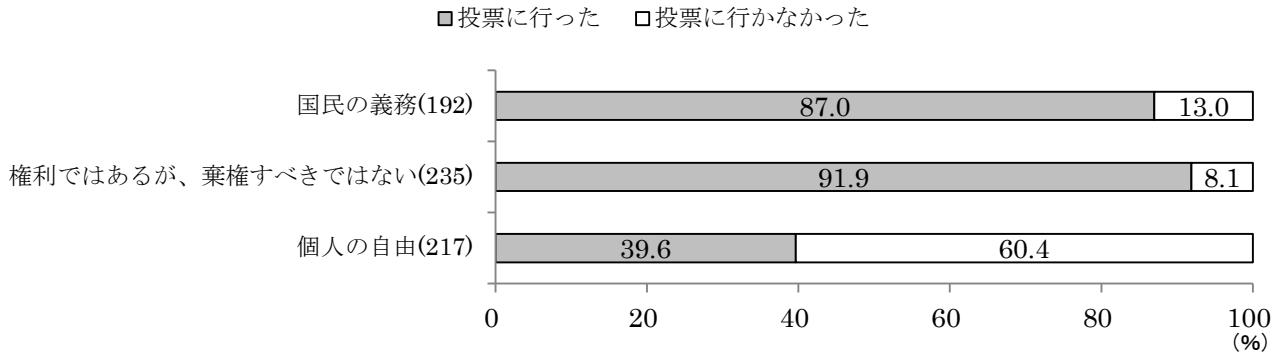
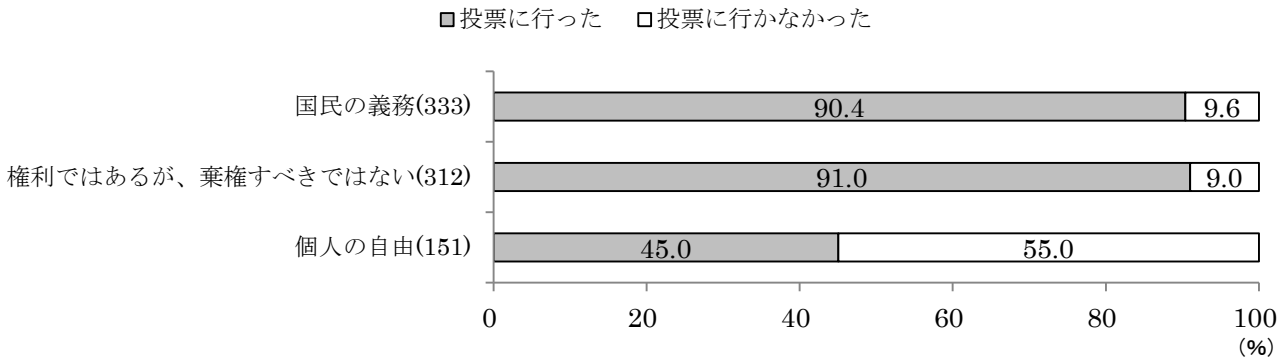


図 4－19　投票に対する考えと投票参加率（60 歳以上）



最後に、政党支持と投票参加率の関係を見てみよう。「あなたは、ふだん何党を支持していらっしゃいますか」という質問をし、支持する政党、または支持政党なしなどを選択してもらっている。ここでは支持する政党を選択した人＝「支持政党あり」と「支持政党なし」を選択した人を年代別に分けて、各々の投票参加率を調べた。

まず、全体では、支持政党がある人の投票参加率は 80.5%で、支持政党がない人の投票参加率 61.9%より 18.6 ポイント高い（図 4－20）。年代別に見ても、各年代とも支持政党がある人の投票参加率は、支持政党がない人の投票参加率より高く、その差は 20～30 歳代で 19.5 ポイント、40～50 歳代で 12.4 ポイント、60 歳以上で 15.3 ポイントであった。

図 4－20　政党支持と投票参加率（全体）

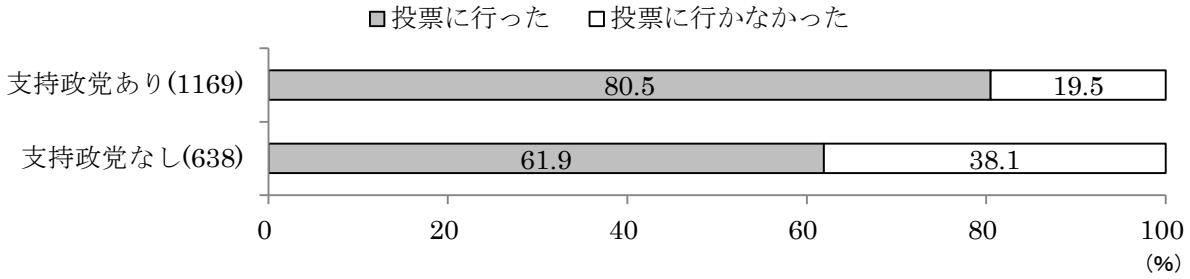


図 4－21　政党支持と投票参加率（20~30 歳代）

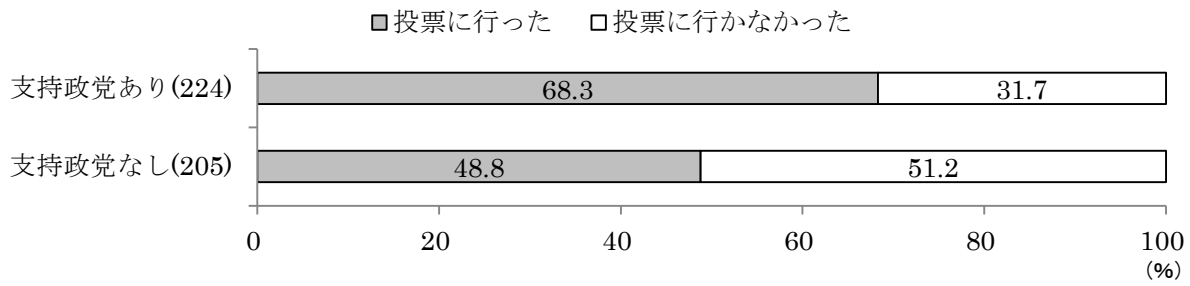


図 4－22　政党支持と投票参加率（40~50 歳代）

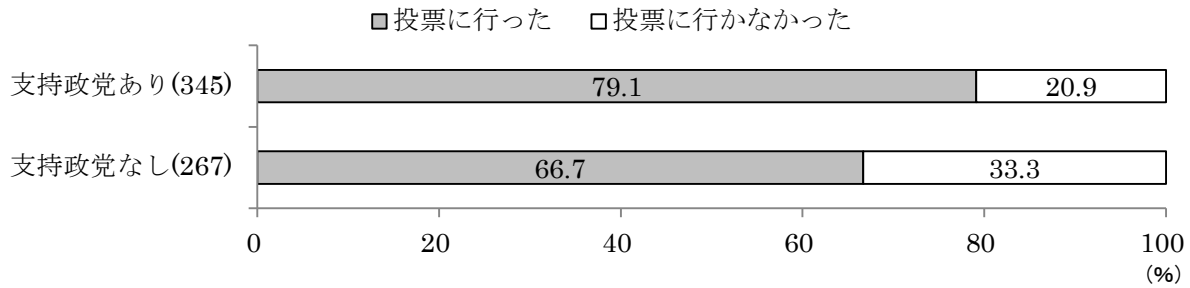
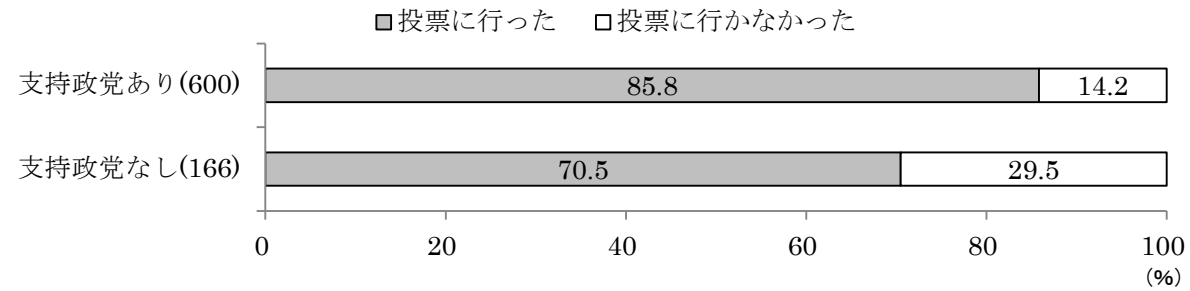


図 4－23　政党支持と投票参加率（60 歳以上）

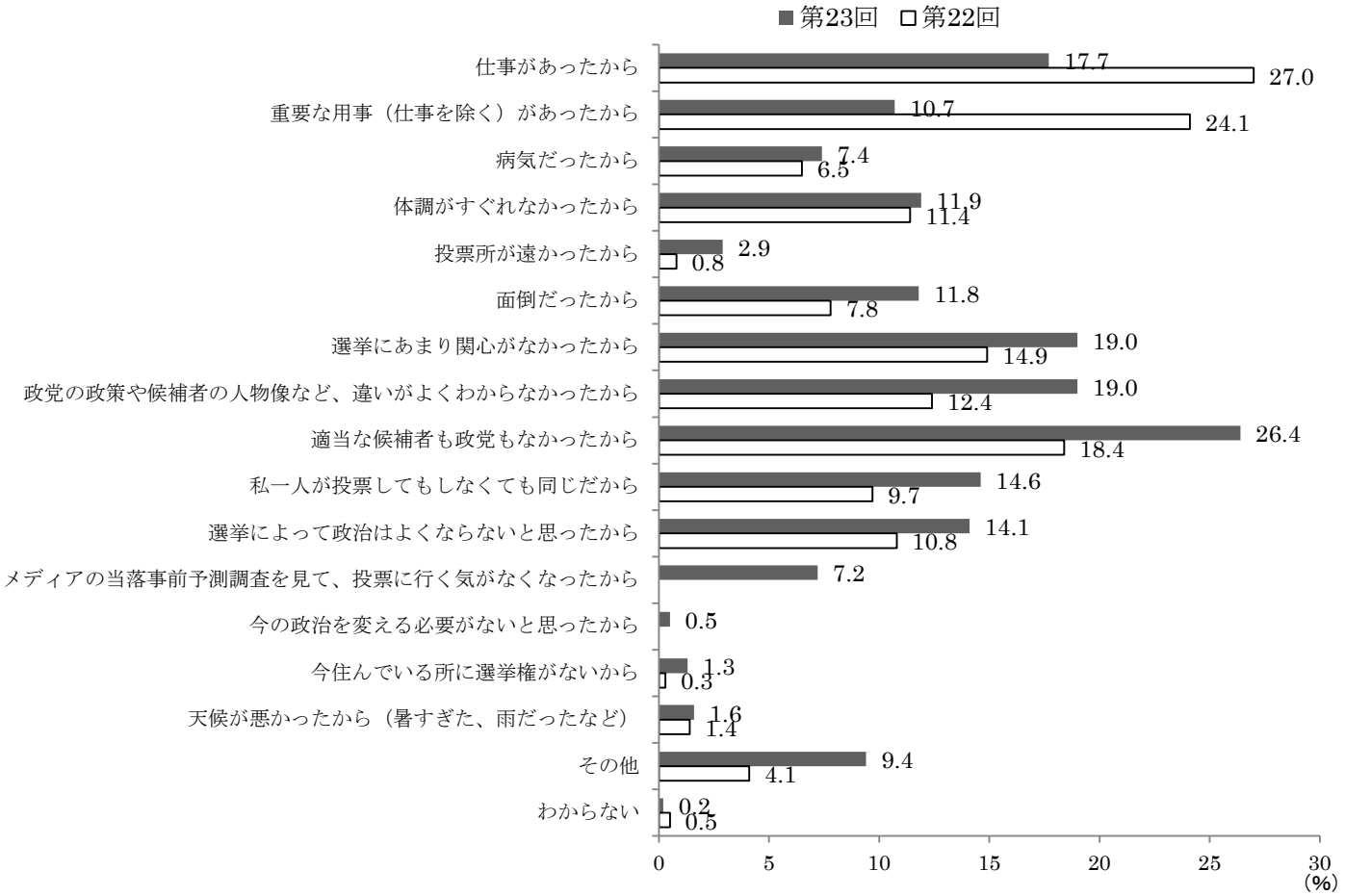


5　棄権の理由

今回の参院選で投票を棄権した人の棄権理由を前回調査の結果と対比して見てみよう（図 5－1)。

今回最も多く選択されたのは、「適当な候補者も政党もなかったから」で、前回参院選の調査で首位だった「仕事があったから」を上回った。前回参院選と比較すると「適当な候補者も政党もなかったから」（18.4%→26.4%）を筆頭に、「政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから」（12.4%→19.0%)、「選挙にあまり関心がなかったから」（14.9%→19.0%）などが大きく増加している。反対に、前回、棄権した人が最も選択した「仕事があったから」(前回 27.0%→今回 17.7%)、次いで「重要な用事(仕事を除く)があったから」(24.1%→10.7%)は、今回はそれぞれ 9.3 ポイント、13.4 ポイントと前回と比べ大きく低下した。これらは調査方法が前回とは異なったことも影響しているのではないかと考える。

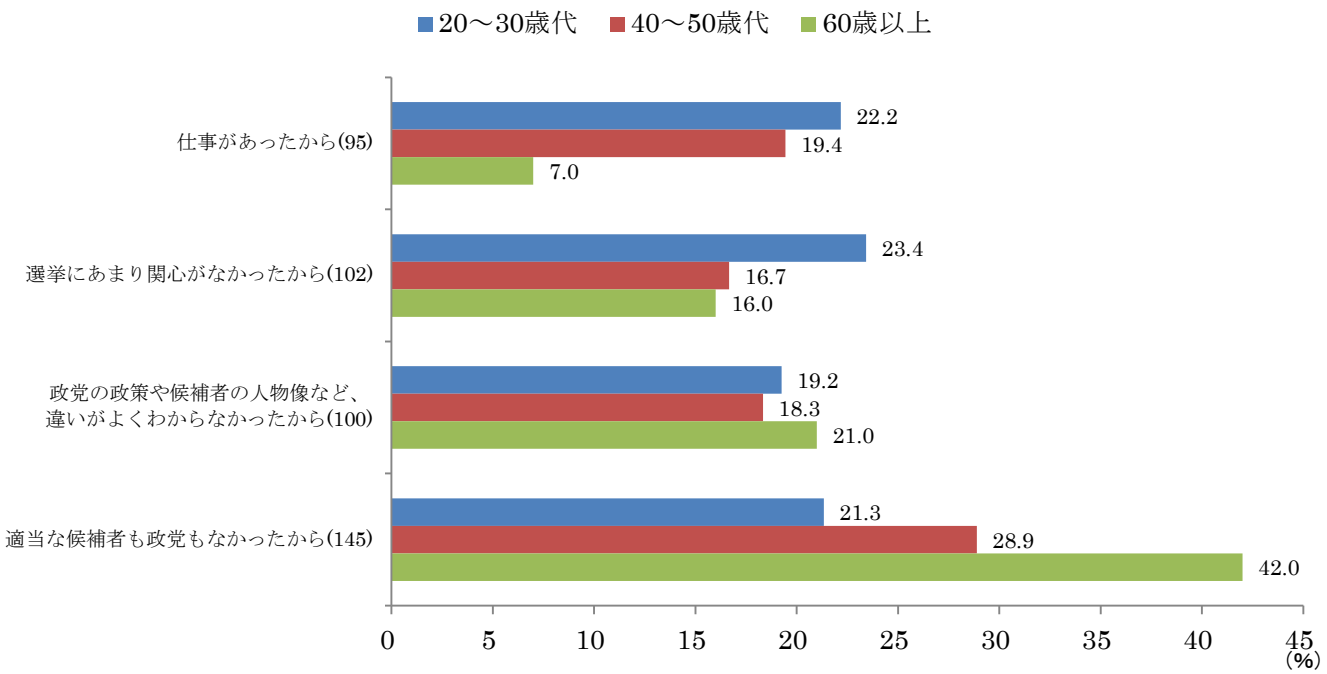
図 5－1　棄権理由（複数回答）



次に棄権理由の上位 4 つの選択肢について年代別に見てみる（図 5－2)。

「仕事があったから」を選んだのは、20～30 歳代に多く、年代が高くなるにつれて減少している。「選挙にあまり関心がなかったから」も同様の傾向にある。逆に「適当な候補者も政党もなかったから」を選んだのは 60 歳以上に多く、年代が低くなるにつれて減少している。「政党の政策や候補者の人物像など違いがよくわからなかったから」は、いずれの年代も 20%前後が選択している。

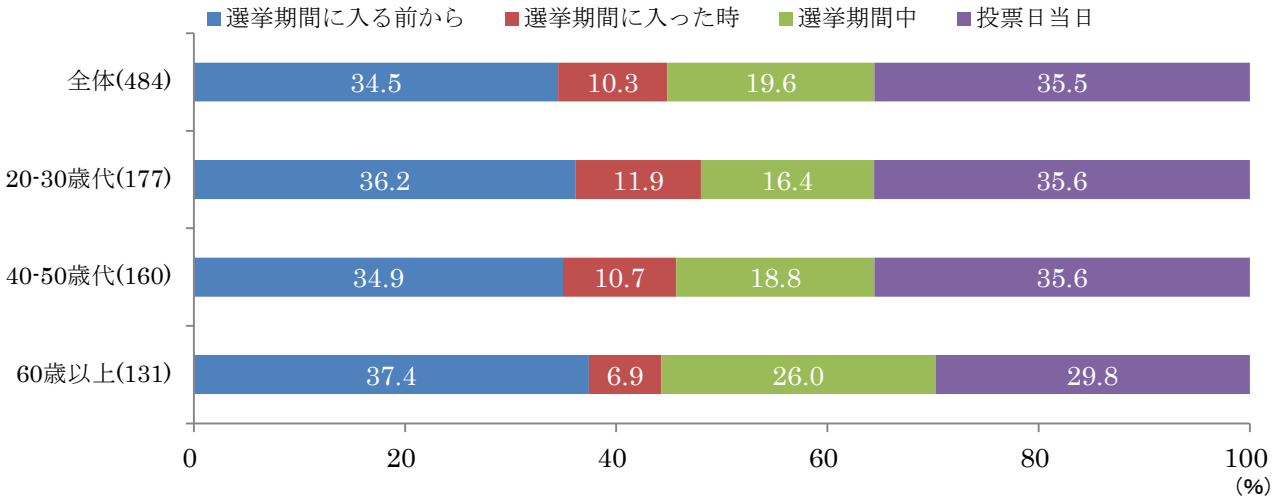
図 5－2　年代別棄権理由（上位 4 つ）



最後に棄権することを決めた時期について年代別に見てみる（図 5－3）。

各年代とも 35%前後の人が「選挙期間に入る前から」投票しないと決めており、ここでは年代による差は見られない。「選挙期間中」に決めたのは、年代が高くなるほど多い。「投票日当日」に決めたのは 20～30 歳代及び 40～50 歳代がともに 35.6%だが、60 歳以上は 29.8%と少なくなる。

図 5－3　棄権決定時期



６　投票行動

今回の参院選は、自民党が単独で改選定数の過半数を超える 65 議席を獲得したが、民主党は 27 議席を失い、17 議席に留まった。本協会の調査においては、選挙区選挙で 47.2%（前回 24.2%）が自民党へ、15.9%（前回 30.1%）が民主党に投票したと答え、比例代表選挙では 39.7%（前回 19.9%）が自民党、14.1%（前回 27.1%）が民主党に投票したと回答している。但し、実際の得票率は選挙区選挙で自民党が 42.74%、民主党が 16.29%、比例代表選挙では自民党が 34.68%、民主党が 13.40%で、調査結果とは違いがある。

参院選における有権者の投票選択をもう少し掘り下げて分析するために、自民党と民主党との比較を中心に、①社会的属性と投票政党、②前回参院選（平成 22 年）からの変化、③選挙区選挙と比例代表選挙での投票政党の三点に焦点を当てて見ていく。

（１）社会的属性と投票政党

表 6－1 は社会的属性ごとに、選挙区選挙における投票政党の割合を計算したものである。

性別では、日本維新の会、みんなの党へは女性より男性の方が投票する傾向がある。民主党及び自民党も若干だが男性の方が女性より高い。反対に公明党、共産党は男性より女性の方が高い。

年齢別で、自民党へはこれまで年代が高くなるほど選択する割合が上昇する傾向があったが、今回は 20～30 歳代及び 70～80 歳以上が比較的高く、中年層の 40～50 歳代及び 60 歳代は比較的低い。一方、民主党は 30 歳代が低く、50～70 歳代が比較的高い。みんなの党は 40～50 歳代が比較的高く、20 歳代は低い。日本維新の会は 20 歳代から 60 歳代まで大きな増減はないが、70～80 歳以上の高齢者層になると低下する。

学歴別では、みんなの党、共産党は、学歴が上がるにつれて投票傾向が高くなっている。

表６－１　社会的属性と投票政党(選挙区)

（%）

	民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他の党	無所属	白票を入れた	わからない
全体	15.9	47.2	5.3	5.6	1.3	7.6	1.0	0.7	6.7	0.1	0.8	1.4	1.4	5.0
男性	16.7	48.2	3.2	6.6	1.7	6.2	1.0	0.8	7.7	0.1	0.8	1.3	1.8	3.8
女性	15.4	46.4	7.4	4.3	0.8	9.1	1.0	0.6	5.9	0.1	0.7	1.5	0.8	5.9
20歳代	15.3	50.0	6.1	2.0	1.0	7.1	0.0	0.0	6.1	0.0	1.0	0.0	2.0	9.2
30歳代	9.5	53.0	4.2	3.6	1.2	7.7	1.2	0.6	7.7	0.0	0.0	1.8	0.6	8.9
40歳代	13.4	44.6	5.4	8.5	0.9	5.8	0.4	0.9	8.9	0.0	1.3	2.2	3.1	4.4
50歳代	18.9	41.4	7.6	8.8	0.4	6.0	1.2	1.6	7.2	0.4	0.4	1.2	2.0	2.8
60歳代	17.1	45.4	4.3	5.4	2.0	9.7	0.9	0.6	8.0	0.3	1.4	0.9	0.3	3.7
70歳代	19.3	52.5	4.9	2.9	1.2	7.4	0.8	0.4	4.1	0.0	0.4	1.6	0.4	4.0
80歳以上	16.4	50.7	6.8	2.7	2.7	8.2	4.1	0.0	1.4	0.0	0.0	1.4	0.0	5.5
中学校卒	16.9	47.5	10.2	3.4	1.7	6.2	2.3	0.0	4.0	0.6	0.0	1.1	0.6	5.7
高校卒	16.4	46.6	5.7	5.3	1.1	6.7	0.9	0.5	7.8	0.2	0.5	1.8	1.4	5.1
短大・高専・専修学校卒	13.1	47.7	7.7	5.4	1.5	8.5	0.4	1.2	6.2	0.0	1.5	1.9	1.2	3.8
大学・大学院卒	17.7	47.9	1.2	6.6	1.0	8.8	0.7	1.0	7.1	0.0	1.0	0.5	1.5	4.9
経営者・役員等	14.3	50.7	1.5	7.9	1.0	5.9	0.5	1.0	11.8	0.0	2.0	0.0	1.0	2.5
正社員・正職員	15.9	50.3	4.4	5.0	0.9	4.7	1.5	0.9	6.8	0.0	0.3	1.8	2.4	5.3
派遣社員	13.3	33.3	13.3	0.0	6.7	20.0	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
パート、アルバイト等	15.5	45.9	5.8	8.7	1.0	7.7	0.0	0.5	6.3	1.0	1.0	0.5	2.9	3.4
その他	8.6	42.9	11.4	5.7	0.0	14.3	0.0	0.0	11.4	0.0	0.0	0.0	0.0	5.7
学生	5.0	65.0	5.0	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	5.0
主婦	16.0	44.6	9.1	3.9	1.0	8.8	1.3	1.0	4.2	0.0	1.0	2.0	0.3	6.8
無職	20.7	44.4	4.1	4.4	2.6	8.5	1.1	0.4	4.8	0.0	0.0	2.2	0.7	5.9
農林水産	12.8	66.7	0.0	2.6	0.0	2.6	2.6	0.0	2.6	2.6	0.0	0.0	2.6	5.2
保安的	25.0	62.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸・通信	16.7	45.2	2.4	7.1	0.0	4.8	2.4	0.0	7.1	2.4	0.0	2.4	7.1	2.4
製造業	16.5	43.2	5.8	8.6	1.4	6.5	0.7	0.7	7.9	0.0	1.4	0.7	2.9	3.6
販売・サービス	13.8	53.0	4.4	6.6	0.0	6.6	0.0	0.6	10.5	0.0	0.6	0.0	0.6	3.3
専門・技術的	13.9	47.4	3.6	7.2	1.0	8.2	0.5	1.5	7.7	0.0	2.1	1.5	2.1	3.1
事務	17.9	48.5	5.2	4.5	1.5	5.2	2.2	0.7	6.7	0.0	0.0	0.0	1.5	6.0
その他	10.0	36.7	6.7	10.0	3.3	11.7	0.0	0.0	11.7	0.0	0.0	1.7	1.7	6.6
大都市	15.4	40.0	6.8	7.3	1.4	9.7	0.5	0.8	8.1	0.0	1.1	2.4	1.1	5.5
人口20万以上	15.0	50.9	4.7	4.7	0.6	7.6	0.9	0.6	8.8	0.3	0.0	0.0	1.8	4.1
人口10万人以上	12.2	47.6	5.1	6.3	2.0	8.7	0.4	0.8	7.9	0.0	0.4	1.6	1.2	5.9
人口10万人未満	18.0	49.7	5.3	4.0	0.9	5.3	2.5	0.6	4.7	0.0	1.6	1.9	1.6	4.0
郡部(町村)	20.8	50.6	3.9	5.2	1.9	5.8	0.0	0.6	1.3	0.6	0.6	0.6	1.3	6.4

比例代表選挙についても同様の分析を掲載してある(表 6－2)。選挙区選挙については自民党と民主党以外の政党の候補者は限られているため、両党を選択した割合が高めに出るが、比例代表選挙については自民党、民主党両党の選択率が下がり、両党以外の政党を選択した割合が若干高めに出ている。特に公明党(選挙区 5.3%、比例 8.7%)、みんなの党(選 5.6%、比 8.4%)、日本維新の会(選 6.7%、比 9.7%)は、選挙区選挙よりそれぞれ約 3 ポイント高い。

性別では、自民党及び日本維新の会は女性より男性の投票傾向が高く、逆に公明党及び共産党は男性より女性の投票傾向が高い。それ以外の民主党等は男女の差はあまり見られない。

年代別では、自民党は選挙区と同様に 20～30 歳代と 70 歳代の投票傾向が高い。民主党は選挙区と異なり、20 歳代から 40 歳代まで低下し(16.3%、13.7%、9.4%)、50 歳代(12.0%)から 70 歳代(17.6%)まで上昇する。日本維新の会は 20 歳代と 70 歳以上の投票傾向が低く、30 歳代から 60 歳代までは大きな違いはない。

学歴別の差は小さいが、みんなの党、共産党、日本維新の会は高学歴者の支持が比較的高い。

就業形態別に見てみると、自民党の投票傾向が比較的高いのは学生、経営者・役員等、民主党へは無職、主婦、日本維新の会は経営者・役員等、みんなの党へは学生、派遣社員等となっている。

職種別では、自民党は農林水産から、民主党は事務的仕事をしている人からの支持が比較的高い。

都市規模別では、かつては人口規模による差が見られたが、近年の調査においては明確な投票傾向が見られない。

表６－２　社会的属性と投票政党（比例代表）

（%）

	民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他の党	白票を入れた	わからない
全体	14.1	39.7	8.7	8.4	1.4	7.1	1.5	1.0	9.7	0.3	0.9	0.5	6.8
男性	14.2	41.7	6.3	8.0	2.2	5.9	1.7	1.1	10.5	0.6	1.1	0.6	6.1
女性	14.3	37.7	10.9	8.8	0.6	8.1	1.3	1.0	9.1	0.1	0.7	0.4	7.0
20歳代	16.3	40.8	4.1	11.2	0.0	3.1	1.0	2.0	7.1	0.0	0.0	1.0	13.3
30歳代	13.7	41.7	7.1	7.1	1.2	6.5	0.6	1.2	10.1	0.0	0.6	0.0	10.1
40歳代	9.4	37.9	11.2	9.8	1.3	4.9	0.9	1.8	12.1	0.4	1.8	0.9	7.5
50歳代	12.0	35.3	11.6	9.2	1.2	6.8	2.4	1.6	12.4	1.2	1.2	1.2	3.6
60歳代	16.6	36.9	6.0	10.0	2.0	8.6	1.7	0.9	12.3	0.3	0.9	0.0	4.0
70歳代	17.6	43.0	9.8	5.7	1.2	8.2	1.2	0.0	5.3	0.0	0.8	0.0	7.0
80歳以上	13.7	52.1	11.0	2.7	2.7	6.8	2.7	0.0	1.4	0.0	0.0	0.0	6.8
中学校卒	15.3	41.2	14.1	5.6	1.7	5.6	1.7	0.0	5.6	0.6	0.0	0.0	8.5
高校卒	14.7	41.0	9.4	8.3	0.9	6.7	1.1	0.7	9.4	0.2	1.1	0.2	6.6
短大・高専・専修学校卒	10.4	37.7	10.4	9.2	1.2	6.9	0.8	1.2	11.2	0.4	1.5	1.2	8.1
大学・大学院卒	16.2	38.1	3.7	9.6	2.0	7.9	2.2	2.0	11.8	0.5	0.7	0.5	4.9
経営者・役員等	10.3	44.3	6.4	7.9	1.0	4.4	2.0	0.5	16.3	1.0	1.0	0.0	4.9
正社員・正職員	14.7	39.7	8.2	8.5	0.6	5.3	1.5	1.2	9.7	0.6	0.6	1.2	8.3
派遣社員	13.3	20.0	13.3	13.3	0.0	20.0	6.7	0.0	6.7	0.0	0.0	0.0	6.7
パート、アルバイト等	12.6	39.1	7.7	9.7	1.4	7.2	1.0	1.4	10.1	0.5	1.4	1.4	6.3
その他	2.9	40.0	17.1	5.7	2.9	8.6	0.0	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	8.6
学生	10.0	50.0	5.0	20.0	0.0	5.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0
主婦	15.6	37.5	12.7	9.1	0.3	9.1	1.0	0.7	6.5	0.0	1.0	0.0	6.6
無職	18.1	39.3	6.7	5.9	4.1	6.7	1.9	1.5	8.1	0.0	1.1	0.0	6.6
農林水産	7.7	64.1	2.6	5.1	0.0	5.1	0.0	0.0	5.1	2.6	0.0	0.0	7.7
保安的	12.5	37.5	25.0	12.5	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
運輸・通信	7.1	42.9	9.5	9.5	2.4	7.1	0.0	0.0	11.9	2.4	0.0	2.4	4.8
製造業	14.4	33.8	10.8	11.5	0.7	4.3	1.4	0.7	10.1	0.0	2.2	0.7	9.4
販売・サービス	11.6	41.4	7.7	7.7	0.6	6.1	1.1	0.6	17.1	0.0	1.1	0.0	5.0
専門・技術的	13.9	39.2	6.2	9.8	2.1	8.2	1.0	2.1	9.8	0.0	0.5	1.5	5.6
事務	15.7	41.8	5.2	5.2	0.7	5.2	2.2	0.7	10.4	2.2	0.7	0.7	9.0
その他	6.7	30.0	15.0	11.7	0.0	8.3	3.3	1.7	13.3	0.0	0.0	1.7	8.3
大都市	13.5	35.7	9.2	10.0	1.6	7.8	1.6	1.4	11.1	0.5	1.1	0.5	6.0
人口20万以上	12.4	39.7	7.1	10.3	0.9	8.2	1.5	0.3	12.9	0.3	0.3	0.6	5.6
人口10万人以上	11.4	42.9	8.7	7.1	2.0	7.1	0.8	1.6	9.4	0.0	1.2	0.4	7.5
人口10万人未満	17.1	39.8	10.2	6.5	0.6	5.3	2.5	1.2	7.5	0.0	1.2	0.6	7.5
郡部(町村)	17.5	43.5	7.8	6.5	2.6	6.5	0.0	0.6	4.5	1.3	0.6	0.0	8.4

（2）投票行動の変化

本調査においては、調査対象者に対して 3 年前の投票行動についても思い出して答えてもらっている。表 6－3 は今回と前回の参院選の比例代表選挙における民主党、自民党への投票傾向を社会的属性ごとに比較したものである。表中、「今回」は、Q10ＳQ9「比例代表選挙で投票したのは何党、または何党の候補者でしたか」の選択肢の中の「わからない」、「ＮＡ」を除いて計算してある。「前回」は、Q15「菅直人政権下において行われた、3 年前の第 22 回参院選の比例代表選挙で、あなたが投票したのは何党、または何党の候補者でしたか」の選択肢の中の「投票しなかった」、「選挙権がなかった」、「わからない」、「ＮＡ」を除いて計算した。実質 3 年間を経ての回顧なので、記憶違いや思い込みなどからくる誤差を勘案する必要があるが、2 つの選挙の間の変化を見る上では貴重なデータと考えられる。

全体では民主党が前回より 30.4 ポイント減少し、自民党は 8.8 ポイント増加している。

男女別を見ると民主党は、男性は前回より 31.8 ポイント、女性は 29.3 ポイント低い。男女間では、前回は男性の方が 2.2 ポイント高かったが、今回はほとんど差がない。自民党は前回より男性が 9.1 ポイント、女性が 8.6 ポイント高い。男女間では、男性が前回は 3.9 ポイント、今回も 3.4 ポイント高い。年代別では民主党は全年代で減少しており、特に 40 歳代、50 歳代の落ち込みが激しい（40 歳代 41.1 ポイント、50 歳代 37.1 ポイント減少）。一方、自民党は全ての年代で前回を上回っており、特に 30 歳代、40 歳代からの支持が増えている（30 歳代 13.4 ポイント、40 歳代 13.0 ポイント増加）。学歴別では、民主党は中学校卒の低下幅が比較的小さく、自民党は中学校卒及び大学・大学院卒の増加幅が比較的小さい。

表 6－3　民主党・自民党の得票率の変動（比例代表選挙）

	民主党			自民党		
	今回(%)	前回(%)	差	今回(%)	前回(%)	差
全体	15.1	45.5	−30.4	42.5	33.7	8.8
男性	15.1	46.9	−31.8	44.4	35.3	9.1
女性	15.4	44.7	−29.3	40.5	31.9	8.6
20歳代	18.8	40.8	−22.0	47.1	39.4	7.6
30歳代	15.2	46.7	−31.5	46.4	33.0	13.4
40歳代	10.1	51.3	−41.1	41.1	28.0	13.0
50歳代	12.5	49.6	−37.1	36.7	27.5	9.1
60歳代	17.3	46.3	−29.0	38.4	31.5	6.9
70歳代	18.9	41.2	−22.2	46.3	40.8	5.5
80歳以上	14.7	32.5	−17.8	55.9	47.0	8.9
中学校卒	16.7	36.5	−19.8	45.1	39.5	5.6
高校卒	15.7	46.3	−30.7	43.9	33.2	10.7
短大･高専･専修学校卒	11.3	47.1	−35.8	41.0	27.7	13.3
大学･大学院卒	17.1	49.9	−32.8	40.1	34.7	5.4

＊表中の「今回」は、Q10ＳQ9 の選択肢「わからない」、「NA」を除いて計算し、「前回」は、Q15 の選択肢「投票しなかった」、「選挙権がなかった」、「わからない」、「NA」を除いて計算してある。

表 6－4 は前回参院選での投票政党ごとに今回の政党選択の割合を、比例代表選挙について計算したものである。前回の参院選の比例代表選挙で民主党に投票した有権者のうち、今回も民主党に投票したのは 23.9%に過ぎない。この歩留まりは、第 21 回（平 19）から前回参院選における民主党の歩留まり（59.3%）に比べて著しく低い。一方、自民党の歩留まりは前回の 48.3%から大きく伸びて、62.2%となっている。前回 12.8%のみんなの党も今回は 35.3%と 20 ポイント以上伸びている。今回、歩留まりが大きく後退した民主党だが、前回民主党を支持した人は今回はどの政党に投票したのかを見てみると、23.0%が自民党を、次いで 9.9%が日本維新の会を、7.5%がみんなの党を支持し、22.0%は棄権を選んでいる。

表 6－4　前回・今回の投票政党（比例代表選挙）

		今回投票政党(%)															実数
		民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他	白票	わからない	NA	棄権	
前回投票政党	民主党	23.9	23.0	2.8	7.5	1.6	5.1	1.0	0.9	9.9	0.4	0.0	0.1	0.7	1.0	22.0	690
	自民党	2.2	62.2	2.9	4.3	0.2	1.2	0.0	0.0	6.1	0.0	0.4	0.2	0.6	2.0	17.8	511
	公明党	0.9	9.3	70.1	0.9	0.0	0.0	0.0	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.8	107
	共産党	4.7	10.5	0.0	2.3	1.2	52.3	1.2	2.3	2.3	0.0	1.2	0.0	1.2	2.3	18.6	86
	社民党	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	57.9	0.0	10.5	0.0	10.5	0.0	0.0	0.0	21.1	19
	国民新党	0.0	20.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0	5
	みんなの党	2.9	17.6	2.9	35.3	0.0	2.9	0.0	2.9	13.2	0.0	0.0	0.0	1.5	1.5	19.1	68
	たちあがれ日本	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	3
	その他の党	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	8.3	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	8.3	12
	白票を入れた	0.0	14.3	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	28.6	14
	棄権	2.0	5.1	0.5	2.0	0.5	1.0	0.5	0.0	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.0	85.3	197
	選挙権がなかった	5.1	25.6	2.6	5.1	0.0	0.0	0.0	5.1	5.1	0.0	0.0	0.0	5.1	0.0	46.2	39
	わからない	5.8	15.1	4.9	5.3	0.9	4.4	0.0	0.0	6.2	0.4	0.4	0.0	23.1	0.4	32.9	225
	NA	2.3	14.0	2.3	2.3	0.0	4.7	0.0	2.3	4.7	0.0	0.0	0.0	2.3	23.3	41.9	43

表 6－5 は第 46 回衆院選での政党選択と今回参院選での政党選択の割合を、比例代表選挙で見たものである。前回と今回の参院選での政党選択と同じく自民党の歩留まりが高く（66.2%）、民主党の歩留まりが低い（48.8%）。一昨年の衆院選から半年以上たってから行われた今回の参院選だが、民主党は更に支持を少なくしたと言える。

表 6－5　前回衆院選・今回の投票政党（比例代表選挙）

		今回投票政党(%)															実数
		民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他の党	白票	わからない	NA	棄権	
前回衆院選投票政党	民主党	48.8	13.0	1.2	6.2	2.1	4.1	1.5	0.9	4.4	0.6	0.6	0.0	0.3	1.5	14.8	338
	自民党	2.1	66.2	2.6	2.6	0.3	1.0	0.1	0.0	4.4	0.0	0.1	0.1	0.7	1.3	18.3	698
	日本未来の党	0.0	0.0	0.0	18.2	36.4	0.0	0.0	9.1	9.1	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	18.2	11
	公明党	0.0	6.6	73.8	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	18.0	122
	日本維新の会	2.1	9.0	1.4	6.2	0.0	0.7	0.7	0.7	50.3	0.0	0.7	0.7	1.4	2.8	23.4	145
	共産党	1.1	3.2	0.0	1.1	0.0	67.4	1.1	2.1	0.0	0.0	1.1	0.0	1.1	2.1	20.0	95
	みんなの党	2.2	6.6	4.4	56.0	2.2	3.3	0.0	2.2	4.4	0.0	1.1	0.0	1.1	1.1	15.4	91
	社民党	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	61.1	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	18
	新党大地	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	3
	その他の党	0.0	0.0	0.0	6.3	12.5	0.0	0.0	12.5	6.3	0.0	43.8	0.0	0.0	0.0	18.8	16
	白票を入れた	0.0	6.3	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0	31.3	0.0	0.0	37.5	16
	棄権	2.0	5.5	0.0	0.8	0.0	0.8	0.4	0.4	1.2	0.4	0.0	0.0	1.2	0.0	87.4	253
	選挙権がなかった	0.0	33.3	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	6
	わからない	6.3	10.7	2.5	6.9	1.3	3.8	0.6	1.3	4.4	0.6	0.0	0.0	30.8	0.6	30.2	159
	NA	2.1	2.1	6.3	4.2	0.0	6.3	0.0	2.1	4.2	0.0	0.0	0.0	4.2	18.8	50.0	48

（3）選挙区選挙と比例代表選挙の分割投票

有権者は様々な理由により選挙区選挙と比例代表選挙で異なる政党に投票することがある。例えば選挙区選挙に全ての政党が候補者を擁立できるわけではないので、有権者の中には比例代表選挙では自分の最も望ましいと思う政党に投票しながらも、選挙区選挙においては他党への投票を余儀なくされる場合もある。

表 6−6 は選挙区選挙と比例代表選挙の両者の間における選択の一致・不一致を選挙区選挙における選択を基準に見たものである。選挙区選挙で自民党に投票した有権者のうち、比例代表選挙でも自民党に投票した人の割合は 76.3%で、前回（77.1%）とほぼ同じであった。一方、民主党の場合、その割合は 71.6%で、前回（83.9%）より大きく低下している。

選挙区選挙で自民党、民主党に投票した人は、比例代表選挙では同党以外のどの政党に投票したのか、見てみる。

まず、選挙区選挙での自民党投票者が、比例代表選挙で同党以外に最も多く投票したのは公明党（5.9%）で、次いで日本維新の会（5.1%）、みんなの党（4.6%）となっている。民主党投票者が同党以外で最も投票したのは自民党（6.6%）で、次いでみんなの党（3.9%）、日本維新の会（3.1%）となっている。自民党と連立を組んでいる公明党の投票者は、同党以外では自民党に最も多く投票している（5.2%）。

表 6−6　選挙区選挙と比例代表選挙の投票政党

		投票政党(比例代表選挙)														実数
		民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他の党	白票	わからない	NA	
投票政党（選挙区選挙）	民主党	71.6	6.6	2.6	3.9	1.3	4.4	1.7	0.0	3.1	0.9	0.4	0.0	2.2	1.3	229
	自民党	3.1	76.3	5.9	4.6	0.1	1.2	0.4	0.0	5.1	0.0	0.3	0.0	1.6	1.3	680
	公明党	0.0	5.2	87.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	5.2	0.0	77
	みんなの党	5.0	7.5	1.3	72.5	1.3	2.5	0.0	6.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	80
	生活の党	11.1	11.1	0.0	11.1	61.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	18
	共産党	2.7	3.6	0.9	5.5	0.9	70.9	3.6	4.5	2.7	0.0	0.0	0.0	1.8	2.7	110
	社民党	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	64.3	7.1	7.1	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	14
	みどりの風	10.0	10.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	40.0	10.0	0.0	0.0	0.0	10.0	0.0	10
	日本維新の会	1.0	3.1	2.1	2.1	0.0	1.0	0.0	0.0	87.6	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0	97
	新党大地	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2
	その他の党	18.2	9.1	9.1	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	45.5	0.0	0.0	0.0	11
	無所属	10.0	20.0	5.0	15.0	0.0	10.0	0.0	0.0	5.0	0.0	25.0	0.0	10.0	0.0	20
	白票を入れた	5.0	30.0	5.0	5.0	10.0	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	0.0	30.0	10.0	0.0	20
	わからない	4.2	0.0	4.2	4.2	0.0	2.1	0.0	0.0	2.1	2.1	0.0	0.0	75.0	6.3	48
	NA	0.0	16.7	12.5	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	4.2	41.7	24

（4）投票判断基準（党か人か）

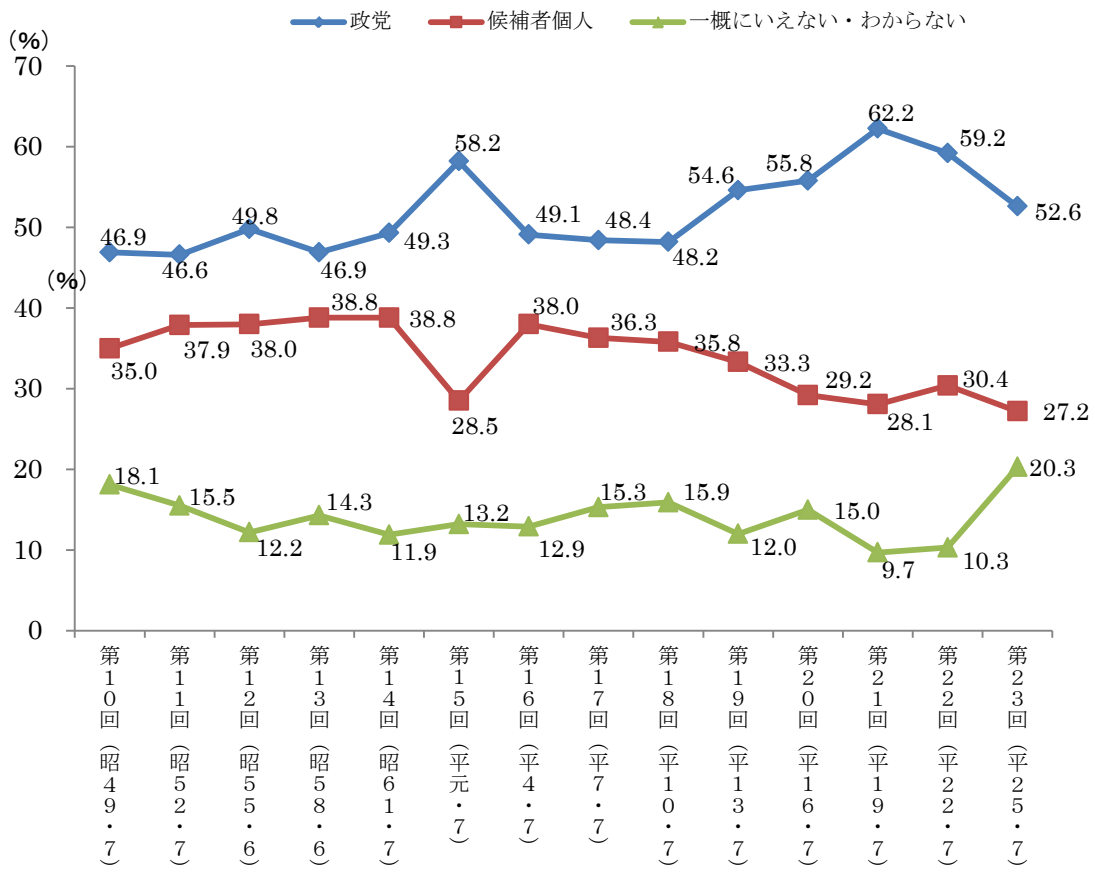
選挙区選挙では、どのような点を考慮して有権者は投票する候補者を決めたのであろうか。本調査では、「あなたは選挙区選挙で、政党の方を重くみて投票しましたか、それとも候補者個人を重くみて投票しましたか」という質問を継続して尋ねている。今回の調査では、投票したと回答した人のうち 52.6%が「政党を重くみて」、27.2%が「候補者個人を重くみて」、20.3%が「一概に言えない・わからない」と答えている。

過去の結果と比較すると、「政党を重くみて」は第 18 回の 48.2%を起点に第 21 回の 62.2%まで上昇したが、以降は減少しており、今回も前回より 6.6 ポイント減少した。「候補者個人を重くみて」

は第 16 回以降、徐々に減少してきている。前回の調査で前々回を若干上回る 30.4%となったが、今回、再び減少した。

今回の調査では「一概にいえない・わからない」が前回より 10 ポイント増えているが、第 46 回衆院選の調査でも同じ傾向が見られた（第 46 回衆院選：9.7%から 17.3%へ 7.6 ポイント増加）。

図 6－1　政党か候補者か（選挙区選挙）

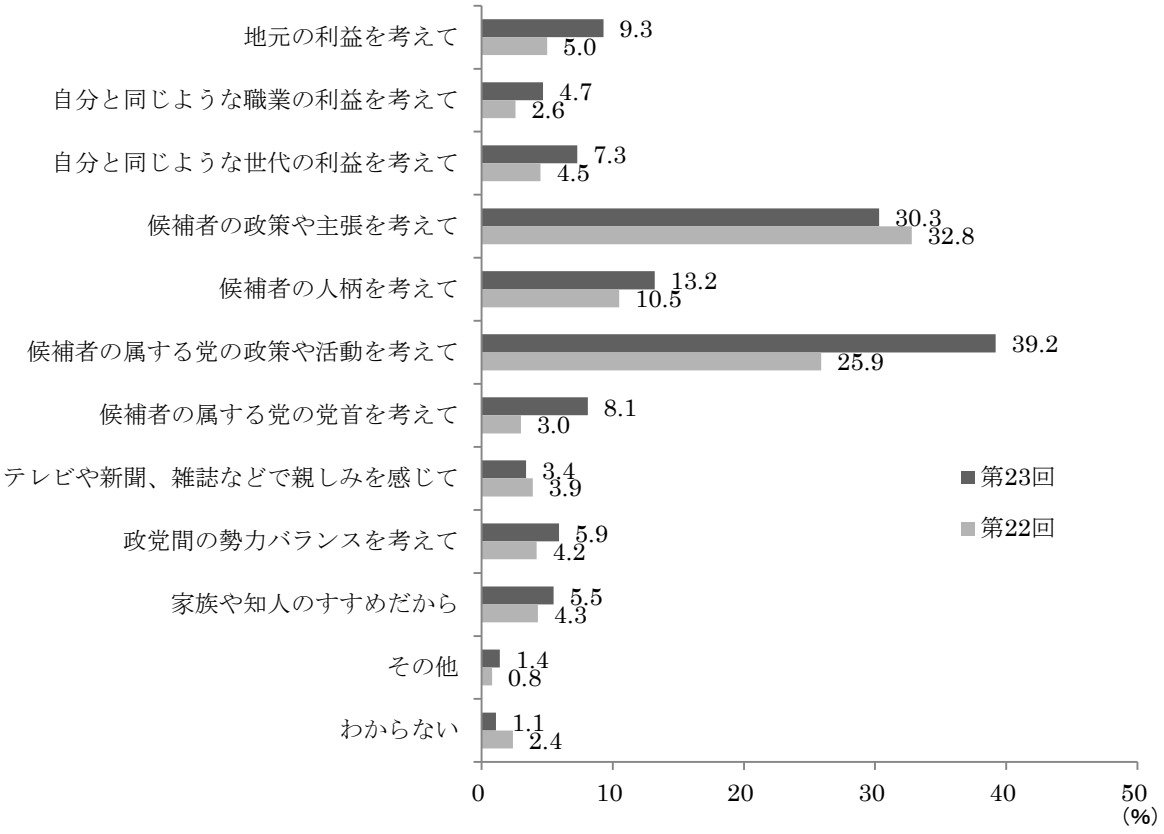


（５）候補者・政党の選択理由

選挙区選挙で投票した候補者の選択理由に関して、本調査ではより詳しい質問をしている。それは「あなたは、選挙区選挙で、候補者を選ぶ時、どういう点を考えて投票する人を決めたのですか」という質問で、10 の選択肢の中から当てはまるものを全て選んでもらっている。前回参院選後の調査でも同じ質問をしているので、参考までに前回と今回の調査結果を図 6－2 に示した。

前回と比べると、「候補者の政策や主張を考えて」が若干減少し、「候補者の属する党の政策や活動を考えて」が大幅に増加している。

図 6－2　選挙区選挙で考慮した点（複数回答）



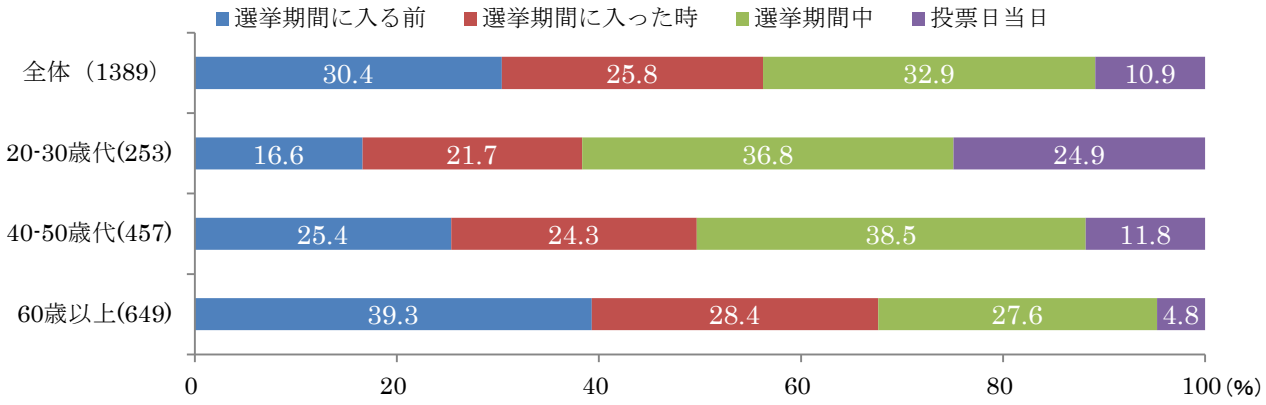
（６）投票する候補・政党決定時期

選挙区選挙で投票をした人が、どの候補者に投票するのかをいつごろ決めたのか見てみる。

年代によって傾向に大きな違いがあるので、年代別に決定時期を見ていくことにしたい（図６－３）。まず、「選挙期間に入る前」に投票先を決めた人は、20～30 歳代は 16.6%、40～50 歳代は 25.4%、60 歳以上は 39.3%で、年代が上がるごとに増えている。一方、「投票日当日」に投票先を決めた人を見ると、20～30 歳代の 24.9%が最も多く、40～50 歳代は 11.8%、60 歳以上は 4.8%と年代が上がるごとに減っていく。

60 歳以上の高齢者層は「選挙期間に入る前」＋「選挙期間に入った時」で 67.7%と 7 割近い人が選挙序盤に投票先を決めているのに対し、20～30 歳代では「選挙期間中」＋「投票日当日」の 61.7%と過半数が選挙終盤に決めている。40～50 歳代は選挙序盤（49.7%）、終盤（50.3%）とほぼ半数に分かれている。

図 ６－３　投票候補者決定時期（選挙区選挙）



＊「選挙期間中」は、選択肢「投票日の 4 日以上前」、「投票日の 2,3 日前」、「投票日の前日」を合算した。

7　政治的志向

有権者が政党や政治家に対して抱く印象や好悪の感情、あるいは、政策に対する考えや政治的・社会的な価値観は、実際の政治行動をある程度規定している。例えば、有権者の政党支持や政治的イデオロギーを知ることによって、その人の政治行動をある程度説明することができる。

ここでは、政治行動を規定する要因として、①政党支持、②保革イデオロギー、③考慮した問題、④生活と政治への満足度、について検討する。

（1）支持政党と投票政党

表 7－1 は支持政党と選挙区選挙における投票政党との関連を見たものである。支持政党ごとに、投票した政党の割合が計算してある。今回の参院選で民主党支持者のうち、民主党に投票したのは 80.1%（前回 74.4%）で、9.9%が自民党に投票している（前回 1.9%）。民主党支持者が民主党に投票した割合が前回より 5.7 ポイント増えているが、民主党支持者の実数が前回は 481 であったのに対し、今回は 171 である点を考慮する必要がある。一方、自民党は支持者の 87.7%（前回 67.5%）が自民党に投票しており、民主党に投票した人は 3.2%に過ぎない（前回 7.8%）。

民主党と自民党以外は、候補者がいない選挙区があるので、支持している政党に投票した割合は選挙区選挙では低くならざるを得ない。「支持政党なし」の有権者は、37.6%が自民党に（前回は 16.2%）、15.7%が民主党に（前回は 24.7%）、10.0%が共産党（前回は 1.7%）に投票している。

表 7－1　支持政党と選挙区選挙

		投票政党(選挙区選挙)(%)															実数
		民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他の党	無所属	白票	わからない	NA	
支持政党	民主党	80.1	9.9	0.0	1.8	1.2	3.5	0.0	0.0	0.0	0.6	1.2	0.6	0.0	0.6	0.6	171
	自民党	3.2	87.7	1.9	1.9	0.4	1.1	0.4	0.0	0.8	0.0	0.4	0.8	0.0	0.6	0.9	529
	公明党	1.3	20.5	70.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	3.8	78
	みんなの党	5.0	7.5	0.0	65.0	2.5	5.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	5.0	0.0	5.0	2.5	40
	生活の党	9.1	0.0	0.0	9.1	63.6	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	11
	共産党	2.1	4.2	0.0	2.1	0.0	91.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	48
	社民党	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	16.7	58.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
	みどりの風	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	日本維新の会	0.0	9.2	1.5	0.0	0.0	3.1	0.0	0.0	84.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	65
	新党大地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	その他の党	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4
	支持政党なし	15.7	37.6	1.7	8.5	1.5	10.0	1.0	1.7	7.0	0.0	1.5	2.2	4.0	6.7	1.0	402
	わからない	8.7	21.7	6.5	6.5	0.0	10.9	0.0	0.0	6.5	0.0	0.0	4.3	4.3	30.4	0.0	46
	NA	6.3	31.3	3.1	6.3	0.0	6.3	0.0	3.1	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	28.1	32

比例代表選挙について支持政党ごとの投票の割合を示したのが、表 7－2 である。公明党、みんなの党等は選挙区選挙と比べると支持政党と投票政党との一致率が上昇するが、民主党と自民党については、両者の一致率が減少する。民主党支持者の中で、民主党に投票したのは 77.2%（前回 70.7%）に留まり、他は自民党（6.4%）、みんなの党（4.1%）、公明党（2.9%）、日本維新の会（1.8%）等に流れている。自民党支持者を見ると、自民党に投票したのは 79.4%（前回 60.1%）で、自民党以外は日本維新の会が 4.2%、公明党が 4.0%、みんなの党が 3.6%となっている。「支持政党なし」については、29.9%が自民党（前回 11.0%）、12.4%がみんなの党、11.2%が民主党（前回 20.7%）、

10.2%が共産党（前回 2.7%）に投票している。みんなの党は民主党より多かった。

表 7－2　支持政党と比例代表選挙

		投票政党(比例代表選挙)(%)													実数
		民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他の党	白票	わからない	NA	
支持政党	民主党	77.2	6.4	2.9	4.1	0.0	2.3	1.2	0.0	1.8	0.6	0.0	0.0	1.2	2.3	171
	自民党	3.4	79.4	4.0	3.6	0.2	1.5	0.2	0.0	4.2	0.0	0.2	0.0	2.3	1.1	529
	公明党	0.0	2.6	92.3	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	2.6	0.0	0.0	0.0	1.3	0.0	78
	みんなの党	0.0	0.0	0.0	90.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	5.0	2.5	40
	生活の党	9.1	0.0	0.0	0.0	90.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	11
	共産党	4.2	2.1	0.0	2.1	0.0	85.4	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.1	2.1	48
	社民党	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	83.3	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12
	みどりの風	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	日本維新の会	1.5	6.2	0.0	3.1	0.0	0.0	0.0	0.0	86.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	65
	新党大地	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1
	その他の党	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	75.0	0.0	0.0	0.0	4
	支持政党なし	11.2	29.9	5.5	12.4	2.2	10.2	1.7	3.0	10.2	0.5	2.2	1.7	7.7	1.5	402
	わからない	4.3	17.4	6.5	8.7	0.0	8.7	0.0	0.0	15.2	2.2	0.0	0.0	37.0	0.0	46
	NA	6.3	15.6	6.3	3.1	0.0	9.4	0.0	3.1	21.9	0.0	0.0	0.0	0.0	34.4	32

表 7－3 は、社会的属性別に見た政党支持率である。

自民党と民主党に着目して見ると、全体では自民党が 33.5%、民主党は 10.4%の支持を得ている。性別で見ると、民主党は男性が 11.3%、女性が 9.7%、自民党は男性が 35.9%、女性が 31.5%と両党とも男性からの支持が高い。年代別では、両党とも高齢層に行くに従い支持率が高まる傾向が見られ、最も支持率が高い年代は 80 歳以上である。学歴別に見ると、民主党は短大・専修卒（6.6%）で低く、自民党は大学・大学院卒（29.7%）で低い。反対に自民党は中学卒からの支持が特に高い（38.6%）。就業形態別では、民主党は無職（16.6%）から、自民党は経営者・役員・管理職からの支持が高い（39.4%）。職種別では、自民党は他の職種に比べ農林水産に関わる仕事からの支持が高い（55.1%）。

「支持政党なし」（全体 32.5%）を見てみると、性別では男女の差は小さく（男性 31.7%、女性 33.5%）、年代別では若年層ほど多い（80 歳以上 12.9%、20 歳代 44.7%）。学歴別では大学・大学院卒が多い（41.3%）。就業形態別では派遣社員（50.0%）、正社員・正職員（41.8%）、学生（41.2%）が高い。

表 7－3　社会的属性と政党支持

（%）

	民主党	自民党	公明党	みんなの党	生活の党	共産党	社民党	みどりの風	日本維新の会	新党大地	その他の党	支持政党なし	わからない	NA	実数
全体	10.4	33.5	4.7	2.5	0.8	3.0	0.7	0.0	4.1	0.1	0.2	32.5	5.1	2.5	2019
男性	11.3	35.9	3.6	2.6	1.3	2.2	0.9	0.1	5.2	0.2	0.0	31.7	3.0	1.9	936
女性	9.7	31.5	5.7	2.5	0.3	3.5	0.6	0.0	3.1	0.0	0.4	33.5	6.8	2.4	1053
20歳代	9.0	22.3	3.2	2.1	0.5	1.6	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	44.7	10.1	2.1	188
30歳代	6.6	29.9	3.5	2.4	0.3	2.8	0.7	0.0	4.5	0.3	0.0	42.4	5.6	1.0	288
40歳代	4.5	28.4	6.1	2.6	0.0	1.0	0.3	0.0	4.5	0.0	0.6	44.5	5.8	1.6	310
50歳代	8.3	31.3	5.5	3.4	0.3	2.9	0.3	0.3	4.0	0.3	0.0	37.6	3.7	2.0	348
60歳代	15.0	37.0	4.8	3.0	1.6	4.6	0.7	0.0	4.8	0.0	0.2	23.3	3.2	1.6	433
70歳代	15.6	42.6	4.8	1.7	1.0	3.5	1.7	0.0	3.8	0.0	0.3	18.0	3.1	3.8	289
80歳以上	15.8	46.5	5.0	1.0	2.0	4.0	2.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.9	5.0	5.9	101
中学校卒	13.7	38.6	8.8	1.6	1.2	4.0	1.6	0.0	4.4	0.0	0.0	18.1	5.6	2.4	249
高校卒	11.6	35.9	4.8	2.4	0.6	3.2	0.5	0.0	3.6	0.2	0.4	29.1	5.0	2.7	825
短大･高専･専修学校卒	6.6	30.8	5.3	3.2	0.5	3.2	0.3	0.0	4.5	0.0	0.3	38.7	6.1	0.8	380
大学･大学院卒	10.4	29.7	1.8	2.8	0.8	2.0	1.0	0.2	4.7	0.0	0.0	41.3	3.7	1.8	509
経営者･役員等	8.5	39.4	2.7	4.2	0.4	2.3	1.2	0.0	8.9	0.0	0.0	25.9	2.7	3.9	259
正社員･正職員	8.0	30.2	3.8	2.4	0.4	2.2	0.6	0.2	3.0	0.4	0.2	41.8	5.6	1.2	500
派遣社員	13.6	18.2	9.1	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	4.5	0.0	22
パート､アルバイト等	9.5	30.5	5.4	3.5	0.3	2.5	0.3	0.0	3.5	0.0	0.0	36.2	5.1	3.2	315
その他	2.0	34.7	10.2	0.0	0.0	6.1	0.0	0.0	10.2	0.0	0.0	34.7	2.0	0.0	49
学生	8.8	23.5	8.8	0.0	0.0	2.9	0.0	0.0	5.9	0.0	0.0	41.2	8.8	0.0	34
主婦	11.1	34.6	6.0	2.4	0.5	3.1	0.5	0.0	2.2	0.0	0.7	29.3	7.5	2.2	416
無職	16.6	36.6	4.0	1.4	2.6	3.1	1.4	0.0	4.0	0.0	0.0	24.9	2.6	2.9	350
農林水産	10.2	55.1	0.0	2.0	0.0	4.1	0.0	0.0	4.1	0.0	0.0	22.4	0.0	2.0	49
保安的	14.3	21.4	7.1	0.0	0.0	0.0	7.1	0.0	7.1	0.0	0.0	35.7	7.1	0.0	14
運輸･通信	8.1	35.5	3.2	1.6	1.6	1.6	0.0	0.0	8.1	1.6	0.0	29.0	4.8	4.8	62
製造業	10.9	29.9	6.5	4.0	0.0	4.5	0.0	0.0	4.0	0.0	0.0	32.3	6.0	2.0	201
販売･サービス	8.0	32.5	2.1	3.1	0.3	2.1	0.3	0.0	7.3	0.0	0.3	34.6	6.2	3.1	289
専門･技術的	6.3	30.1	4.5	2.6	0.4	2.6	0.7	0.4	3.7	0.4	0.0	43.1	4.5	0.7	269
事務	7.2	32.2	4.4	2.2	0.0	0.6	1.1	0.0	2.2	0.0	0.0	46.7	2.2	1.1	180
その他	12.3	28.8	9.6	5.5	1.4	4.1	1.4	0.0	2.7	0.0	0.0	26.0	4.1	4.1	73
大都市	9.9	30.7	5.8	2.6	0.9	3.9	0.7	0.2	4.7	0.0	0.4	33.9	3.9	2.4	537
人口20万以上	9.2	31.8	4.1	2.7	0.6	3.7	0.6	0.0	5.3	0.2	0.0	34.1	5.7	1.8	487
人口10万人以上	9.7	34.4	3.9	2.8	1.1	3.1	0.3	0.0	3.6	0.3	0.3	32.8	4.7	3.1	360
人口10万人未満	11.2	34.9	5.0	2.1	0.0	1.1	1.4	0.0	3.6	0.0	0.2	33.5	5.0	2.1	439
郡部(町村)	13.8	40.3	4.1	2.0	2.0	2.6	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	22.4	7.1	4.1	196

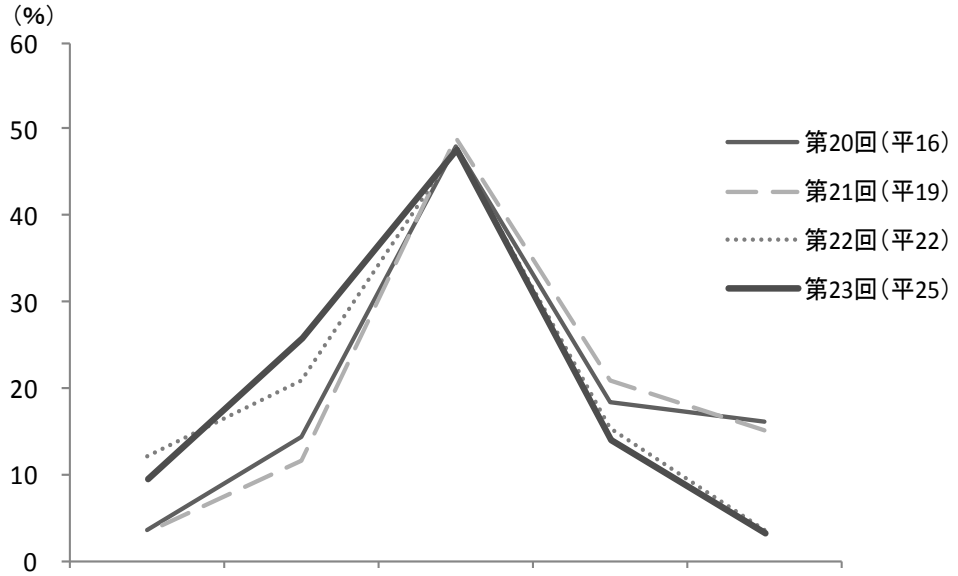
一昨年に行われた第 46 回衆院選での調査結果と照らし合わせてみると、数値の違いはあるものの、概ね同じ傾向であった。（第 46 回衆院選：全体では自民党 33.6%・民主党 10.7%、性別では民主党：男性 11.5%・女性 9.9%、自民党：男性 35.7%・女性 31.7%）

（2）保革イデオロギー

日本政治研究では長い間「保守－革新」の次元で人々の意識や政党の政策的立場を測定してきた。近年、「保守－革新」というイデオロギー次元の有用性が疑問視されることもあるが、今日においても有権者の意識を測定する指標として利用されている。「保守」と「革新」を一義的に定義することは難しいが、経済的側面における市場メカニズムの自立性重視－市場メカニズムの抑制重視、価値観における伝統的価値観と近代的価値観等、複数の要素が複雑に絡み合って構成されていると言ってよいであろう。

本調査では、「保守的とか革新的とかいう言葉が使われていますが、あなたご自身はこの中のどれにあたると思いますか」という質問で、有権者の保革イデオロギー認識を尋ねている。今回のデータを、第 20 回（平 16）以降のデータと比較するために一覧にしたのが図 7－1 である。第 20 回以降、若干の変動はあるものの、基本的に保革－イデオロギーの分布に大きな変化はないと思われる。ただ、今回は、前回に沿った軌道を辿っているが、「やや保守的」が 4.7 ポイント高く、「革新的」が第 20 回以降最も低くなっている。

図 7－1　イデオロギーの変化



	保守的	やや保守的	中間・わからない	やや革新的	革新的
第20回(平16)	3.5	14.4	47.9	18.3	16.0
第21回(平19)	3.3	11.6	49.1	20.9	15.0
第22回(平22)	12.2	21.0	47.7	15.4	3.6
第23回(平25)	9.4	25.7	47.5	14.1	3.3

次に比例代表選挙で得票率が高かった民主党、自民党、公明党、共産党、日本維新の会に投票した有権者の保革構図を図 7－2 にまとめた。

自民党へは「保守的」と考える人が 15.4%、「やや保守的」が 36.4%を占めている。反対に「やや革新的」は 7.4%、「革新的」は 1.8%で「保守的」、「やや保守的」を大きく下回る。「中間・わからない」は 39.0%で、他の党に比べて相対的に少ない。この結果、全体の構図（図 7－1）が「中間・わからない」をピークにした 3 角形であるのに対し、自民党は台形を形作っており、しかも中心線は左（「保守」の側）へ大きくシフトしている。

公明党は、全体の構図と同じ 3 角形で、「保守的」、「やや保守的」、「中間・わからない」、「やや革新的」、「革新的」の各割合も「全体」の数値に近い。

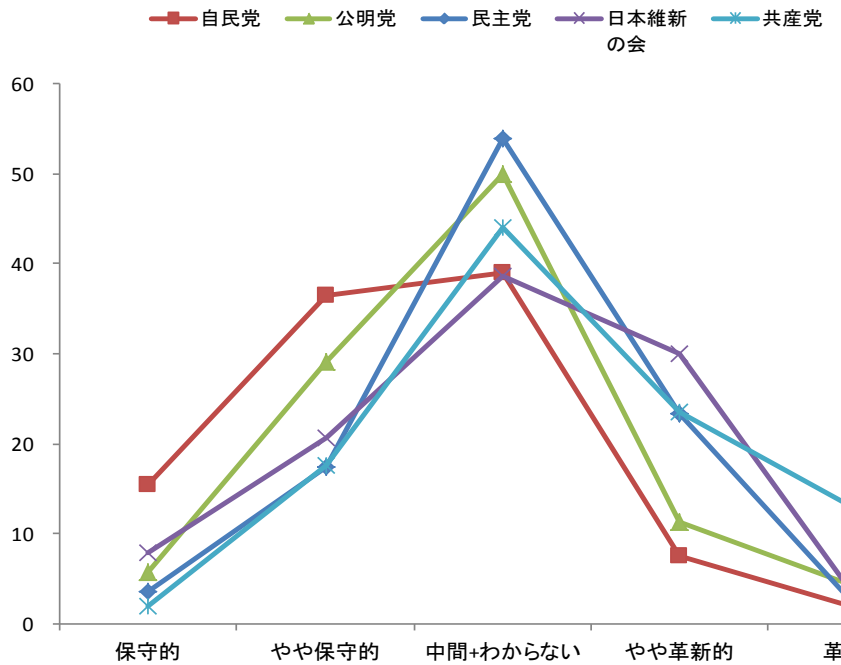
民主党も全体の構図と同じく 3 角形を示しているが、「中間・わからない」が他党に比較して最も多く、「やや革新的」も相対的に多い。反対に「保守的」「やや保守的」は相対的に少なく、この結果、3 角形のピークが高く、若干右（「革新」側）にシフトしている。

日本維新の会は、「中間・わからない」が相対的に少なく、「やや革新的」が他党に比較して最も多い。その結果、台形に近い形をしているが、自民党と異なり、右（「革新側」へシフトしている。

共産党は「革新的」が他の党に比較して突出して多く、逆に「保守的」は少ない。その結果、右にシフトした 3 角形を形作っている。

なお、みんなの党は図から除外してあるが、全体の保革構図とほぼ同じ形をしている。

図 7－2　投票政党内の保革構図（比例代表選挙）



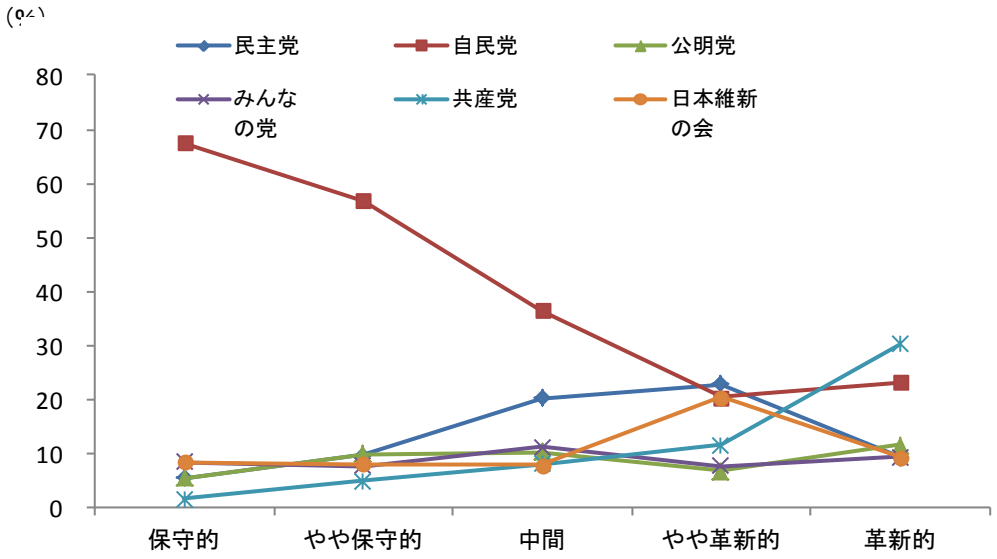
全体	9.4	25.7	47.5	14.1	3.3	100.0
自民党	15.4	36.4	39.0	7.4	1.8	100.0
公明党	5.6	29.0	50.0	11.3	4.0	100.0
民主党	3.5	17.3	54.0	23.3	2.0	100.0
日本維新の会	7.9	20.7	38.6	30.0	2.9	100.0
共産党	2.0	17.6	44.1	23.5	12.7	100.0
みんなの党	9.2	23.5	50.4	13.4	3.4	100.0

＊上記の政党の並び順は比例代表選挙における得票順

図 7－3 は比例代表選挙における有権者の保革意識と投票政党との関係を、民主党、自民党、公明党、みんなの党、共産党、日本維新の会について見たものである。比例代表選挙における投票政党についての回答者のうち（Q10ＳQ9)、「白票を入れた」、「わからない」、「NA」を除き、各政党への投票割合を算出し、作成した。

自分のことを「保守的」、「やや保守的」、「中間」と考えている人は、いずれも自民党へ最も多く投票しているが、中でも「保守的」な人の投票傾向が最も高く、「革新的」に向かうほど投票傾向が低下する。但し、「革新的」と考えている人からも共産党に次ぐ支持を集めている。民主党は「やや革新的」ないし「中間」と考えている人の投票傾向が比較的高く、「保守的」は低い。共産党は「保守的」から「革新的」に向かうほど投票傾向が高くなり、「革新的」な人の中で最も高い支持を得ている。日本維新の会は「やや革新的」な人の投票傾向が比較的高く、民主党と同様の支持を得ている。公明党とみんなの党は、「保革イデオロギー」に関しては特別な傾向は見られない。

図 7－3　保革意識と投票政党（比例代表選挙）



自民党	67.4	56.9	36.5	20.4	23.3	40.9
公明党	5.4	9.9	10.3	6.8	11.6	8.8
民主党	5.4	9.7	20.2	22.8	9.3	13.5
みんなの党	8.5	7.7	11.2	7.8	9.3	8.9
共産党	1.6	5.0	8.1	11.7	30.2	11.3
日本維新の会	8.5	8.0	7.9	20.4	9.3	10.8
その他の党	3.1	2.8	5.7	10.2	7.0	5.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

＊Q10ＳQ9 の選択肢「白票を入れた」、「わからない」、「ＮＡ」の他、「棄権者」を除いて計算した。

（3）考慮した問題

本調査では、「今回の参院選では、どのような政策課題を考慮しましたか」(複数回答) という質問をして、19 の政策問題の中から当てはまるものをいくつでも選んでもらっている。この設問は、政治情勢に合わせて毎回選択肢が修正されるので、厳密な時系列の比較を行うことは難しい。そこで、各問題を回答者が選択した割合の順序を利用して、大まかに変化をとらえてみたい。

最も考慮された問題は、「景気対策」の 54.7%であった。この選択肢は前回までは「景気・雇用」としており、今回は「景気対策」と「雇用対策」に分けたが、それでも第一位になった。以下、「年金」の 43.4%、「医療・介護」の 42.1%、「消費増税」の 32.0%（前回までは税金問題）と続く。順位や選択率に差はあるものの、過去の調査においてもこれらは上位 5 位以内に入っている。今回新たに加わった「原発エネルギー」は第 5 位(27.8%)、「震災からの復興」は第 8 位(24.8%)となっている。前回までの「防衛問題」と「国際・外交問題」を合わせた「外交・防衛」、及び「憲法改正」が前回より増加している。

表 7－4　考慮した問題（複数回答）

	第21回	%	第22回	%	第23回	%
1	年金問題	69.7	景気・雇用	54.6	景気対策	54.7
2	医療・介護	48.8	医療・介護	48.7	年金	43.4
3	税金問題	37.6	年金問題	48.7	医療・介護	42.1
4	高齢化対策	34.6	税金問題	37.2	消費増税	32.0
5	景気・雇用	27.7	財政再建	24.9	原発・エネルギー	27.8
6	教育問題	22.1	政権のあり方	23.3	子育て・教育	25.1
7	少子化対策	18.8	政治資金問題	21.6	雇用対策	25.1
8	憲法問題	13.8	少子化対策	21.0	震災からの復興	24.8
9	環境・公害問題	13.4	教育問題	19.1	財政再建	22.4
10	政権のあり方	12.7	所得格差	17.4	外交・防衛	17.4
11	財政再建	12.6	行政改革	17.0	憲法改正	15.6
12	防衛問題	11.2	物価	16.5	ＴＰＰへの参加	11.6
13	政策は考えなかった・わからない	10.3	環境問題	12.7	防災対策	9.1
14	行政改革	10.1	防衛問題	11.3	行政改革・地方分権	7.5
15	地域活性化	10.0	国際・外交問題	9.9	政策は考えなかった・わからない	5.8
16	治安対策	8.7	中小企業対策	9.0	治安対策	5.0
17	災害対策	8.6	地方分権・地域主権	8.3	選挙制度	4.3
18	政治倫理	8.0	農林漁業対策	7.3	社会資本整備・公共事業	3.7
19	国際・外交問題	7.8	災害対策	6.5	その他	1.0
20	農林漁業対策	6.5	憲法問題	6.0		
21	中小企業対策	6.3	治安対策	5.4		
22	食糧問題	6.3	政策は考えなかった・わからない	4.2		
23	地方分権	6.2	社会資本整備	2.7		
24	土地・住宅問題	3.4	土地・住宅問題	2.1		
25	社会資本整備	2.2	その他	0.5		
26	その他	1.0				

今回の調査について、回答者を年代別に三つに分けて再集計を行った結果が表 7－5 である。景気対策については、20～30 歳代、40～50 歳代で最も選ばれており、60 歳以上でも上位に位置している。年金と医療・介護については、年代が高くなるほど考慮する順位が高まっている。一方、子育て・教育、雇用対策については年代が若くなるほど順位が上がる。

表 7－5　年代別考慮した問題

（%）

	20−30歳代		40−50歳代		60歳以上	
1	景気対策	51.5	景気対策	61.1	年金	58.4
2	子育て・教育	38.0	年金	40.4	医療・介護	56.5
3	消費増税	33.2	医療・介護	37.2	景気対策	51.8
4	雇用対策	27.1	消費増税	32.1	消費増税	32.0
5	医療・介護	24.8	原発・エネルギー	30.9	原発・エネルギー	30.5
6	年金	22.7	雇用対策	28.9	震災からの復興	26.5
7	原発・エネルギー	21.4	震災からの復興	26.3	財政再建	24.3
8	震災からの復興	20.8	子育て・教育	25.8	雇用対策	21.7
9	財政再建	16.2	財政再建	25.8	外交・防衛	20.5
10	外交・防衛	13.4	外交・防衛	17.3	憲法改正	18.1

（4）生活と政治への満足度

本調査では従来から、生活と政治に対する満足度を調査しているが、これまでの全ての調査で生活満足度は政治満足度よりも高くなっている。図 7−4 は、生活に対する満足度及び政治に対する満足度の「大いに満足している」と「だいたい満足している」を合算した数値の推移をグラフ化したものである。これを見ると生活満足度（55.2%）は、直近の国政選挙であった第 46 回衆院選（45.4%）より 9.8 ポイント増えているものの、前回の参院選（64.5%）と比較すると 9.3 ポイント低い。

一方、政治満足度については、前回の参院選で 11.9%まで下降したが、第 46 回衆院選（14.4%）、及び今回（19.0%）と上昇してきている。しかし、20%に充たない低レベルにある。

図 7−4　生活満足と政治満足

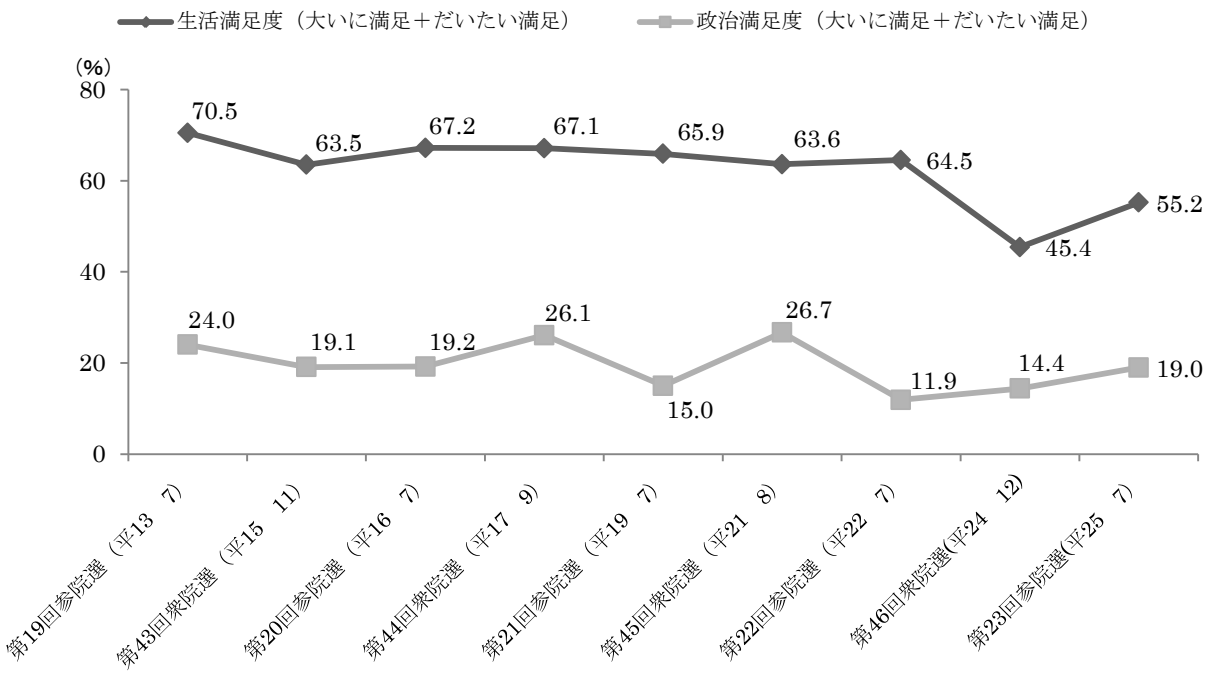


表 7－6 は、社会的属性と政治満足度との関係を示したものである。男女別で見ると、前回と同様、男性の満足度（「大いに」＋「だいたい」）が女性を若干上回っている。年代別で見ると、50 歳代の 10.9%が最も低く、次いで 40 歳代の 11.9%が続く。反対に 60 歳代の 19.0%から 80 歳以上の 36.6%にかけて満足度は上昇する。不満足度（「やや」＋「大いに」）は 50 歳代の 84.1%が他に比べて最も高く、次いで 40 歳代の 82.3%となっている。

学歴との関係では、15～21%と満足度はいずれも低い。不満足度では 78.2%の短大・高専・専修学校卒が最も高いが、他も数ポイント低い程度となっている。高学歴ほど政治に対する不満が高まる傾向が見られる（中学校卒 69.1%、高校卒 76.9%、短大・高専卒 78.2%、大学・大学院卒 75.5%）。

表 7－6　社会的属性と政治満足度

%

	大いに満足している	だいたい満足している	やや不満足である	大いに不満足である	わからない	NA
全体	0.2	17.4	48.3	27.2	6.3	0.4
男性	0.3	18.2	47.2	29.5	4.6	0.2
女性	0.1	17.0	49.7	25.0	7.6	0.7
20歳代	0.0	15.4	46.3	23.9	14.4	0.0
30歳代	0.3	17.4	44.1	31.3	6.9	0.0
40歳代	0.0	11.9	51.0	31.3	5.8	0.0
50歳代	0.0	10.9	51.1	33.0	4.6	0.3
60歳代	0.5	18.5	49.7	28.2	2.5	0.7
70歳代	0.3	24.6	50.9	15.2	7.6	1.4
80歳以上	0.0	36.6	36.6	21.8	5.0	0.0
中学校卒	0.0	21.7	49.8	19.3	8.4	0.8
高校卒	0.2	15.9	48.4	28.5	6.5	0.5
短大･高専･専修学校卒	0.0	15.3	50.0	28.2	6.3	0.3
大学･大学院卒	0.6	20.0	47.2	28.3	3.7	0.2

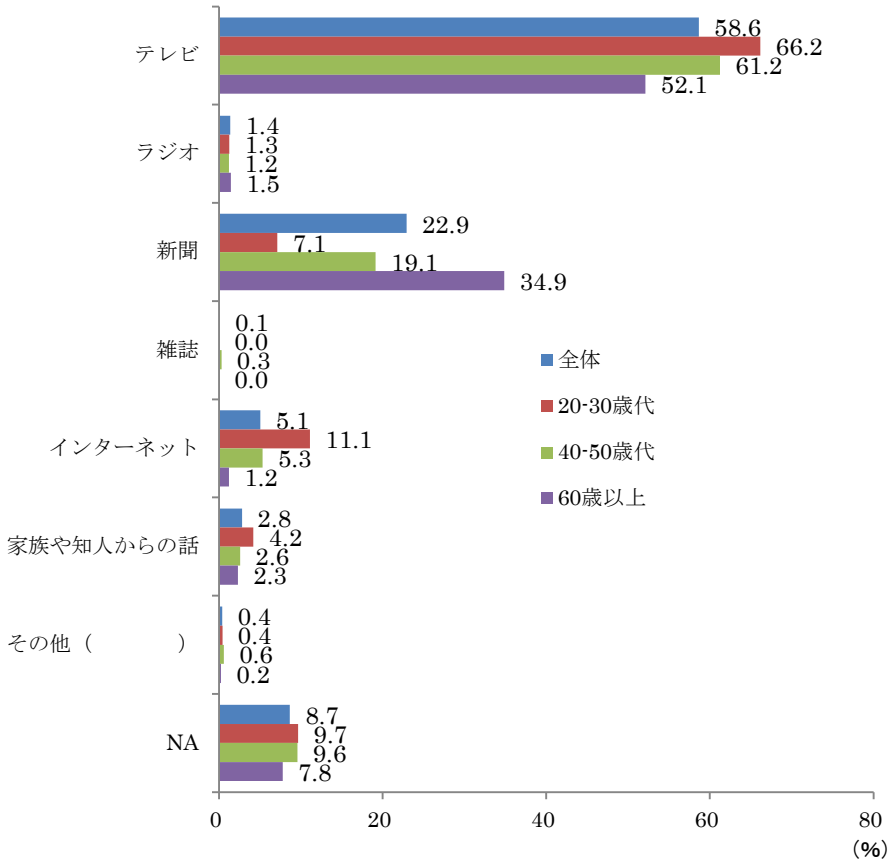
８　選挙関連情報源

（１）政治・選挙に関する情報の入手元

有権者は日ごろ、政治や選挙の情報をどこから得ているのか。本調査では「あなたは、政治、選挙に関する情報を主に何から得ていますか」と尋ね、６つの選択肢から選んでもらっている。その結果を年代ごとに図８−１にまとめた。

政治・選挙に関する主たる情報源はテレビであり、各年代とも過半数を占めている。中でも 20 代・30 代は 66.2%が「テレビ」を挙げており、「インターネット」を挙げた者は 11.1%、「新聞」を挙げた者は 7.1%にすぎない。若者のテレビ離れが言われているが「政治・選挙」に関する情報原としてはテレビの役割が大きいことがわかる。年齢が上がるごとに「テレビ」は減少しているがこれは「新聞」を主な情報源とする人が増えるからであり、60 歳以上は新聞が 34.9%を占めている。

図８－１　政治・選挙の情報の入手元



（2）選挙運動への接触度と有用度

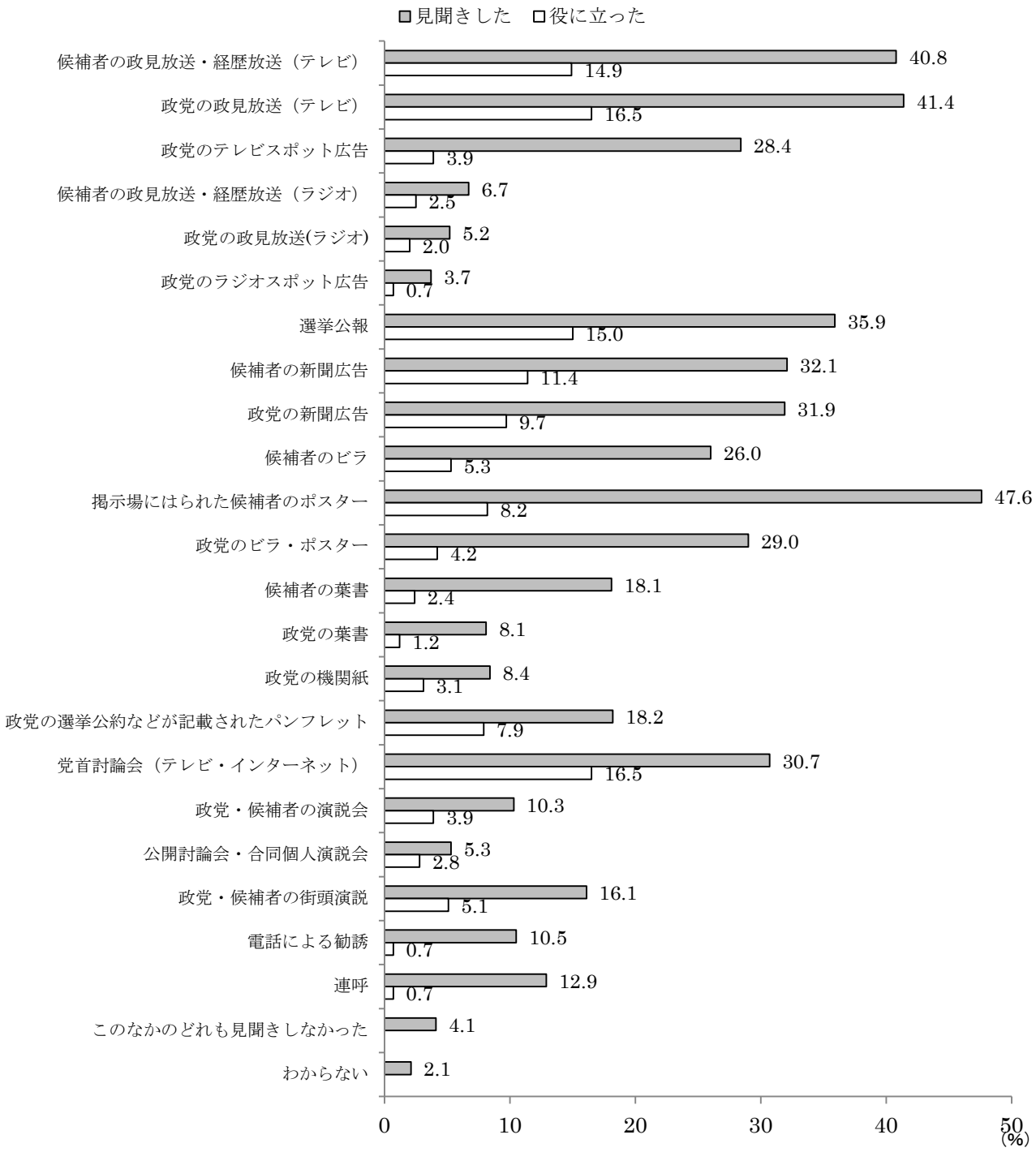
有権者は今回の参院選では、どのような選挙運動媒体に接触したのだろうか。本調査では、政党や候補者の情報提供と働きかけについて質問している。具体的には、22 の媒体を列挙して、調査対象者が「直接見たり、聞いたり」したものすべてを選択してもらっている（接触度）。また、その中で役に立ったもの全てを選択してもらっている（有用度）。

その結果、特に接触度が高い媒体は、「掲示場にはられた候補者のポスター」（47.6%）、「政党の政見放送（テレビ）」（41.4%）、「候補者の政見放送・経歴放送（テレビ）」（40.8%）、「選挙公報」（35.9%）、「候補者の新聞広告」（32.1%）、「政党の新聞広告」（31.9%）、「党首討論会（テレビ・インターネット）」（30.7%）である（図 8－2）。その他は、選択率が 30%以下となっている。

有用度は、接触度の度合いよりもかなり低い。基本的な傾向として、接触度が高い媒体ほど有用度も高い傾向にある。有用度が高い媒体としては、「政党の政見放送（テレビ）」（16.5%）、「党首討論会（テレビ・インターネット）」（16.5%）、「選挙公報」（15.0%）、「候補者の政見放送・経歴放送（テレビ）」（14.9%）、「候補者の新聞広告」（11.4%）などであり、その他の役に立った媒体の選択率は 10%以下となっている。

「党首討論会（テレビ・インターネット）」は、接触度は 30.7%ではあるが、接触した人の半数以上（全体で 16.5%）が役に立ったと回答している。同じように「公開討論会・合同個人演説会」（接触度 5.3%、有用度 2.8%）に接触した人も半数が役に立ったと回答している。半数に届かなかったが、「選挙公報」（接触度 35.9%、有用度 15.0%）や「政党の政見放送（ラジオ）」（接触度 5.2%、有用度 2.0%）も接触した人にとっては役立った情報源と言えよう。

図８－２　選挙運動への接触度と有用度（複数回答）



（3）投票参加促進媒体への接触

次に、選挙啓発媒体への接触を見ていく。「今回の参院選で総務省や都道府県・市区町村の選挙管理委員会及び明るい選挙推進協議会等が「投票に参加しましょう」という呼びかけを行いましたが、下記の中で見たり聞いたりしたものがありますか。」(複数回答)　という質問への回答結果を年代ごとにまとめた（表 8)。

全体~~世代~~の選択率が 20%を超えるのは、「テレビスポット広告」（45.3%)、「新聞広告」（40.4%)、「国や都道府県、市区町村の広報紙」（25.6%)、「都道府県、市区町村などの広報車」（21.1%）で、順番の違いはあるが、前回の調査と変わらない。但し、「テレビスポット広告」は前回よりおよそ 5 ポイント減少している。「インターネット上での広告・ホームページ」は、前回より増えているが、5.8%にすぎない（前回 3.8%)。

次にこれらの媒体への接触状況を、投票率の低い 20～30 歳代と高い 60 歳以上で対比して見ると、ほとんどの媒体で 20～30 歳代の接触度は低く、特に新聞広告、広報紙などの活字媒体は、その差が大きい。20～30 歳代の方が接触率の高い媒体は、インターネット上での広告（20-30 歳代 11.3%、60 歳以上 2.8%)、コンビニのレジ画面（20～30 歳代 3.9%、60 歳以上 0.9%）など限られている。

表８　投票促進広告への媒体別・年代別接触率

(%)

	全体( )は前回値	20-30歳代	40-50歳代	60歳以上
テレビスポット広告	45.3(50.0)	37.6	36.1	52.1
新聞広告	40.4(39.8)	22.1	31.8	53.1
国や都道府県、市区町村の広報紙	25.6(23.3)	12.6	18.2	36.7
都道府県・市区町村などの広報車（候補者の選挙運動用自動車は含まない）	21.1(23.4)	10.3	15.6	29.6
啓発ポスター	16.0(18.2)	14.3	15.8	14.8
立看板、広告塔、たれ幕、アドバルーン	12.0(13.3)	6.9	10.0	15.3
交通広告（車内・駅・バス）	11.1(10.1)	11.1	8.9	11.1
ラジオスポット広告	6.7(7.2)	4.8	6.1	7.4
街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン	6.2(5.2)	7.6	4.7	6.2
インターネット上での広告（バナー、動画広告等）・ホームページ	5.8(3.8)	11.3	4.6	2.8
雑誌広告（フリーペーパーを含む）	3.2(3.9)	2.7	2.8	3.4
有線放送	3.1(2.5)	2.1	2.1	4.3
電光掲示板、大型映像広告、ショッピングセンターなどでのアナウンス	1.8(1.7)	1.1	1.1	2.7
コンビニのレジ画面	1.3(1.1)	3.6	0.4	0.9
その他	1.2(1.6)	1.9	0.9	1.0
銀行などのＡＴＭ	0.7(1.3)	0.6	0.6	0.9
見聞きしなかった	15.2(20.4)	26.1	13.9	7.2

９　選挙制度関連

（１）インターネット選挙運動の解禁

平成２５年４月１９日に、インターネット選挙運動解禁に係る公職選挙法の一部を改正する法律が成立、７月（今回）の参議院選挙から政党・候補者はインターネット上での選挙運動が行えるようになった。これに伴い、本調査でも有権者のインターネット選挙運動への接触等についての質問をいくつか行った。まず、「あなたは今回の参院選に関して、インターネットをどのように利用しましたか」と尋ね、６つの選択肢から該当するものをすべて選んでもらった（表 9）。その結果、8.5%が「政党や候補者のＨＰ・ブログ・SNS を見た」、1.1%が「政党や候補者のメルマガを受信した」と回答したが、何らかの方法で利用した人は 10.2%に留まり、ほとんどの調査対象者は「利用しなかった」（74.0%）と回答した。「わからない・NA」を含めると 90.7%にのぼる。

何らかの活用をした者を年代別にみると、20～30 歳代が 18.2%、40～50 歳代は 12.3%、60 歳以上が 3.9%となった。20～30 歳代の若年層世代においても 20%に満たない。インターネットの特性でもある「双方向性」を活用した候補者と有権者の接触はほとんど見られていない。

表９　インターネット選挙運動の利用（複数回答）

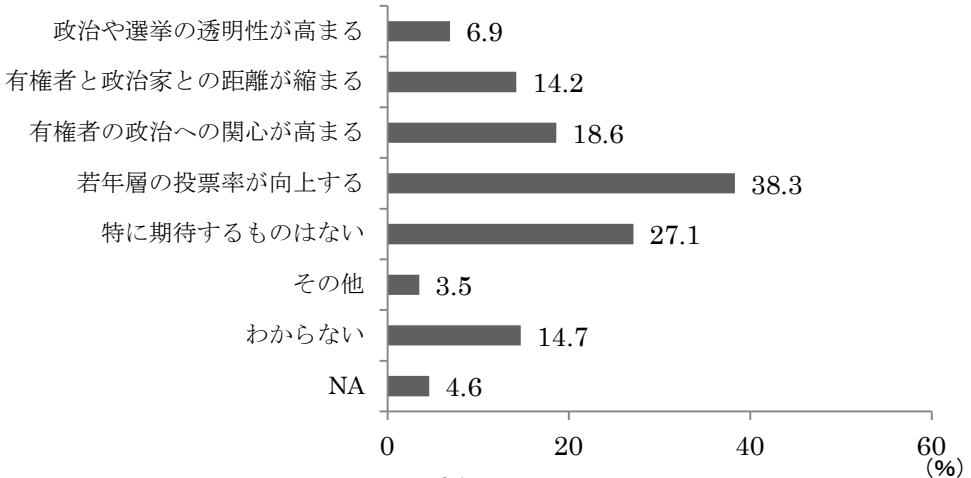
（%）

	全体	20-30歳代	40-50歳代	60歳以上
政党や候補者のHP・ブログ・SNSを見た	8.5	16.6	9.9	2.9
政党や候補者のメルマガを受信した	1.1	0.8	1.8	0.7
自らのブログやSNSで特定の政党や候補者、政策を応援などした	0.5	0.8	0.4	0.2
政党や候補者とネットを介して交流した	0.1	0.0	0.1	0.1
小計	10.2	18.2	12.3	3.9
利用しなかった	74.0	78.0	81.3	65.4
わからない・NA	16.7	3.7	6.4	30.6

（２）インターネット選挙運動の今後

次にインターネットを使用した選挙運動について、どのようなことが今後期待できるか、全員に尋ねた（図 9－1）。最も選択されたのは 38.3%の「若年層の投票率が向上する」、次いで 18.6%の「有権者の政治への関心が高まる」、14.2%の「有権者と政治家との距離が縮まる」が続く。

図 9－1　今後のインターネット選挙運動に期待できること（複数回答）



（3）インターネット選挙運動接触者の投票行動

最後にインターネット選挙運動を利用・接触した人としなかった人の投票参加率を年代ごとに見てみる。今回の参院選で有権者はインターネットをどのように利用したのかを尋ねた（複数回答）。ここでは表 9 の調査結果のうち「利用しなかった」「わからない」を除いた 4 つの選択肢を「インターネット選挙運動を利用・接触した」という一つの選択肢にまとめて、「利用しなかった人」との投票参加率の違いを見ることにする。まず、20～30 歳代を見てみると、ネット選挙運動を利用・接触した人の投票参加率は、利用しなかった人の投票参加率より 20.9 ポイント高い。40～50 歳代も利用した人の方が利用しなかった人より 16.7 ポイント高い結果となっているが、60 歳以上では投票参加率に違いは見られなかった。

今回はインターネット選挙運動解禁後、初の選挙であったため、候補者側、有権者側もその扱いに慣れていなかったことは否めない。インターネット上の情報は「プル情報」で、関心がなければ見には行かない。情報を提示する側、すなわち政党や候補者は、選挙時に限らず日常の政治活動を通じて、いかに有権者の関心を引き寄せる内容を発信するかの工夫が求められる。

図 9－2　インターネット選挙運動への接触と投票参加率（20～30 歳代）

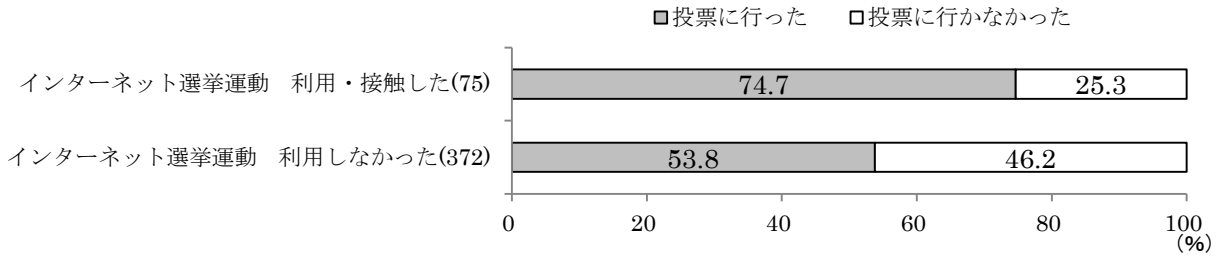


図 9－3　インターネット選挙運動への接触と投票参加率（40～50 歳代）

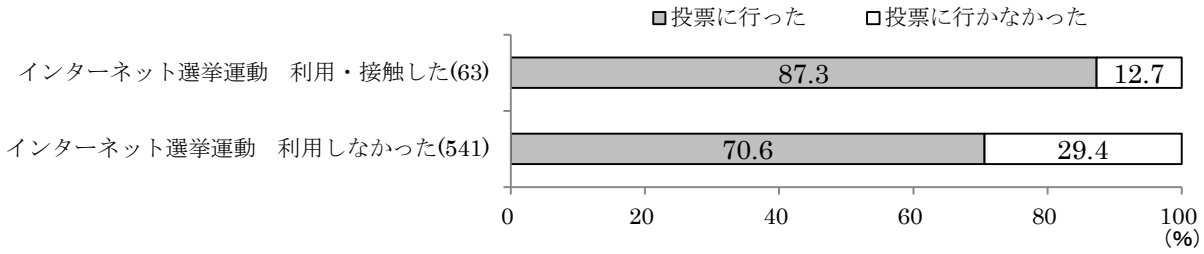
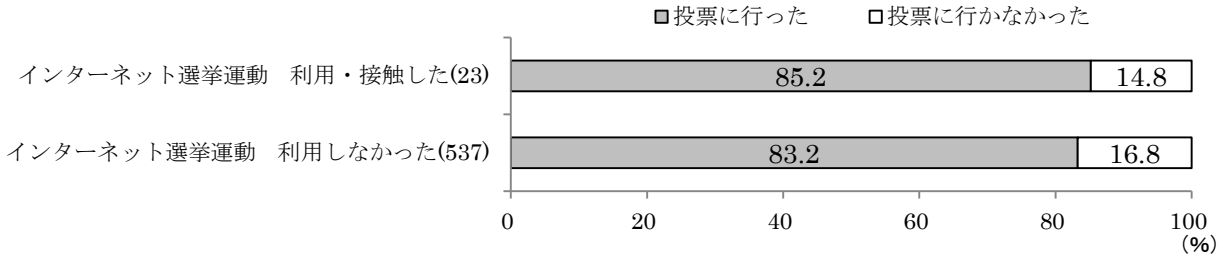


図 9－4　インターネット選挙運動への接触と投票参加率（60 歳以上）



＊上記の図 9－2～4 の「インターネット選挙運動 利用・接触した」は、「政党や候補者のＨＰ・ブログ・ＳＮＳを見た」「政党や候補者のメルマガを受信した」「自らのブログやＳＮＳで特定の政党や候補者、政策を応援または批判した（拡散を含む）」「政党や候補者とネットを介して交流した」の 4 つの選択肢をまとめた。

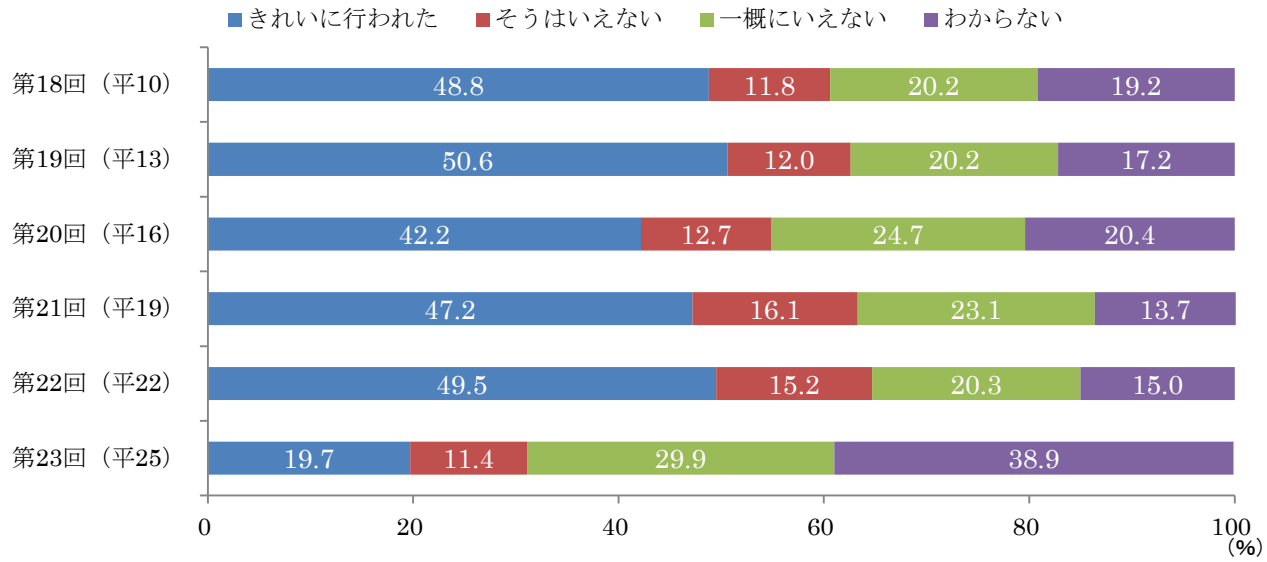
10　清潔度の印象

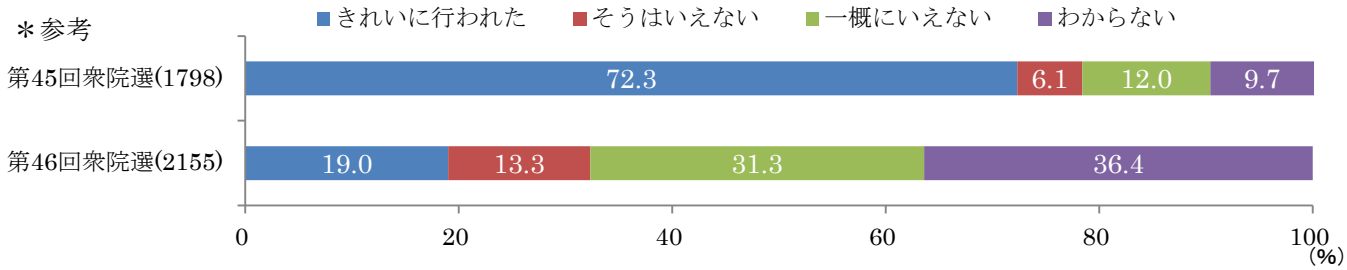
本調査では、「今回の参院選は、全体としてきれいな選挙が行われたと思いますか」という質問を継続的に行っている。今回の調査では 19.7%が「明るくきれいに行われた」、11.4%が「そうはいえない」、29.9%が「一概にいえない」、そして、38.9%が「わからない」と回答している。

第 18 回参院選が行われた平成 10 年以降の推移を見ると（図 10）、「明るくきれいに行われた」と答える割合は前回の参院選まで大きな変動はなかったが、今回は一転し、最低値となった。また、「わからない」と回答した人は 38.9%とこれまでの調査の中で最も多い。

この結果は、調査方法の違いが要因として挙げられる。前述のとおり、一昨年の第 46 回衆院選も今回の参院選調査と同じくそれまでの面接調査法から郵送調査法に変更した。その際も選挙の印象を尋ねているが、今回の調査結果と同じく、「明るくきれいに行われた」が大きく減少し、「わからない」が大きく増加していることから、調査方法の違いがもたらした結果であると考えられる。

図 10　清潔度の印象





第 23 回参議院議員通常選挙全国意識調査

－調査結果の概要－

平成 26 年 4 月

公益財団法人 明るい選挙推進協会
住所　東京都千代田区一番町 13-3　ラウンドクロス一番町 7 階
電話　03-6380-9891
Fax　03-5215-6780
Mail　akaruisenkyo@mua.biglobe.ne.jp